



NAGA SUNA DAI 3

# 長砂第3遺跡

1999. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

## 序

当事業団ではこの度都市計画公園東山公園整備事業に伴い、平成10年度は長砂第3遺跡の発掘調査を行ってまいりました。調査の結果、長砂第3遺跡では米子市内では数少ない古墳時代前期から中期にかけての集落跡を確認されました。その他土器等多量の遺物も出土し、古墳時代の生活の一端を知るうえで貴重な資料を提供するものと考えられます。

本発掘調査の成果が、今後の調査研究および教育のために広く活用され、一般の方々に埋蔵文化財に対する理解、関心を高めていただくうえでの一助となれば幸いに存じます。最後になりましたが、調査に際し多大なご理解とご協力をいただきました地元の方々をはじめ、ご指導、ご支援を賜りました方々、関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成11年3月

財團法人 米子市教育文化事業団

理事長 森田 隆朝

## 例　　言

- 本書は財団法人米子市教育文化事業団が平成10年度に実施した鳥取県米子市長砂第3遺跡にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 出土遺物は米子市教育委員会で保管している。
- 本書の編集及び執筆、図面の浮書等は米子市教育文化事業団がこれを行った。
- 調査の組織は下記のとおりである。

調査委託 米子市公園街路課

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

調査担当 平木裕子・佐伯純也(財団法人米子市教育文化事業団調査員)

調査補助員 森田静香・森井あすさ・福嶋昌子

(財団法人米子市教育文化事業団臨時職員)

調査指導・協力 米子市教育委員会

- 調査において多くの方々から御指導、御協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

足立 克己 W・エドワーズ 置田 雅昭 金原 正明 桑原 久男 高妻 洋成

中川 家寧 菱田 哲郎 深田 浩 村上 隆 山内 紀嗣 山田 邦和

### 作業関係者

岩指 澄 梅林 明子 浦上 朱美 浦木 煉 逸崎 孜子 大下 潤子

大塚 充子 加川 都 加藤カホル 加藤 曜己 金山勢津子 木京 千尋

倉敷みさ子 近藤 智子 近藤由美子 西古江美子 桜田 孝具 桜田美智子

塙貝 泰洋 仙田 雄二 竹中 光世 高塙 敬子 田中 恵子 虎尾 一明

内藤 祐介 中山 麻 西 淳夫 野津 正速 原 満留 平野 昭子

福田 淳 船越 典子 綾田 恵美 前田 光江 渡伸 一郎 宮野 裕介

本吉 洋子 森安 露 矢野 早苗 山根 久代 渡部 安子 青戸 千秋

伊田 美紀 入沢美智子 大江由美子 加藤 正子 柴田英理奈 島本美奈子

下高満智子 高橋真由美 仲田いづみ 長尾かおり 渡田 博美 福留 悅子

宮田 紀子 安江満つ美 矢野 有里

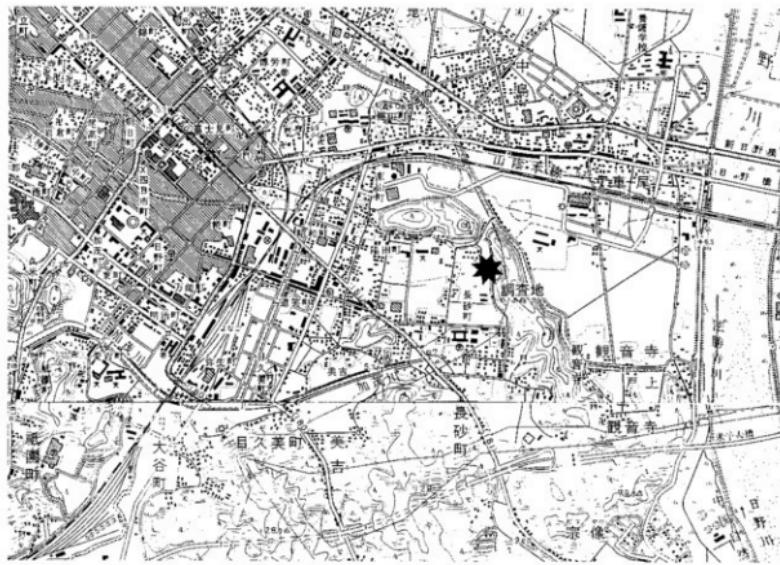
# 目 次

序

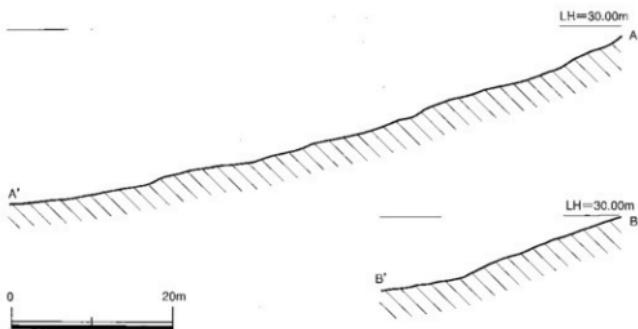
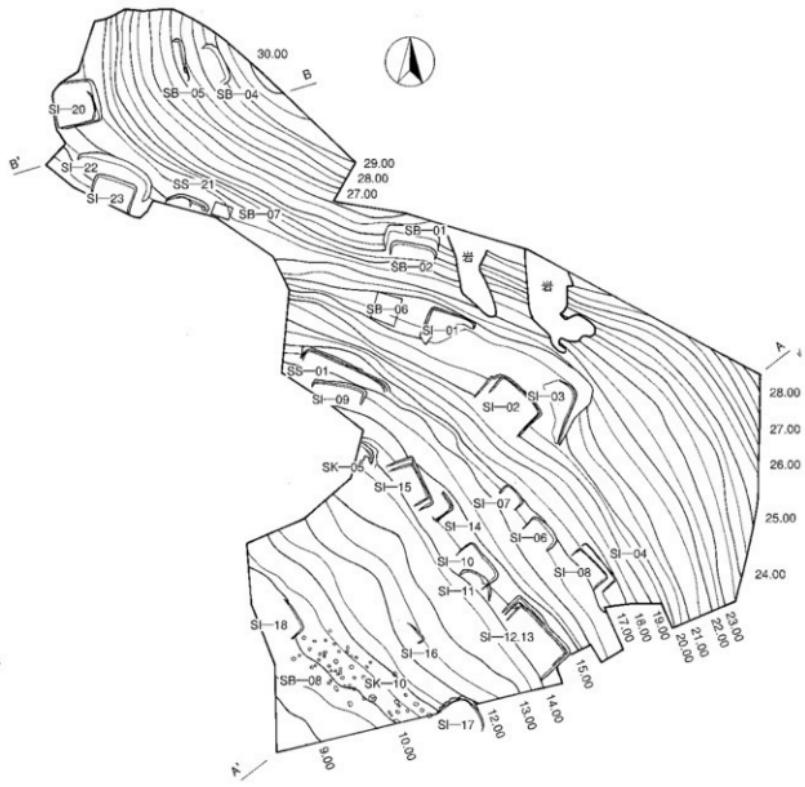
例言

目次

I 調査の概要 .....	2
II 通構について .....	2
1 竪穴住居跡 .....	2
2 テラス状造構 .....	19
3 掘立柱建物跡 .....	19
4 陥し穴 .....	23
III 遺物について .....	23
1 繩文晩期から弥生前期の土器 .....	23
2 弥生中期から後期の土器 .....	23
3 土師器 .....	24
4 須恵器 .....	24
5 石製品 .....	25
6 鉄・銅製品 .....	26
IV 小結 .....	25



第1図 長砂第3遺跡調査位置図 (1/2,500)



第2図 調査全体図および断面図 ( $S=1/60$ )

# I 調査の概要

長砂第3遺跡は米子市長砂町20番地他に位置する。今回の調査は昨年度調査した長砂第3遺跡の継続調査である。調査は都市計画公園東山公園整備事業に伴う調査で、現地調査は平成10年4月20日から始まり、平成10年10月14日までを行い、調査面積は約5,000m<sup>2</sup>であった。

調査地は米子駅の東約1.5kmの米子市長砂町に位置し、標高50mの丘陵の西斜面に立地する。斜面上部では表土も含めて約20~30cmの堆積しかなかったが、裾部に向かって堆積は厚くなり約2.4mであった。調査は南側斜面から順次北側斜面に移り、斜面上部から裾部に向かって掘り下げていった。

調査の結果、遺構としては竪穴住居跡・掘立柱建物跡・総柱建物跡・テラス状遺構・陥穴を検出し、遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石鏃・石斧・砥石・小玉・菅玉・勾玉・銅鏡・銅錢等が出土した。

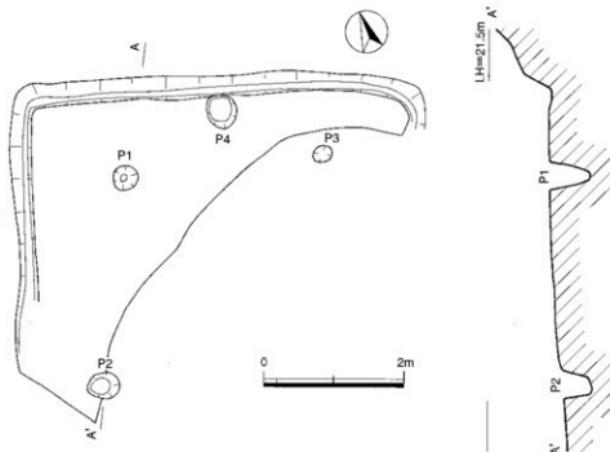
# II 遺構について

## 1. 竪穴住居跡

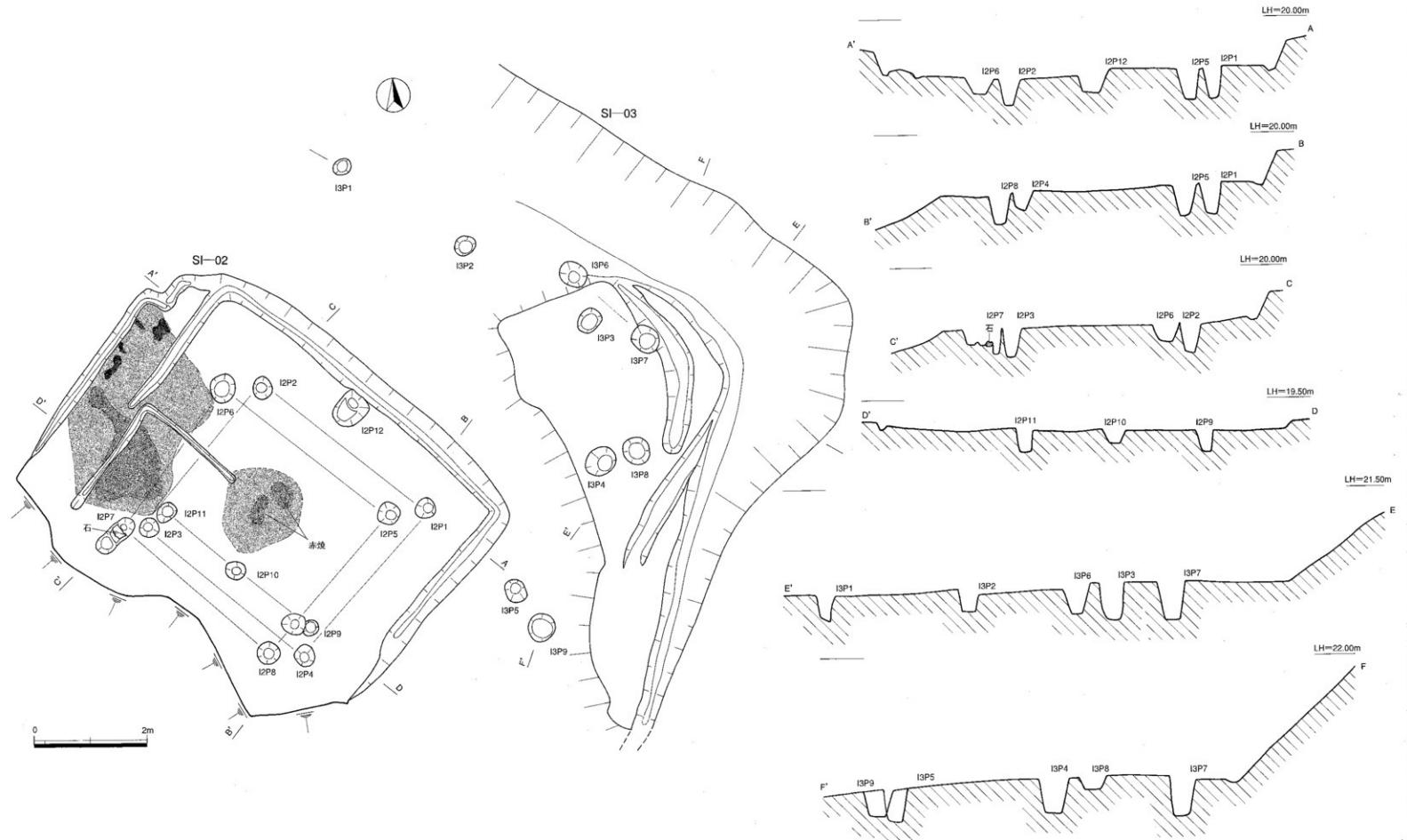
全部で21棟を検出したが、斜面立地ということで住居は全て谷側が流失しており、完全な形で検出されたもののはなかった。またSI-10を除く20棟については、住居に伴う遺物が少なく詳細な時期決定を行うことができないが、その形態からほぼ同時期と思われ、古墳時代中期を中心として古墳時代前期まで漸るものと考えられる。

SI-01（第3図） 残存床幅5.4m・残存奥行3.8m・最大壁高0.38m・床面標高20.6m・残存床面積11.4m<sup>2</sup>で、S18°W方向を向く。柱穴は3穴でP1（34cm×38cm-39cm）、P2（48cm×36cm-56cm）、P3（30cm×23cm-φ47cm）、柱間はP1-P2（3.0m）、P1-P3（2.8m）である。奥壁中央部に48cm×42cm-27cmの土壇P4を検出した。床面には壁に沿って幅約16cm、深さ8cmの溝を巡らす。

遺物は床面から土師器甕（第29図No.156）、土師器环（第41図No.410）、須恵器环蓋（第46図No.533）が出土した。



第3図 SI-01平面図および断面図



第4図 SI-02・03 平面図および断面図 (S=1/60)

SI-02（第4図） 床幅6.0m・残存奥行4.2m・最大壁高0.52m・床面標高19.1m・残存床面積32.4m<sup>2</sup>で、S 43°W方向を向く。本住居は北側に幅0.8m奥行3.5mの拡張の跡が見られる。柱穴はいくつか検出したが、本住居に伴うものはP 1 (36cm×32cm-70cm)、P 2 (39cm×34cm-46cm)、P 3 (34cm×34cm-50cm)、P 4 (40cm×34cm-34cm)及び、P 5 (40cm×37cm-66cm)、P 6 (51cm×44cm-30cm)、P 7 (81cm×32cm-47cm)、P 8 (40cm×38cm-55cm)の2種分と思われる。この他P 9 (30cm×27cm-36cm)、P 10 (37cm×32cm-23cm)、P 11 (39cm×28cm-38cm)等の柱穴列も検出しているが、おそらくは本住居以外の住居のものと考えられる。柱間はP 1-P 2 (3.65m)、P 2-P 3 (3.2m)、P 3-P 4 (3.65m)、P 4-P 1 (3.45m)、P 5-P 6 (3.75m)、P 6-P 7 (3.05m)、P 7-P 8 (3.4m)、P 8-P 5 (3.3m)、P 9-P 10 (1.65m)、P 10-P 11 (1.6m)である。床面には壁に沿って幅約20cm、深さ8cmの側溝を巡らす。奥壁際床面中央に62cm×52cm、深さ40cmの土壌P 12を検出した。その他SI-03及び周辺において柱穴痕を多数検出しているが、建物を復元することはできなかった。しかし遺物からみて中世の構造があった可能性は考えられる。遺物は破片であるが、土師器甕（第31・33・36・37・39図№191・232・279・286・287・305・333）、須恵器坏蓋（第46図№534・535）、須恵器高环（第49図№644）、須恵器甕（第50図№675）、磁石（第57図№768）が出土している。古墳時代中期から後期のものと考えられる。その他上層で土師器鉢（第39図№339）、土師質皿（第44図№466-473）、土師質坏（第45図№509-511）が出土している。

SI-03（第4図） 北東側角部が残っているだけであるが、柱穴等から床幅8m・残存奥行7m・最大壁高1.6m以上を測る大型住居の可能性が考えられる。床面標高19.9m・残存床面積18.3m<sup>2</sup>で、S 33°W方向を向く。床には壁に沿って幅30~40cm、深さ7cmの側溝が残る。溝は一部で二重に検出しておき建替が行われたと思われる。これに伴ってP 1 (34cm×27cm-45cm)・P 2 (38cm×34cm-37cm)・P 3 (46cm×37cm-64cm)・P 4 (58cm×48cm-60cm)・P 5 (44cm×35cm-53cm)及び、P 6 (52cm×41cm-52cm)、P 7 (52cm×43cm-67cm)、P 8 (50cm×46cm-24cm)、P 9 (50cm×48cm-48cm)の2列の柱穴列が考えられる。柱穴間はP 1-P 2 (2.6m)・P 2-P 3 (2.6m)・P 3-P 4 (2.5m)・P 4-P 5 (2.7m)・P 6-P 7 (1.7m)・P 7-P 8 (2.0m)・P 8-P 9 (3.6m)である。

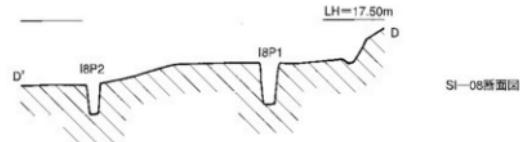
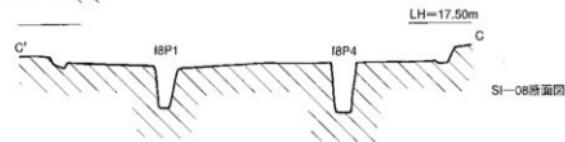
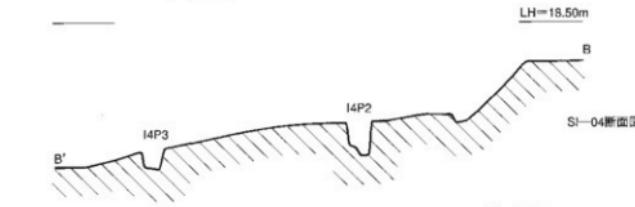
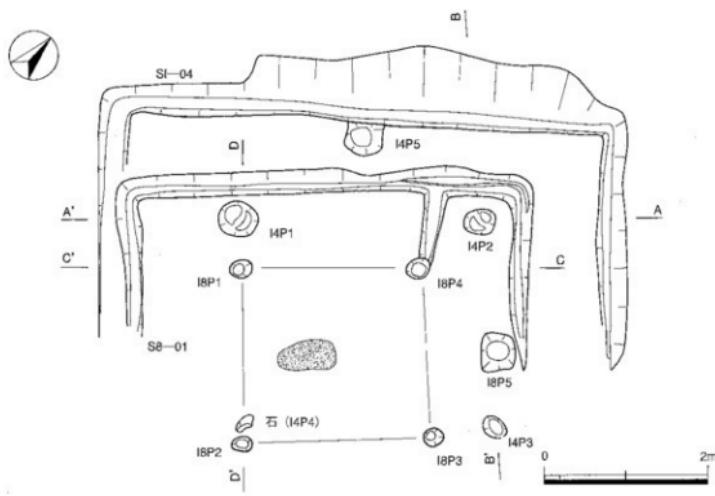
出土遺物は須恵器蓋坏（第47図№564）、須恵器坏身（第47図№581）、須恵器高环（第50図№670）、須恵器大甕（第51図№696）、土師質皿（第44図№474-476）、土師質坏（第45図№512-514）、柱状高台付坏（第45図№531）が出土している。時期的に幅があり、本住居に伴うものを断定し得なかつたため、正確な時期は不明であるが、古墳時代のものと考えられる。

SI-04（第5図） 床幅5.8m・残存奥行2.8m・最大壁高0.74m・床面標高17.3m・残存床面積18.4m<sup>2</sup>で、W 41°S方向を向く。床面には壁に沿って幅22cm、深さ6cmの側溝を巡らす。柱穴はP 1 (48cm×45cm-43cm)、P 2 (36cm×30cm-42cm)、P 3 (32cm×22cm-25cm)の3穴検出した。柱穴は確認できなかつたが、P 4にあたる位置に礫石ではないかと考えられる24cm×14cm大の石が残っていた。柱穴間はP 1-P 2 (3m)・P 2-P 3 (2.6m)・P 3-P 4 (3m)・P 4-P 1 (2.6m)である。奥壁中央床面に47cm×40cm、深さ34cmの土壌P 5を検出した。

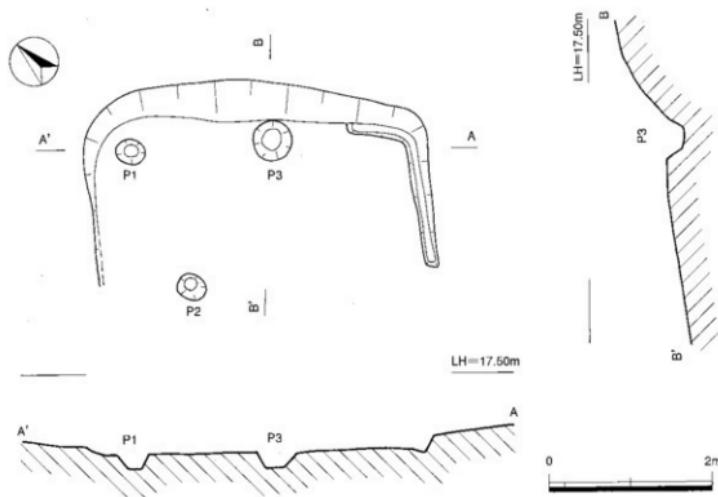
出土遺物は土師器甕（第38図№314・318）、土師器低脚坏（第41図№370）須恵器坏身（第48図№605）、須恵器高环（第49図№636・637）が出土し、時期は古墳時代中期である。

SI-05（第5図） SI-04を掘り下げたところで検出した住居跡である。床幅4.4m・残存奥行2.2m・最大壁高約0.27m・床面標高17m・残存床面積9.95m<sup>2</sup>で、S 45°W方向を向く。柱穴はP 1 (28cm×22cm-50cm)、P 2 (26cm×16cm-38cm)、P 3 (24cm×22cm-45cm)、P 4 (28cm×24cm-60cm)、柱穴間はP 1-P 2 (2.15m)、P 2-P 3 (2.3m)、P 3-P 4 (2.05m)、P 4-P 1 (2.2m)である。床面には壁に沿って幅14cm、深さ5cmの側溝を巡らす。また東壁側に幅46cm×40cm・深さ35cmの土壌P 5を検出しているが、他の住居で奥壁に見られた土壌と同じ性格のものかは不明である。

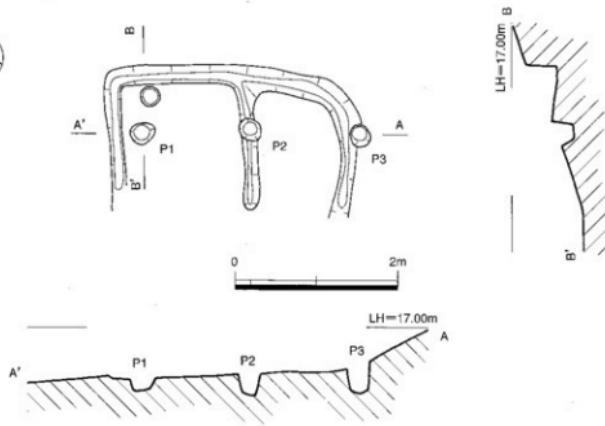
出土遺物はなく、時期は不明である。



第5図 SI-04・08 平面図および断面図 (S=1/60)



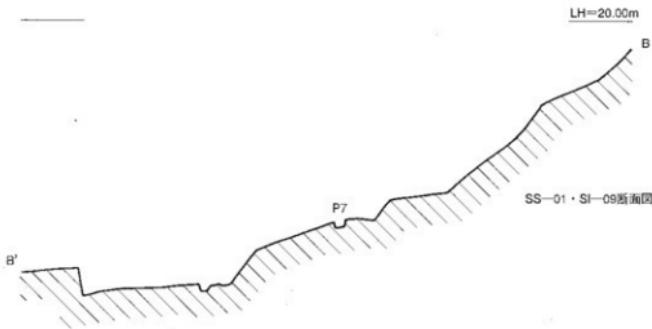
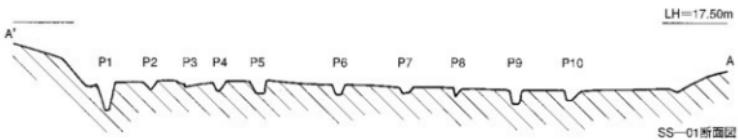
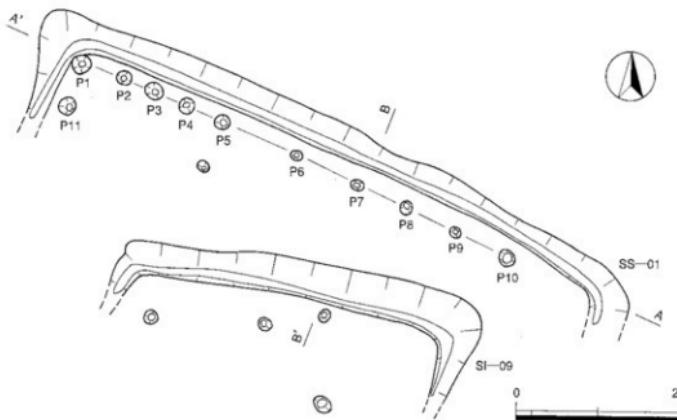
第6図 SI-06平面図および断面図 ( $S=1/60$ )



第7図 SI-07 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )

SI-06 (第6図) 小型のもので床幅3.85m・残存奥行2.0m・最大壁高0.41m・床面標高16.5m・残存床面積7.7m<sup>2</sup>で、W44° S方向を向く。柱穴はP 1 (36cm×30cm-20cm)、P 2 (34cm×30cm-27cm)を検出しているが、本住居に伴うものとは考えられない。本住居に伴うものとしては床面奥壁中央に50cm×46cm・深さ20cmの楕円形の土壙P 3が考えられる。床面には東側壁に沿って幅18cm・深さ5cmの側溝が僅かに残る。

遺物は床面より土師器甕（第33図No234）、須恵器环蓋（第46図No536・537・552）、須恵器环身（第47図No582）、須恵器高坏（第50図No660）、須恵器小壺（第50図No691）が出土しており、時期は古墳時代中期である。その他土師質皿（第44図No484）、土師質坏（第45図No522）が上層から出土している。



第8図 SS-01・SI-09 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )

SI-07 (第7図) SI-06同様小型のものである。床幅2.6m・残存奥行1.5m・最大壁高0.36m・床面標高16.4m・残存床面積4.8m<sup>2</sup>・S 45°W方向を向く。柱穴は本住居に伴うものかは不明であるが3穴並んで検出した。P 1 (31cm×26cm-17cm)、P 2 (30cm×26cm-24cm)、P 3 (26cm×24cm-30cm)、柱穴間はP 1-P 2 (1.3m)、P 2-P 3 (1.3m)である。床面には壁に沿って幅18cm、深さ5cmの側溝を巡らし、また床面中央を区切るように溝を施す。

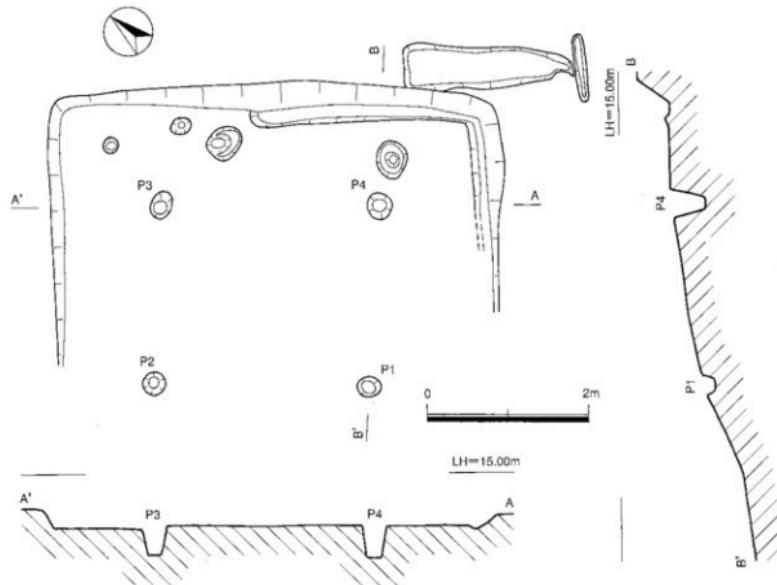
遺物は弥生土器甕（第24図No.29）が出土。

SI-09 (第8図) 境界際の検出のため、奥壁のみ確認した。床幅5.8m・残存奥行1.2m・最大壁高約0.63m・床面標高15.1m・残存床面積6.7m<sup>2</sup>で、S 10°W方向を向く。柱穴は検出できなかったが、床面には壁に沿って幅24cm、深さ2~3cmの側溝が巡り、規模からみて他の竪穴住居と同程度のものと考えられる。

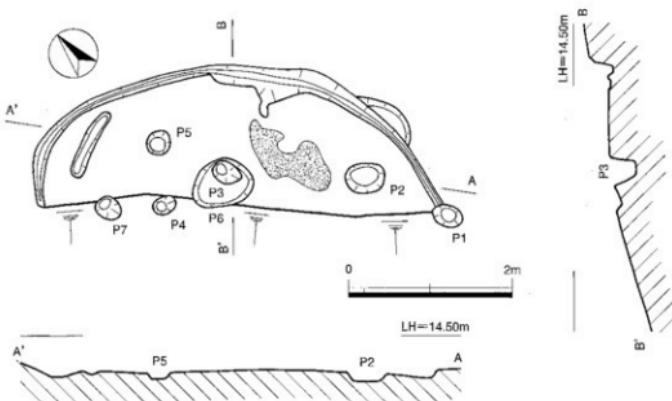
遺物は弥生土器甕（第24図No.47）、土師器甕（第30・33・38図No.170・233・315）、須恵器环身（第47・48図No.583・584・598）、須恵器高环（第49図No.645）、須恵器环（第50図No.680）が出土。

SI-10 (第9図) 床幅5.06m・残存奥行3.2m・最大壁高約0.31m・床面標高14.4m・残存床面積15.0m<sup>2</sup>で、W 40°S方向を向く。柱穴はP 1 (28cm×24cm-18cm)、P 2 (29cm-31cm)、P 3 (34cm×27cm-36cm)、P 4 (32cm×30cm-39cm)で、柱穴間はP 1-P 2 (2.6m)、P 2-P 3 (2.15m)、P 3-P 4 (2.65m)、P 4-P 1 (2.25m)である。床面には東壁面角に沿って幅22cm、深さ4cmの側溝が僅かに残る。

遺物は土師器甕（第30・33図No.171・235）、須恵器环身（第48図No.607）、須恵器高环（第49図No.647）が出土。



第9図 SI-10 平面図および断面図 (S=1/60)



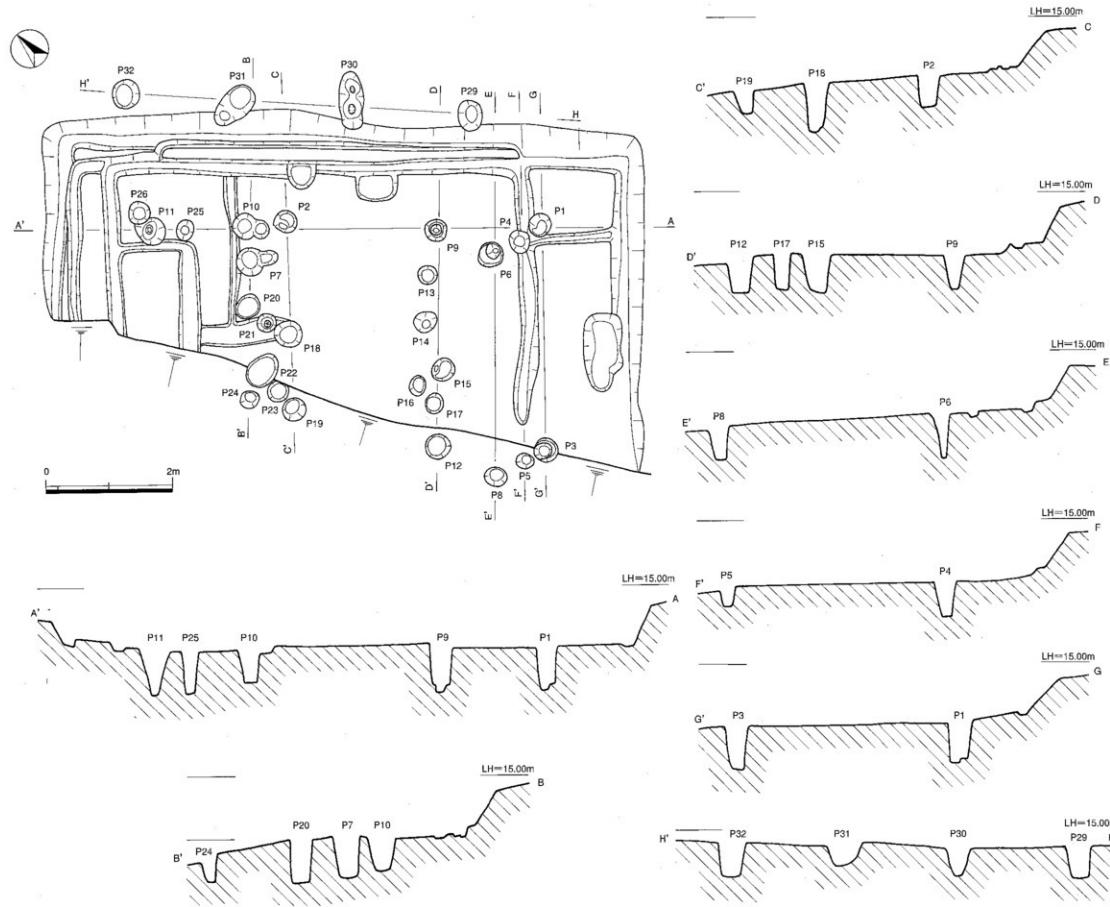
第10図 SI-11 平面図および断面図 (S=1/60)

SI-11(第10図) 今回の調査で唯一円形を呈する住居である。床径4.7m・最大壁高約0.33m・床面標高0.14m・残存床面積6.58m<sup>2</sup>で、S41°W方向を向く。柱穴はP 1 (37cm×28cm-19cm)、P 2 (46cm×36cm-10cm)、P 3 (32cm×26cm-32cm)、P 4 (28cm×21cm-10cm)、P 5 (32cm×28cm-8cm)、P 6 (76cm×56cm-8cm)、P 7 (32cm×27cm-44cm)の7穴検出しているが、どの柱穴が本住居に伴うものかは不明である。床面には壁に沿って幅15cm、深さ7cmの側溝を這らす。

本住居からは緑色凝灰岩のチップが多量に出土し、また管玉の未製品(第59図No.806~811)も出土していることから、玉作りの工房跡の可能性を考えられる。また出土遺物としては、弥生土器甕(第23・27図No.17・109・110)、弥生土器高杯(第26図No.97)、石鎚(第58図No.795)が出土しているが、流れ込みの可能性も強く時期を確定し得ないが、本住居が他の住居とは異なった形態の円形を呈していること、またSI-10よりは古いと考えられることから、この住居は弥生時代後期の住居と考えたい。

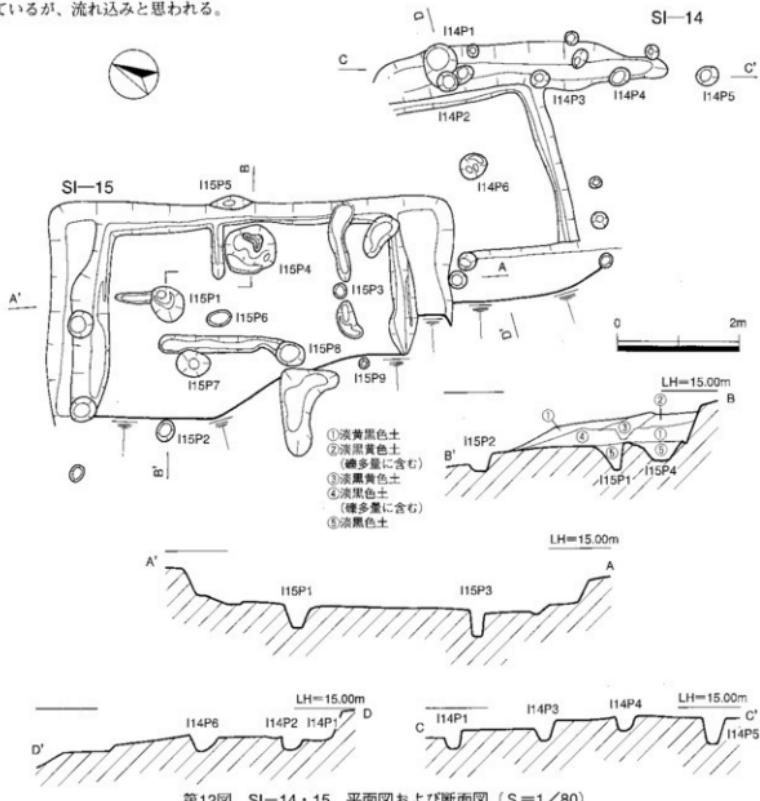
SI-12・13(第11図) 最終掘上げ床幅9.2m・残存奥行4.8m・最大壁高約0.65m・床面標高14.1m・残存床面積37.09m<sup>2</sup>で、W44°S方向を向く。本住居は何度か建て替えが行われたようで、床面には多数の柱穴痕と建替えに伴なって施されたと思われる幅20~30cm、深さ10cm前後の溝が数本検出できた。少なくとも2回以上の建て替えが行われていたようである。谷側が流れてしまっていること、溝も入り組んでいて、断面観察等においても前後関係を把握できなかったことから、正確な回数を把握することはできなかったが、いくつかの建物を想定することができた。柱穴P 1 (38cm×34cm-65cm)・P 2 (35cm×35cm-48cm)・P 25 (34cm×28cm-67cm)・P 3 (38cm×38cm-68cm)、柱穴間P 1-P 2 (4.1m)・P 1-P 25 (5.6m)・P 1-P 3 (3.6m)で、奥壁土壌P 27 (68cm×48cm-15cm)はこれらに伴うと思われる。またP 9 (36cm×34cm-71cm)・P 10 (42cm×38cm-59cm)・P 11 (50cm×43cm-69cm)・P 17 (32cm×28cm-52cm)・P 12 (40cm×38cm-45cm)、柱穴間はP 9-P 10 (3.0m)・P 9-P 11 (4.6m)・P 9-P 17 (2.7m)・P 9-P 12 (3.4m)、P 4 (34cm×33cm-53cm)・P 5 (30cm×24cm-24cm)、柱穴間はP 4-P 5 (3.45m)、P 6 (40cm×36cm-64cm)・P 7 (46cm×φ38cm-64cm)・P 8 (36cm×31cm-48cm)、柱穴間はP 6-P 7 (3.9m)・P 6-P 8 (3.6m)である。

奥壁外にP 29 (50cm×38cm-50cm)・P 30 (92cm×38cm-36cm)・P 31 (78cm×45cm-53cm)・P 32 (45cm×43cm-52cm)、柱穴間P 29-P 30 (1.9m)・P 30-P 31 (1.8m)・P 31-P 32 (1.9m)の柱穴痕列を検出したが、本住居の柱穴列とは若干方向が異なるため独立した建物の可能性が考えられる。



第11図 SI-12・13 平面図および断面図 (S=1/60)

遺物は土師器甕（第29・30・32・34・36・38図No.157・172～174・216・236・289～291・293・328）、製塙土器（第39図No.340）、ミニチュア土器（第42図No.444）、土師器高環（第40図No.360・361・366）、土師器環（第41図No.390・391・403）、土師器體（第43図No.456）、須恵器环蓋（第46・47図No.538～544・580）、須恵器环身（第47図No.585～591）、須恵器高環（第49・50図No.638・648・650・651・663・664）、須恵器甕（第50図No.676・677・683）、小玉（第59図No.816・814・815）、勾玉（第59図No.796）、白玉（第59図No.825・826）が出土しており、古墳時代中期～後期と思われる。その他弥生土器甕（第23・25図No.15・20・21・69）、弥生土器底部（第27図No.112・113）、石鎌（第58図No.781・790）、石斧（第54・55図No.743・749）、砥石（第57図No.773）が出土しているが、流れ込みと思われる。



第12図 SI-14・15 平面図および断面図 (S=1/80)

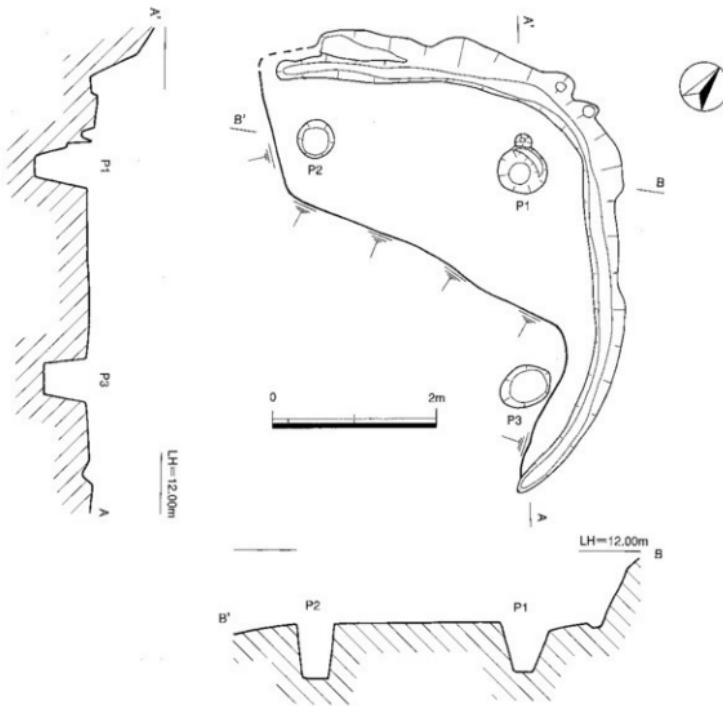
SI-14（第12図） SI-15によって半分以上切られているため、床幅2.2m・残存奥行2.5m・最大壁高約0.14mが残る。床面標高14.5m・残存床面積5.0m<sup>2</sup>で、W37°S方向を向く。柱穴はP 1（46cm×40cm-30cm）のみである。床面には壁に沿って幅22cm、深さ10cmの側溝を這らす。本住居の山側には幅80cm、深さ20cmの溝が走り、この溝に沿って4つの柱穴が並ぶ。柱穴は北西側からP 2（34cm×32cm-16cm）、P 3（31cm×30cm-27cm）、P 4（36cm×28cm-21cm）、P 5（35cm×32cm-43cm）であるが、その性格は不明である。柱穴間は、P 2-P 3（1.5m）、P 3-P 4（1.3m）、P 4-P 5（1.4m）である。

遺物は土師器甕（第32図No.217・218）、土師器环（第41図No.392）、須恵器环蓋（第46図No.545）、須恵器小型壺（第50図No.688）が出土し、古墳時代中期である。弥生土器甕（第25図No.66）は流れ込みと思われる。

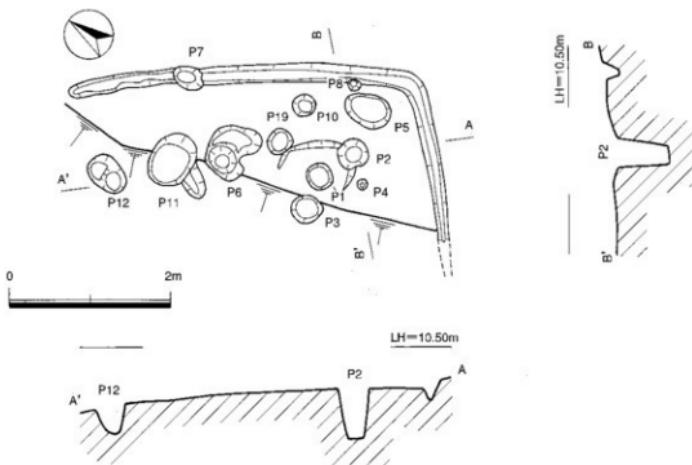
SI-15(第12図) 床幅4.6m・残存奥行3.0m・最大壁高約0.58m・床面標高14.1m・残存床面積14.2m<sup>2</sup>で、W27°S方向を向く。両サイドの壁際には幅50~60cm、高さ約15cmの段を有する。柱穴はP1(60cm×53cm-44cm)、P2(36cm×29cm-14cm)、P3(25cm×20cm-32cm)で、柱穴間はP1-P2(2.2m)、P3-P1(3.0m)である。床面には壁に沿って幅20cm、深さ10cmの側溝を巡らす。奥壁側中央床面には84cm×80cm深さ30cmの土壤P4がある。

遺物は土師器壺(第28図No.133・139・142)、土師器小型丸底壺(第29図No.148)、土師器小型壺(第29図No.152)、土師器甕(第30・32・34・36・37図No.175~179・182・219・238・294・308)、土師器高壺(第40図No.359)、土師器低脚壺(第41図No.381)、須恵器壺蓋(第46図No.546~549)が出土している。時期は古墳時代中期～後期である。その他弥生土器壺(第24・25図No.51・70)、弥生土器底部(第27図No.108)、弥生土器高壺(第27図No.98)、石鏃(第59図No.786)が出土しているが流れ込みと思われる。

SI-16 SI-17の北西約1m・標高12.2m付近に幅15cm・深さ約0.11m・W44°S方向を向く溝を「L字」状に検出した。柱穴等は検出できなかったが、住居の可能性が考えられる。



第13図 SI-17 平面図および断面図 (S=1/60)



第14図 SI-18 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )

SI-17 (第13図) 若干角の丸くなった隅丸方形を呈する住居で、床幅4.9m・残存奥行3.7m・最大壁高約0.66m・床面標高11.1m・残存床面積10.3m<sup>2</sup>で、W33°S方向を向く。柱穴はP1 (60cm×60cm-64cm)、P2 (48cm×42cm-66cm)、P3 (66cm×50cm-50cm)で、柱穴間はP1-P2 (2.55m)、P2-P3 (2.6m)である。また床面には壁に沿って幅17cm、深さ7cmの側溝を巡らす。

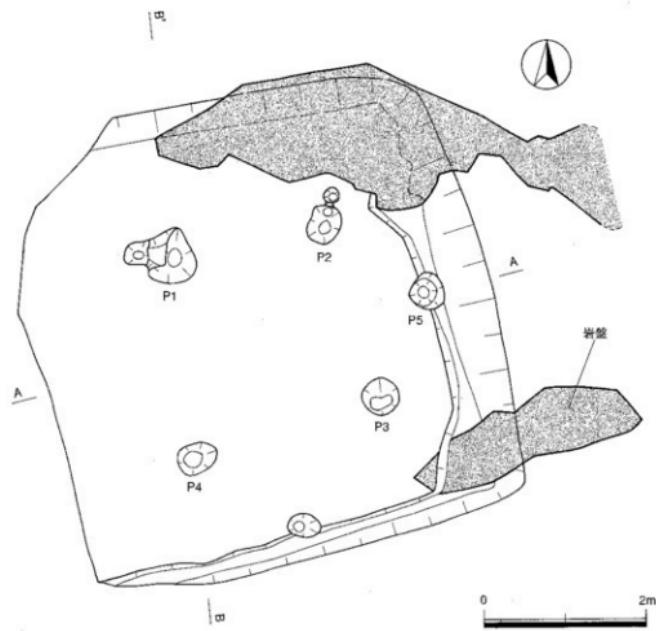
遺物は土師器高环 (第41図No.372)、土師器高环 (第40図No.341・342)、土師器壺 (第28図No.136)、土師器低脚环 (第41図No.382)、土師器环 (第41図No.404)、てづくね (第42図No.443)、須恵器环身 (第47図No.593)、須恵器高环蓋 (第49図No.631)、須恵器环蓋 (第46図No.550)が出土し、古墳時代中期である。弥生土器壺 (第25図No.55)、住居床下から出土、弥生土器壺 (第25図No.55・73・74・77)、弥生土器台 (第26図No.95)、弥生土器底部 (第27図No.107)は流れ込みと思われる。

SI-18 (第14図) 上部は削平され床面のみが残った状態で検出された。床面もそのほとんどが流れた状態で、床幅4.3m・残存奥行2.2mが残るのみであった。床面標高10.0m・残存床面積5.76m<sup>2</sup>で、W36°S方向を向く。床面には壁に沿って幅22cm、深さ10cmの側溝が残る。柱穴はP1 (32cm×30cm-39cm)、P2 (38cm×34cm-54cm)、P3 (36cm×34cm-41cm)、P6 (36cm×31cm-37cm)、P9 (32cm×28cm-23cm)、P10 (28cm×26cm-22cm)、P12 (50cm×32cm-38cm)等いくつか検出された。この中で本住居に伴うと思われる柱穴はP2-P12 (柱穴間3.1m)と考えられるが明確ではない。

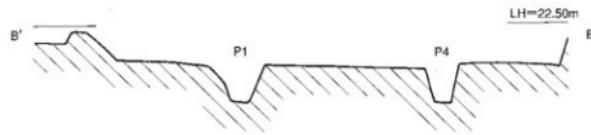
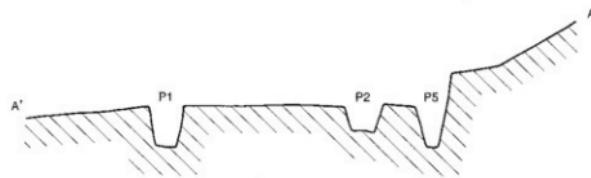
遺物は土師器台 (第42図No.423-425)、土師器壺 (第28図No.124・125)、土師器壺 (第29図No.158)、土師器瓶 (第43図No.455)、須恵器环身 (第47図No.595)、弥生土器底部 (第27図No.115)、須恵器高环 (第50図No.668)が出土しているが、削平が著しいため住居に伴うものを断定し得ない。

SI-20 (第15図) 床幅5.1m・残存奥行4.8m・最大壁高約0.4m・床面標高22.2m・残存床面積25.6m<sup>2</sup>で、W15°S方向を向く。竪穴住居としては昨年度調査したSI-02と並んで本遺跡で最も高い所に位置する住居である。柱穴はP1 ( $\varnothing$ 65cm×60cm-47cm)、P2 ( $\varnothing$ 50cm×38cm-43cm)、P3 (46cm×46cm-30cm)、P4 (50cm×36cm-48cm)、柱穴間はP1-P2 (1.9m)、P2-P3 (2.25m)、P3-P4 (2.4m)、P4-P5 (2.5m)である。床面には壁に沿って幅15cm、深さ5cmの側溝を巡らす。奥壁中央床面に径46cm×42cm、深さ50cmの土壙P5を検出した。

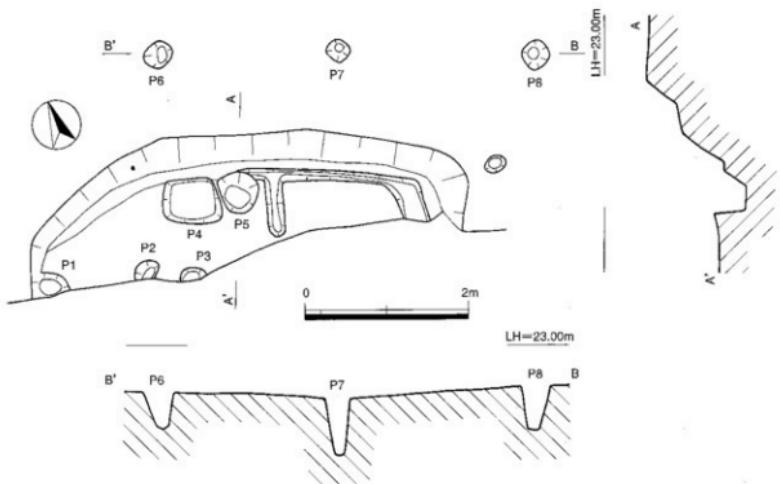
遺物は土師器壺 (第34図No.237・239)、土師器高环 (第41図No.378)、土師器壺 (第28図No.131)、須恵器环蓋 (第46図No.551)が出土している。



LH=23.50m



第15図 SI-20 平面図および断面図 ( $S = 1/60$ )



第16図 SI-21 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )

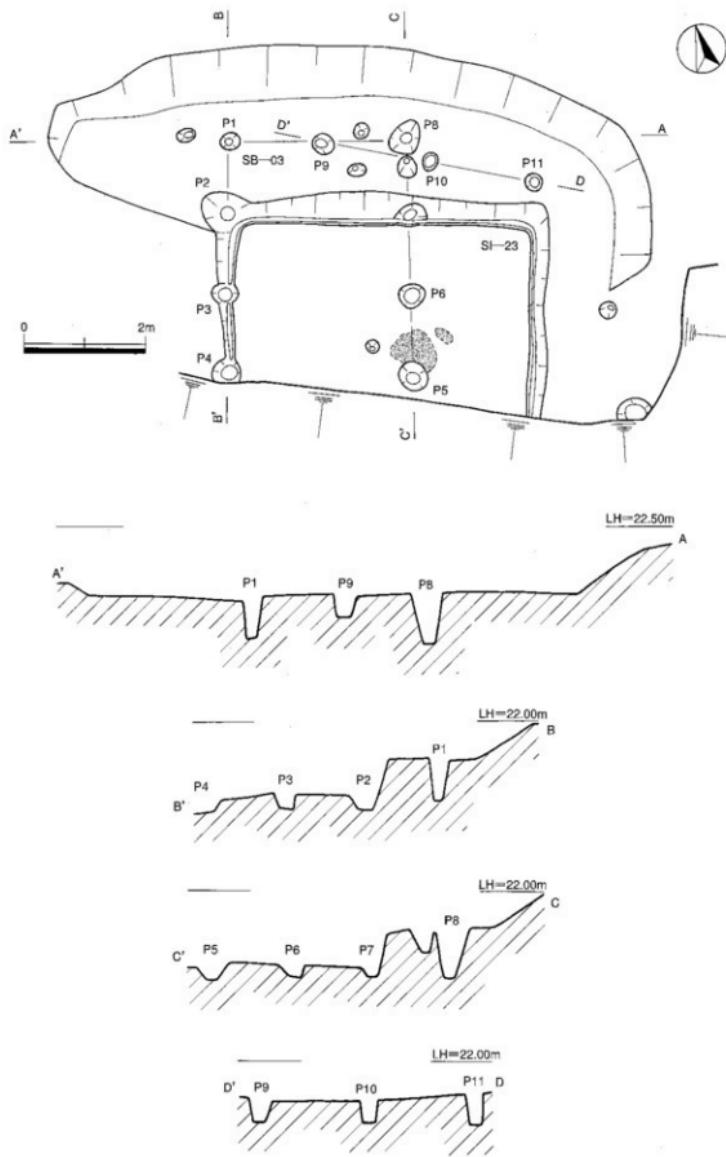
SI-21(第16図) 本住居のはとんどの部分は調査区外にかかるためほんの一部分の調査になった。床幅4.45m・残存奥行1.2mが検出され、最大壁高約0.44m・床面標高21.6m・残存床面積5.35m<sup>2</sup>で、S21°W方向を向く。柱穴はP1(Φ50cm×Φ35cm-8cm)、P2(Φ38cm×27cm-30cm)、P3(Φ30cm×30cm-11cm)の3穴を検出したが、本住居に作うものか否かは不明である。床面には壁から約10cm離れた部分に幅14~30cm、深さ3~8cmの側溝を巡らす。奥壁中央床面には方形P4と円形P5の二種類の土壙を検出した。P4は長軸66cm・短軸56cm・深さ24cm、P5は径50cm・深さ38cmで両者はつながって検出されたが、性格は不明である。その他の住居の北側には別の住居と思われるP6(34cm×28cm-46cm)、P7(26cm×26cm-68cm)、P8(32cm×31cm-54cm)、柱穴間P6-P7(2.15m) P7-P8(2.4m)の一列に並ぶ柱穴列を検出している。遺物は土師器甕小片が出土している。

SI-22(第17図) SI-23によって切られているため全容は明らかではないが、床幅Φ9.0m・残存奥行2.0m・最大壁高約0.6m・床面標高21.5m・残存床面積16.7m<sup>2</sup>で、S21°W方向を向く斜面をL字状にカットされたテラス状の平坦面を検出した。いくつかの柱穴痕を検出したが、建物として復元できたものは後述する掘立柱建物跡SB-03のP1・P2・P3・P4・P5・P6・P7・P8で、その他P9(34cm×32cm-37cm)、P10(30cm×26cm-36cm)、P11(28cm×50cm)、柱穴間はP9-P10(1.8m)、P10-P11(1.75m)を考えられるが、これについては一列のみで対応する柱穴は確認できなかったが、谷側の部分がSI-23によって切られていることから建物の可能性は考えられる。しかしテラスの規模からみてこれらの建物の以外の物があったと考えられるが不明である。

遺物は土師器甕(第36・37・38図No292・307・316)、土師器低脚壺(第41図No385)、土師器壺(第41図No393)、須恵器甕(第51図No692)が出土している。弥生土器甕(第26図No89)は流れ込みである。

SI-23(第17図) 床幅4.8m・残存奥行3.0m・最大壁高約0.54m・床面標高20.8m・残存床面積13.0m<sup>2</sup>で、S18°W方向を向く。柱穴の検出はなく、床面には壁に沿って幅18cm、深さ10cmの側溝が巡り、明らかに他の住居に見られる溝とは異なり、板状の壁があったと考えられる。

遺物は土師器甕(第29図No159)、土師器器台(第42図No426~430)が出土し時期は古墳時代前期である。その他土師器蓋(第42図No439)、弥生土器甕(第26図No81)、須恵器環身(第47図No592)は流れ込みである。



第17図 SI-23・SB-03 平面図および断面図 ( $S=1/80$ )

## 2. テラス状遺構

**SB-01** (第8図) 本住居はいわゆる竪穴住居とは異なった構造をしているため、竪穴住居跡というよりはテラス状遺構とした。SI-09によって切られているため、全容は明らかではないが、床幅10.5m・残存奥行1.95m・最大壁高0.4m・床面標高16.4m・残存床面積15.6m<sup>2</sup>で、S25°W方向を向く。柱穴は全部で10穴をほぼ一列に並んだ状態で検出した。P1 (34cm×32cm-50cm)、P2 (30cm×26cm-14cm)、P3 (34cm×30cm-5cm)、P4 (29cm×26cm-15cm)、P5 (30cm×27cm-21cm)、P6 (24cm×18cm-18cm)、P7 (25cm×20cm-12cm)、P8 (25cm×23cm-18cm)、P9 (22cm×19cm-21cm)、P10 (32cm×28cm-17cm)、P11 (23cm×20cm-54cm)、柱穴間はP1-P2 (0.8m)、P2-P3 (0.6m)、P3-P4 (0.6m)、P4-P5 (0.75m)、P5-P6 (1.45m)、P6-P7 (1.25m)、P7-P8 (1m)、P8-P9 (1.05m)、P9-P10 (1.05m)、P10-P11 (0.8m)である。床面には壁に沿って幅20cm・深さ7cmの側溝を巡らす。遺物は土師器甕 (第36図No.288)、土師質皿 (第44図No.477-481・483)・須恵器甕 (第52図No.706)が出土している。

## 3. 堀立柱建物跡

今回の調査で、ほぼ完全な堀立柱建物跡として確認されたものは、6棟であったが、SB-07、08のように堀立柱建物跡の可能性が考えられるものもあった。また建物跡として復元は出来なかったが、多数の柱穴痕を検出していることから、これら以外にも建物があった可能性は考えられる。

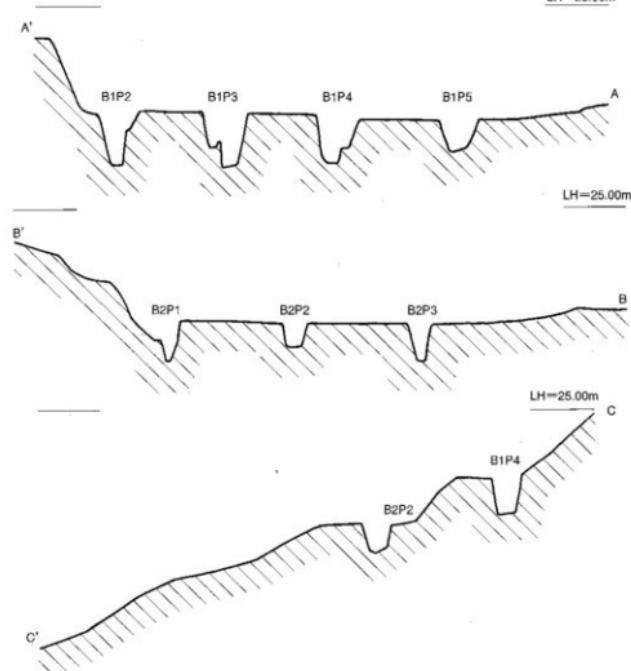
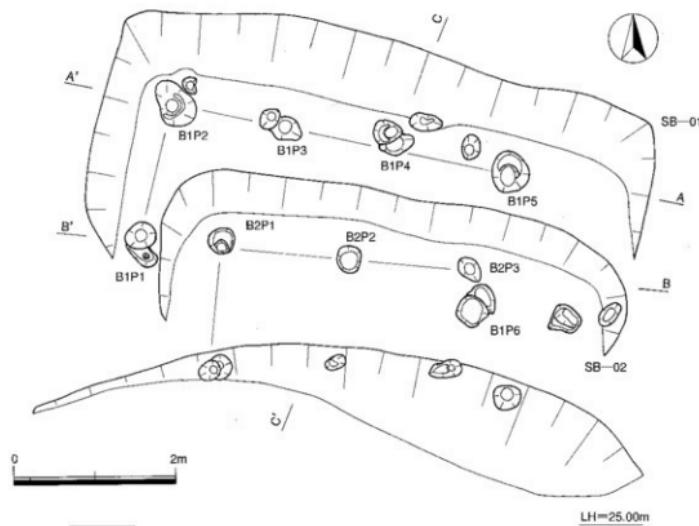
**SB-01** (第18図) 標高24.2mの斜面をL字にカットしたテラス状の平坦面に建てられる。柱穴痕は6本確認した。各柱の規模はP1 (37cm×31cm-39cm)・P2 (60cm×42cm-60cm)・P3 ( $\phi$ 34cm×26cm-62cm)・P4 (43cm×22cm-32cm)・P5 (50cm×43cm-33cm)・P6 (34cm×34cm-12cm)で、柱間はP1-P2 (1.7m)・P2-P3 (1.4m)・P3-P4 (1.4m)・P4-P5 (1.4m)・P5-P6 (1.7m)である。

**SB-02** (第18図) 標高23.6mにSB-01を切ったような状態でL字にカットしたテラス状の平坦面に建てられる。柱穴痕は3穴のみ確認した。各柱の規模はP1 (32cm×31cm-48cm)・P2 (32cm×28cm-32cm)・P3 (34cm×24cm-49cm)で、柱間はP1-P2 (1.55m)・P2-P3 (1.5m)である。

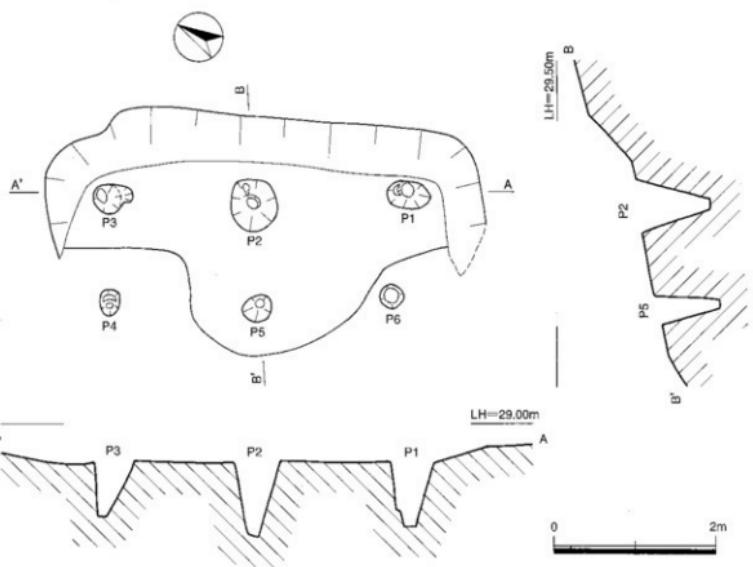
**SB-03** (第17図) SI-22と重なる梁間1×桁間3の柱数8本の建物である。各柱規模はP1 427 (58cm×46cm-84cm)・P2 403 (径52cm-68cm)・P3 402 (51cm×48cm-21cm)・P4 401 (50cm×46cm-27cm)・P5 (45cm× $\phi$ 50cm-17cm)・P6 (42cm× $\phi$ 30cm-25cm)・P7 (径66cm-84cm)・P8 (径32cm-68cm)・柱穴間はP1-P2 (1.2m)・P2-P3 (1.3m)・P3-P4 (1.3m)・P4-P5 (3.0m)・P5-P6 (1.3m)・P6-P7 (1.3m)・P7-P8 (1.15m)・P8-P1 (2.9m)・P2-P7 (2.9m)・P3-P6 (3.0m)である。

**SB-04** (第19図) 標高28.6mの斜面をL字にカットして建物を建てたもので、本遺跡の最も高い所に位置する。幅4.6m・奥行2.4mのテラス状の平坦面が残る。柱穴6本が残るものである。各柱穴の規模はP1 (53cm×32cm-78cm)・P2 (63cm×56cm-90cm)・P3 (38cm×32cm-66cm)・P4 (31cm×22cm-24cm)・P5 (36cm×32cm-80cm)・P6 (30cm×29cm-43cm)、柱穴間はP1-P2 (1.9m)・P2-P3 (1.85m)・P3-P4 (1.35m)・P4-P5 (1.85m)・P5-P6 (1.6m)・P6-P1 (1.3m)・P2-P7 (2.9m)・P3-P6 (3.0m)である。遺物の出土は無く時期は不明である。

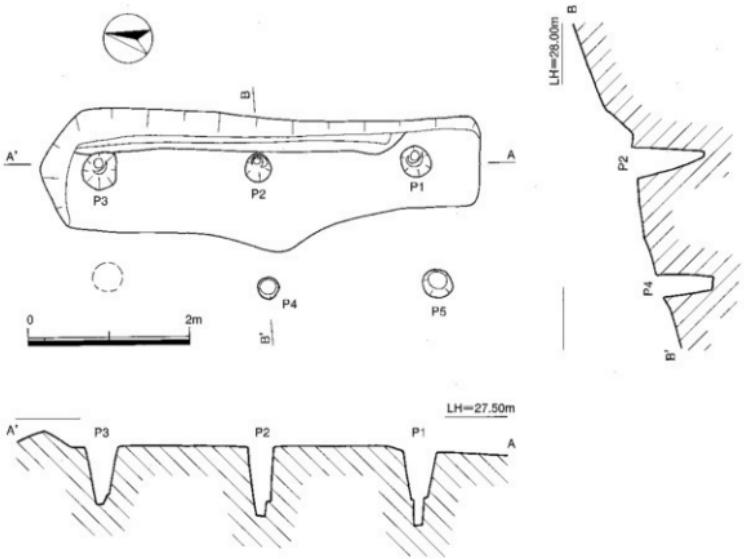
**SB-05** (第20図) SB-04のすぐ下方標高27.1mにあり、SB-04と同じく斜面をL字にカットして建物を建てたもので、幅5.1m・奥行1.4mのテラス状の平坦面が残る。柱穴は5本が残り、各柱穴の規模はP1 (39cm×35cm-90cm)・P2 (35cm×29cm-86cm)・P3 (46cm×40cm-70cm)・P4 (26cm-69cm)・P5 (37cm×34cm-44cm)、柱穴間はP1-P2 (1.95m)・P2-P3 (1.95m)・P4-P5 (2.1m)・P5-P1 (1.55m)・P2-P4 (1.55m)である。SB-04と異なり、L字にカットすることによってできた壁面に沿って幅18cm・深さ2cmの溝が施されている。遺物の出土は無く時期は不明である。



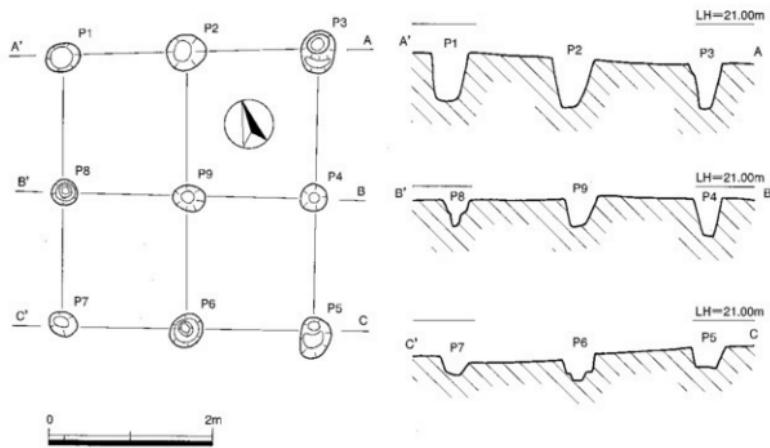
第18図 SB-01・02 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )



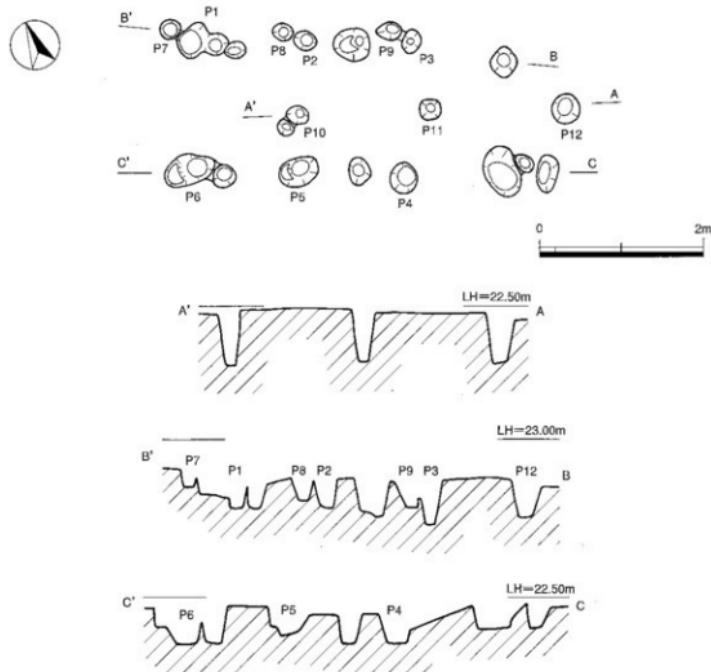
第19図 SB-04 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )



第20図 SB-05 平面図および断面図 ( $S=1/60$ )



第21図 SB-06 平面図および断面図 ( $S = 1/60$ )



第22図 SB-07 平面図および断面図 ( $S = 1/60$ )

**SB-06** (第21図) SI-01の北西側、標高20.9mの斜面をL字にカットし幅5.1m、奥行1.4mのテラス状の平垣部に柱穴痕を多数検出した。この中で建物が復元できたものは総柱建物跡1棟のみであった。建物は2間×2間の柱数9本で、方向はN15°Eである。各柱穴の規模はP 1 (45cm×35cm-58cm)・P 2 (48cm×44cm-60cm)・P 3 (54cm×42cm-55cm)・P 4 (33cm×32cm-46cm)・P 5 (50cm×37cm-24cm)・P 6 (45cm×37cm-33cm)・P 7 (35cm×30cm-21cm)・P 8 (32cm×32cm-31cm)・P 9 (38cm×30cm-38cm)、柱穴間はP 1-P 2 (1.55m)・P 2-P 3 (1.6m)・P 3-P 4 (1.9m)・P 4-P 5 (1.6m)・P 5-P 6 (1.6m)・P 6-P 7 (1.55m)・P 7-P 8 (1.6m)・P 8-P 1 (1.65m)・P 8-P 9 (1.55m)・P 9-P 4 (1.6m)・P 2-P 9 (1.8m)・P 9-P 6 (1.6m)である。

**SB-07** (第22図) SI-21の南東、標高22.5mに位置する。P 1 (44cm×32cm-46cm)・P 2 (24cm×22cm-39cm)・P 3 (31cm×22cm-56cm)・P 4 (36cm×34cm-46cm)・P 5 (49cm×34cm-39cm)・P 6 (65cm×42cm-44cm)、柱穴間P 1-P 2 (1.4cm)・P 2-P 3 (1.3cm)・P 3-P 4 (1.65cm)・P 4-P 5 (1.3cm)・P 5-P 6 (1.3cm)・P 6-P 1 (1.5cm)・P 5-P 2 (1.55cm)であった。なお山側のP 1・P 2・P 3にはそれぞれP 7 (24cm×24cm-46cm)・P 8 (24cm×22cm-35cm)・P 9 (30cm×22cm-44cm)の補助柱のものと考えられる柱穴痕がみられる。また一列に並ぶP 10 (22cm×22cm-68cm)・P 11 (26cm×25cm-64cm)・P 12 (37cm×34cm-61cm)、柱穴間P 10-P 11 (1.6cm)・P 11-P 12 (1.65cm)を検出しているが、境界際ということで対応する柱穴が調査区外に存在する可能性も考えられる。

**SB-08** 斜面をL字にカットした標高10.5mにテラス状の平垣面を検出した。この平垣面はSI-17からSI-18にかけての広い範囲にわたり、また無数の柱穴痕を検出したが建物を復元することはできなかった。

#### 4. 陥し穴

全部で1穴検出した。

**SK-01** 1.2m×1.1m-52cmで平面形は円形を呈す。床面中央に15cm×15cm-34cmの穴を施す。

### III 遺物について

今回の調査での遺物は、弥生土器・土師器・土師質土器・須恵器・石製品・玉類・鉄製品・銅製品等取り上げ点数で約1,750点を数えた。そのほとんどは、流れ込みのものであった。

#### 1. 縄文時代晚期から弥生時代前期の土器

##### 突帯文系土器

**深鉢** (第23図No.1) 口縁部直下に突帯を張り付け刻みのあるものである。No.4・6は口縁部から一段下がった位置に突帯を張り付けたもので、No.4は刻み目は無く、No.6は刻み目がある。

**甕形土器** (第23図No.2-57) 口縁部が「く」の字に外反するもので、No.7へラ描沈線を施し、刻み目のあるもの。No.5・8-13無文で刻み目のあるもの。その他は無紋で刻み目無いものである。No.2は如意型口縁、No.3は逆L字口縁である。

**壺形土器** (第26図No.86・87・91) いずれも口縁部が大きく外反するもので、No.91は口縁頭部に段を作る。

#### 2. 弥生時代中期から後期の土器

**甕形土器** (第25・26図No.58-85・90) No.62-65は中期のもので、No.62・63は口縁端部に斜行する刻み目を施す。No.65は甕の肩部で円形の貼付文を施す。No.58-61・66-85・90は後期のもので口縁部が肥厚するか、上方に立上がり複合化するもので、口縁部に凹線を持つものが主体である。No.58-61・66-72は内傾するもので、No.73-85は直立或いはやや外形する。No.80・81は肩部にヘラ描文を施す。No.90は脚付の甕である。

**壺形土器** (第25図No.89・92・93) No.89は口縁部に凹線が微かに残る。No.92・93は小型のものである。

**器台形土器** (第26図No.94・95) 拡張された端部に凹線を施す。

**高坪形土器** (第26図No.97-100) No.97は坏部で口縁端部が肥厚し凹線を施す。No.98-100は脚部で、No.100は竹管文および円孔を施す。

**土器底部** (第27図No103~123) No104は窪み底である以外はすべて平底である。底部のみの出土で器種や時期についての正確な特定はできないが、立上がりの角度から、No103~115は壺形土器、No116~123は壺形土器と思われる。

**その他** (第27図No101・102) 子持壺の子壺と思われる。他に類例を見いだせないため、時期等について正確なことは不明であるが、胎土からみて弥生時代前期では無いかと思われる。

## 古墳時代以降の土器

### 3. 土器部

**壺形土器** (第28・29図No124~154) 複合口縁形、「く」の字口縁・長頸壺・小形壺等が出土している。No124~131は複合口縁形で、No126は口縁部が大きく外反し、肩部に突帯を巡らす。それ以外は口縁部がほぼ直立するタイプである。No143~147は「く」の字形である。No132~142は長頸壺で、体部が菱形を呈するものと、球形のものがある。No148~153は小形の壺で、No152・153はミニチュアに近い。No154は低脚付の小形丸底の壺である。

**壺形土器** (第29~39図No155~337) 昨年の調査と同様出土遺物の過半数を占める。大別して複合口縁形のものと、「く」の字口縁形に分けられる。前者はまた完全なもの (No157~168) と退化したもの (No170~214) とに別れる。No215~325は「く」の字口縁形のもので、口縁部を緩やかに外反するもの (No215~246・248)、鋭く外反するもの (No247・249~275)、直角に屈曲するもの (No276~303) に別れる。内面はほとんどが、頸部までケズリを施す。No304・305・308~325は小形の壺である。No326~337は、胴部のあまり張らない袋状のものと思われる。

**鉢・椀形土器** (第39図No338第42図No415~422) No338は大型の鉢で内外面ともにハケ目を施す。外面には螺旋旋状に火を受けた跡が残る。No414~417は小形の鉢で、口縁端部を僅かに屈曲させる。No419~422は椀形のものである。

**製塙土器** (第39図No340) 焼き・作りのともに悪い粗雑なものである。

**高环形土器** (第40・41図No341~389) 壁部と脚部が接合するものが少なかったが、環部については口縁部が大きく外反するもの (No341~351) と、橢型 (No352~359) の二種類ある。脚部には低脚环も含まれる。

**壺形土器** (第41図No390~413) 器高の浅いものを壺とした。口縁端部を丸く収めるものと、先細りのものとに別れる。

**器台形土器** (第42図No423~438) 鼓形器台である。いづれも風化が著しいがNo426~428は同一個体か?

**蓋形土器** (第42図No39~440) 輪状のつまみを持つもので、高环の転用か?

**土製品** (第42図No441~453) No441は取手、No442は土錘、No443~445はてづくり土器、No446~451はミニチュア土器である。No452・453は器種不明のため、小形の壺として実測した。

**瓶形土器・移動式壺** (第43図No454~465) No454は壺の口縁部。No455~461は壺の口縁部、No454~465は壺の底部、No454~465は壺の取手部である。

**土師質土器** (第44・45図No466~532) No466~508は皿形土器、No509~No521は环形土器、No522~530は高台付环土器、No531・532柱状高台付环土器である。

### 4. 須恵器

第53図No710~739は昨年度の調査で出土したものである。

**壺形土器** (第46~48・53図No533~630・710~729) No533~580・710~723は环蓋、No581~630・724~729は环身である。环蓋は稜があり、口縁端部に段を有する5世紀頃のものが大半を占めるが、No566~577は6世紀、No578~580・723の稜・段とともになくなる7世紀頃ものもみられる。环身も返りの立上がりが高く、口縁端部に段の残る5世紀頃のものが大半を占める。

**高环形土器** (第49・50・53図No631~674・730~738) No631~633は高环の蓋でつまみの付くものである。环部には返りの付くもの (No634~643・731~737) と、口縁部の大きく外反するもの (No644~655・738) がある。脚部には低脚のものと、高脚のものがあり、後者の底部には段を有するものが大半を占める。No663は二段以上の透かしを施す。

**翫・壺形土器** (第50・52・53図No675~691・700~702・739) No675~684・739は翫、No685・686は長頸壺と思われる。No687は菱形の胴部を呈する短頸壺、No691は小型壺、No700~702はやや大型の壺である。

**壺形土器** (第51・52図No692~699・703) 口縁部が長く、外反するもの (No692~697) と短く「く」の字に外反するもの (No699・703) がある。No698は横瓶。

その他（第52図№704～709） №704つまみの付いたもので高坏の転用か？№708は糸きりの残る底部、№709は盤、№705・706は須恵質の壺、№707は須恵質の鉢か？

## 5. 石製品

石斧（第54・55図№740～749） 打製石斧（№740）と、磨製石斧（№741～749）がある。

敲石・叩石・石皿（第55・56図№751～757・760・763） №751～755は敲石、№756・757は叩石、№760・763は石皿である。

砥石（第56・57図№761・764～773） 大型のものから小型のものまで出土。№771は円孔を施し携帯用か？ 石鎌（第58図№774～795） №774～780は黒曜石製、№781～795はサヌカイト製である。

玉類（第59図№796～826） №796～798は勾玉、№799～801は管玉、№802～811は管玉の未製品か。№812・813はなめ玉、№814～820は小玉、№821～826は臼玉である。

その他（第55図№758・759） №758は石錘、№759は薄い方形のリング状のもので器種は不明である。

## 6. 銅・鉄製品

銅製品（第55図№827～830） №827は銅鏡で朱文鏡である。№828はキセル、№829・830は銅錢で№830は紐につながった状態で出土。

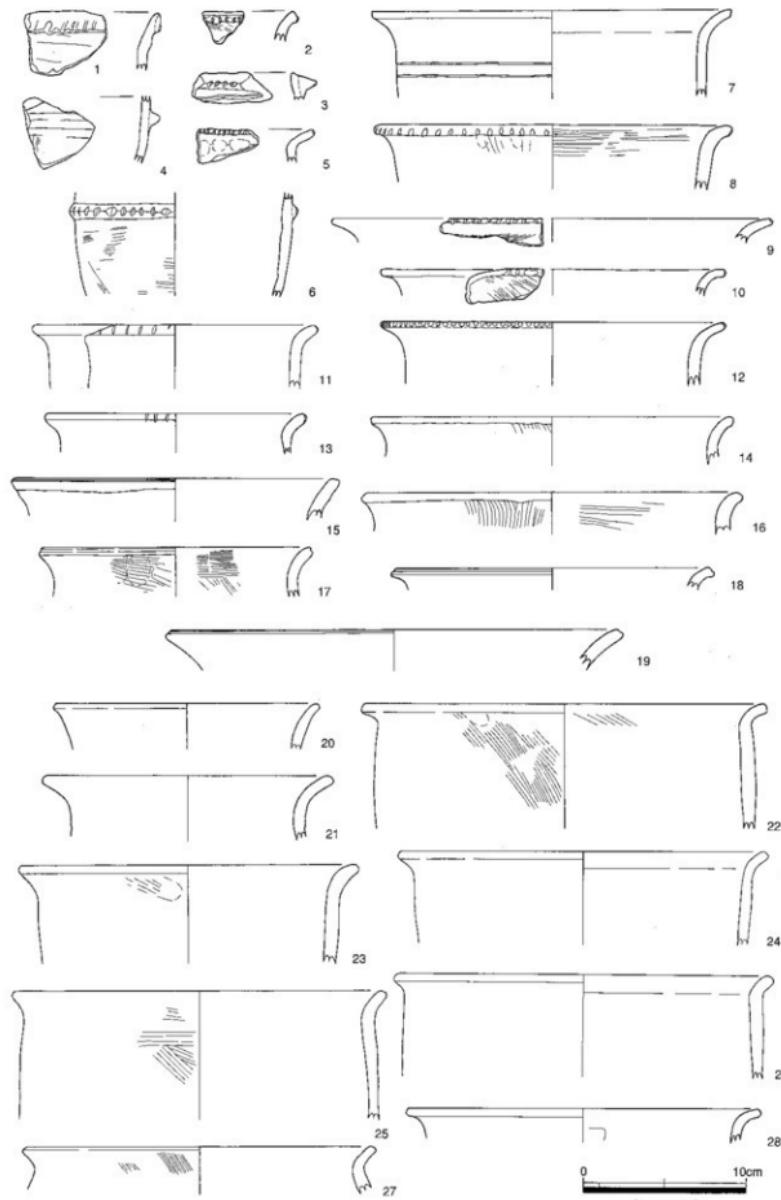
鉄製品（第55図№831・832） №832は刀子である。

## IV 小 結

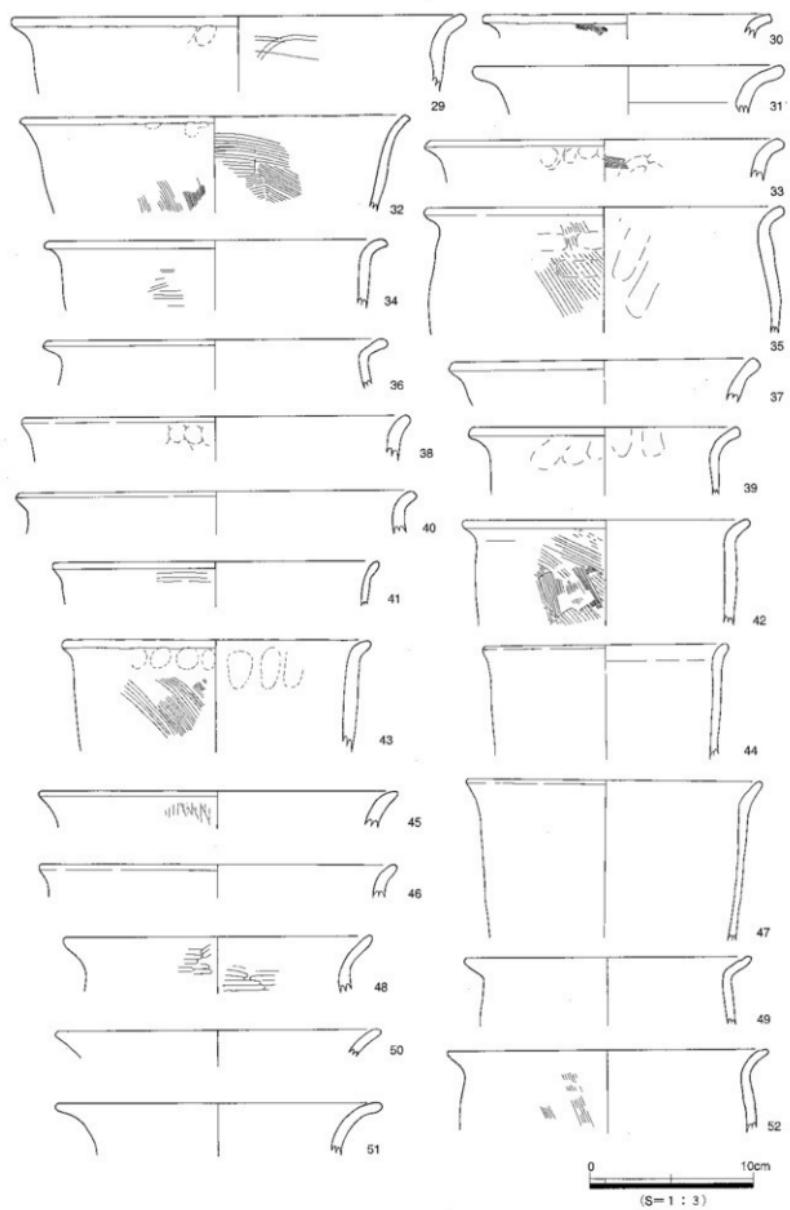
長砂第3遺跡は2年間に渡って調査を行ってきた。その結果、弥生時代の豎穴住居跡1棟・古墳時代の豎穴住居跡29棟・掘立柱建物跡約12棟・テラス状遺構・中世の石組遺構・陥穴等の遺構を確認することができた。また出土遺物も、弥生土器・土師器・須恵器・石製品・玉類・鏡等取り上げ点数で5,500点を数えた。

今回調査で確認できた遺構は古墳時代の中期から後期の集落を中心としたものであったが、これらの住居の下から弥生土器が、出土していること、流れ込みの遺物を見て土師器や須恵器の数と変わらないほどどの弥生土器が出土していることからみて、弥生時代においても古墳時代と同様な集落が営まれていた可能性が伺われる。恐らく弥生時代から古墳時代にかけて、洪水等において弥生時代の集落はほぼ壊滅状態になったものと考えられる。この事は遺物のほとんどが山裾に集中していたことも理解できる。また、古墳時代以降においても遺構としては少ないが、中世の遺物も多数出土していることを考慮すると、何らかの人の営みがあったと考えることができる。これらのことから、長砂第3遺跡では弥生時代から中世にかけて、継続して人が生活していくことになる。

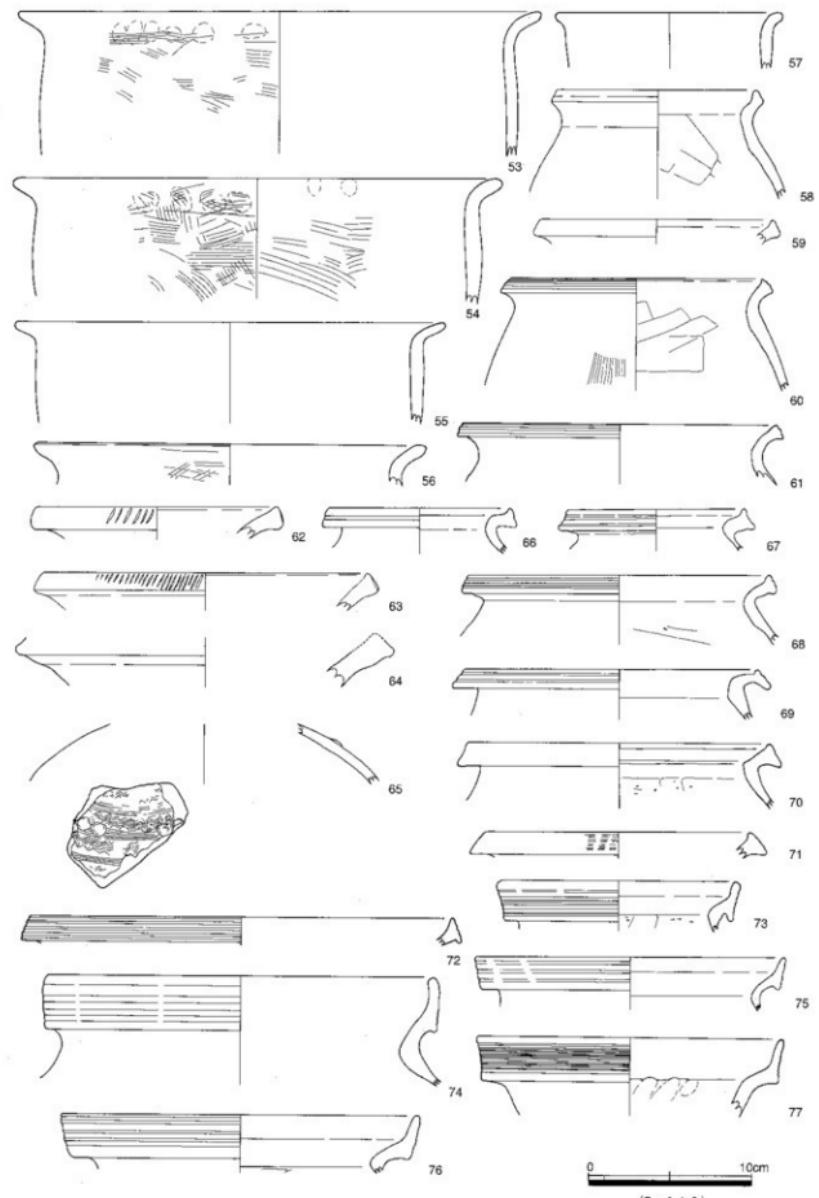
では、なぜこのような傾斜地に住居をつくる必要があったのだろうか。弥生時代の遺構がほとんど確認できなかったこと、古墳時代の住居跡もほとんど谷側が流れてしまっていることからみて、一度大雨が降るとかなりの被害があったと考えられる。それでも平野部ではなく山の斜面に住居をつくったということに、何らかの意味があると考えられるが、今回の調査では平野部での広範囲の調査が行われなかつたため不明である。今後の調査に期待したい。



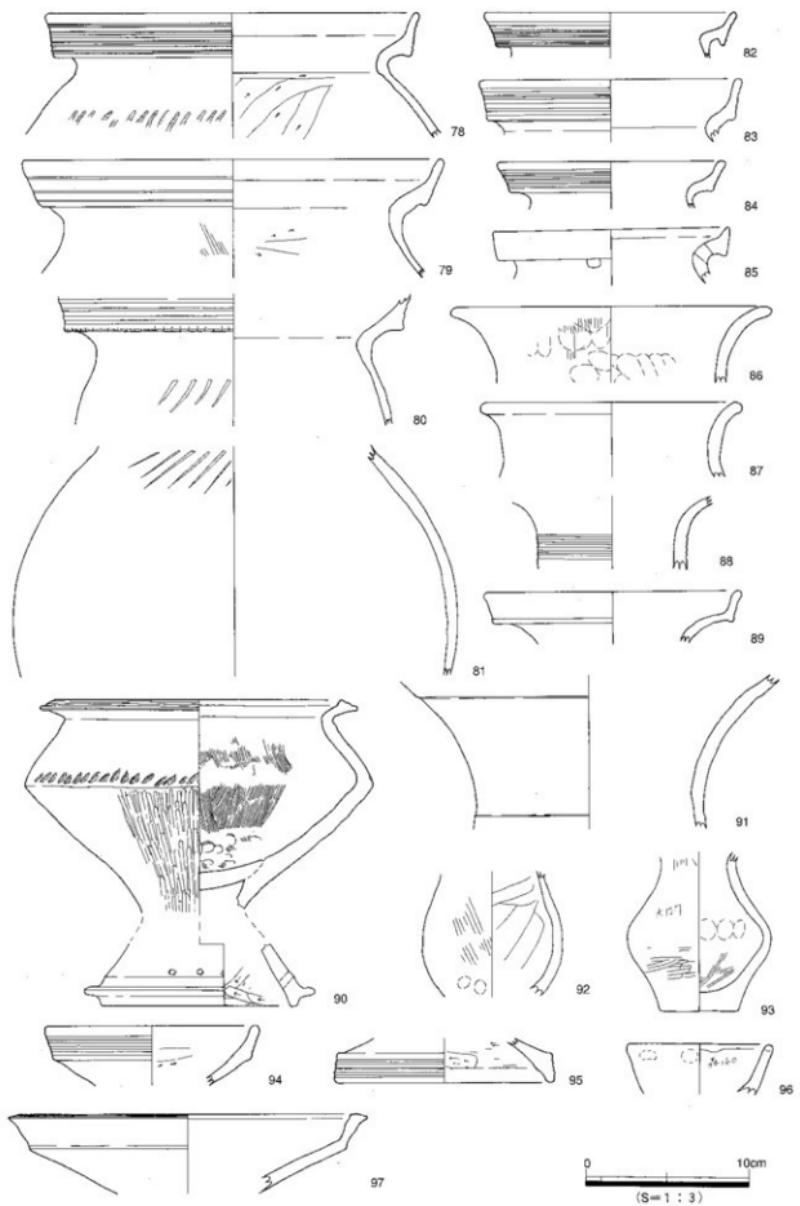
第23図 弥生土器実測図



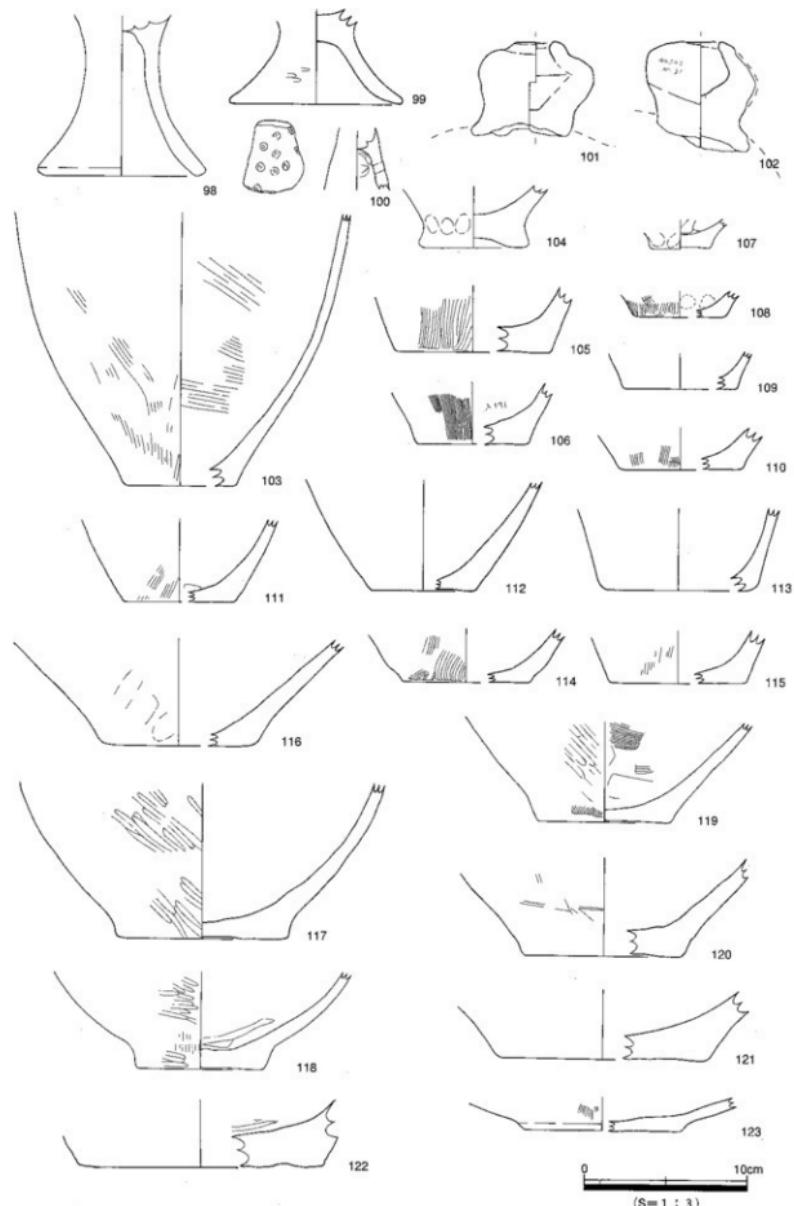
第24図 弥生土器実測図



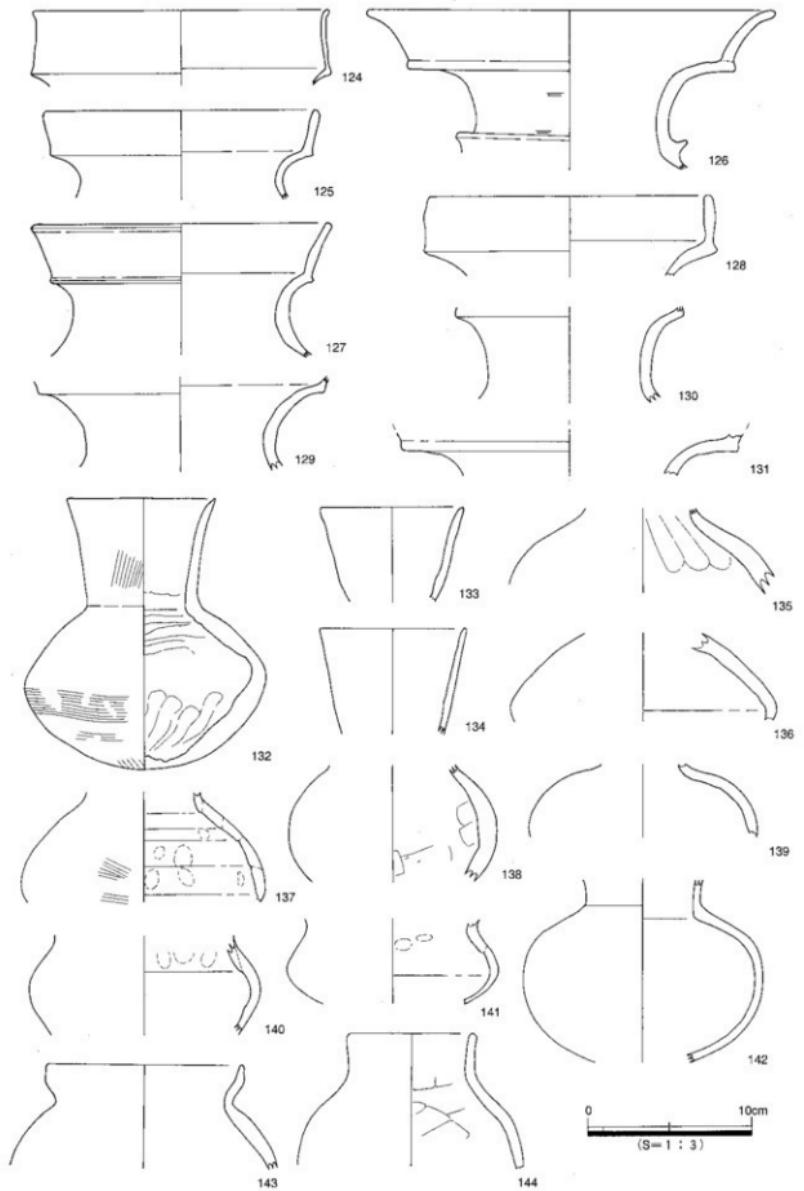
第25図 弥生土器実測図



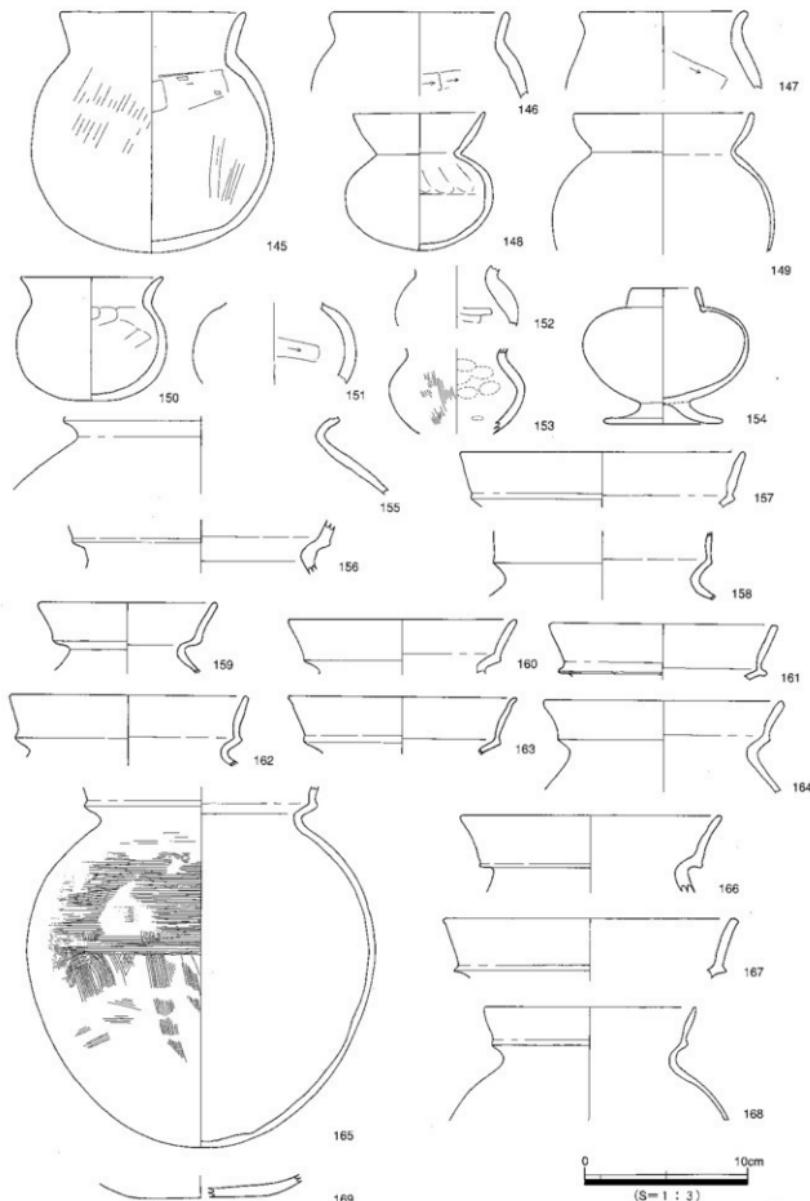
第26図 弥生土器実測図



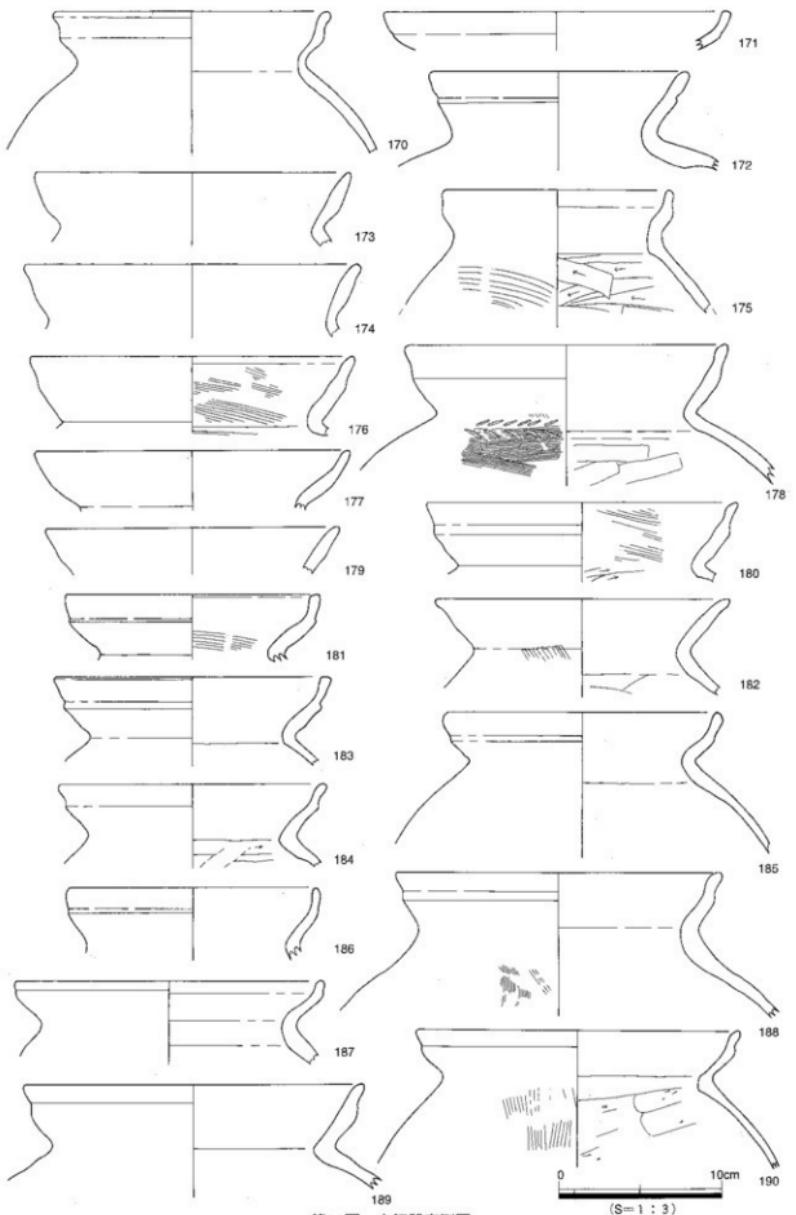
第27図 弥生土器実測図



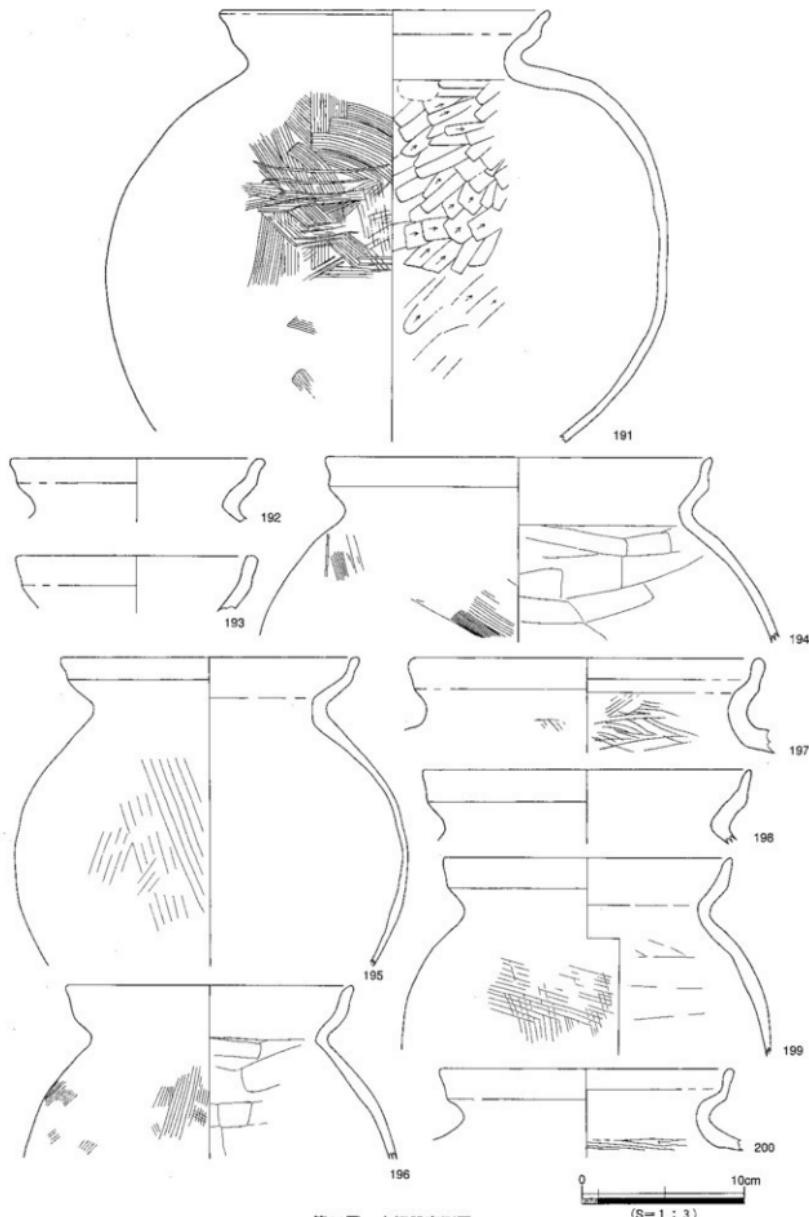
第28図 土器実測図



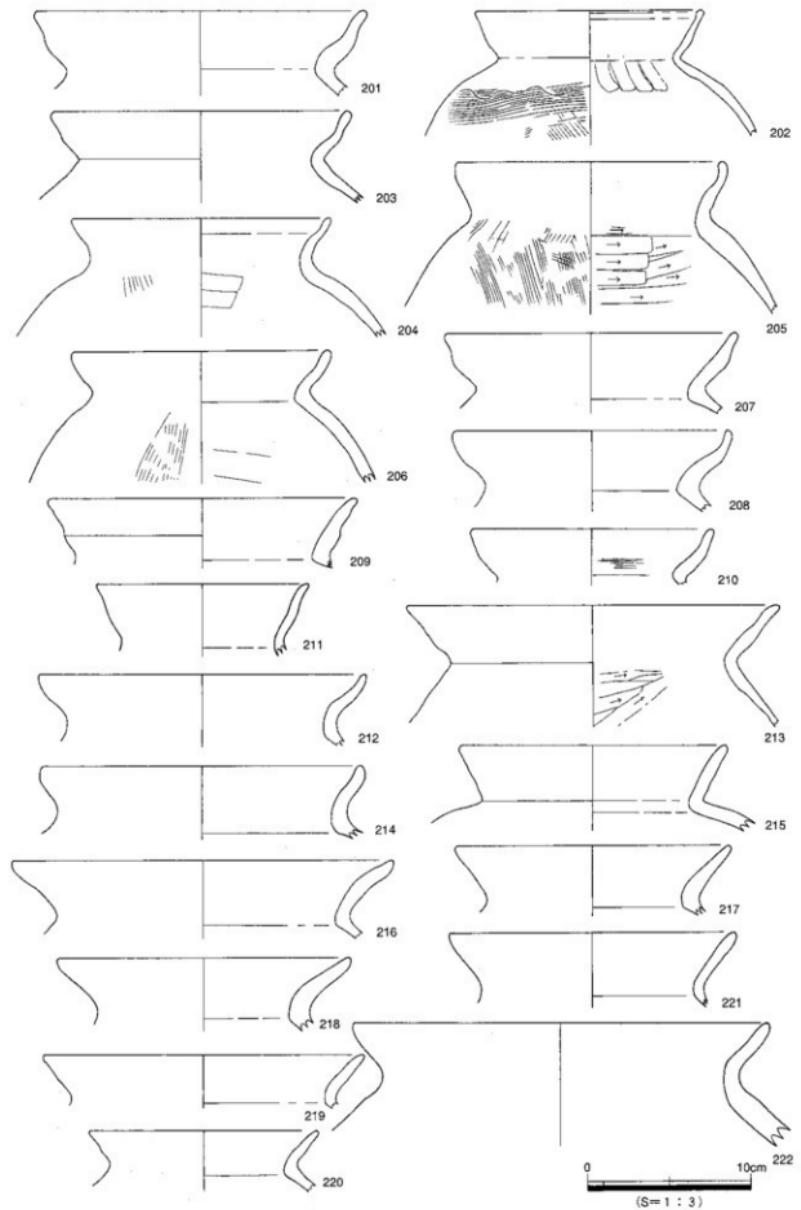
第29図 土器実測図



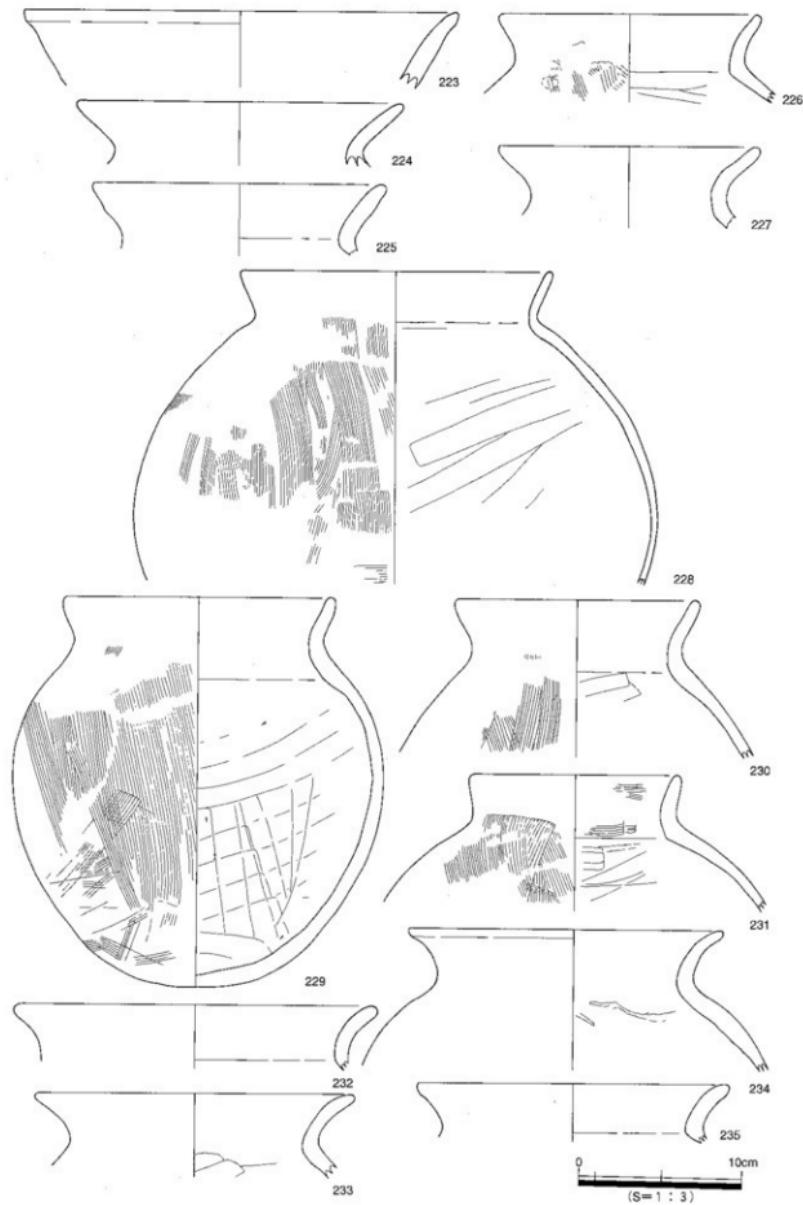
第30図 土師器実測図



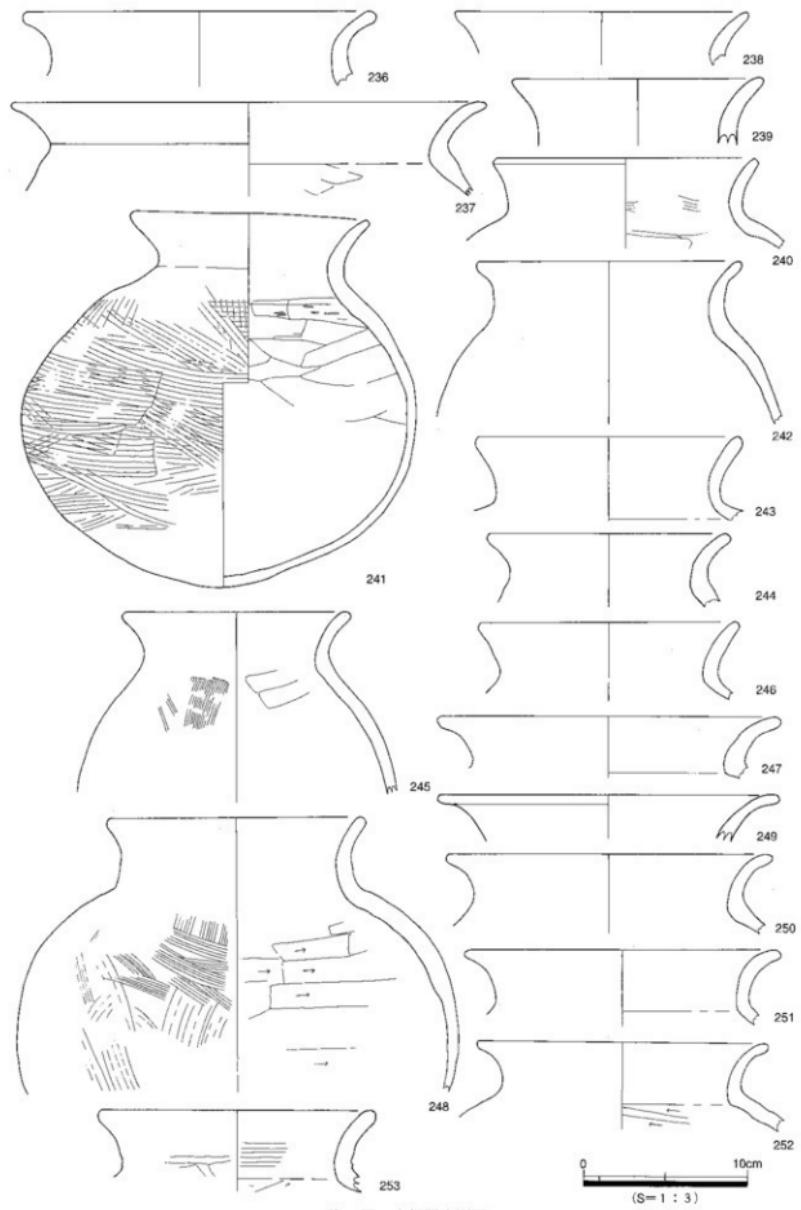
第31図 土器実測図



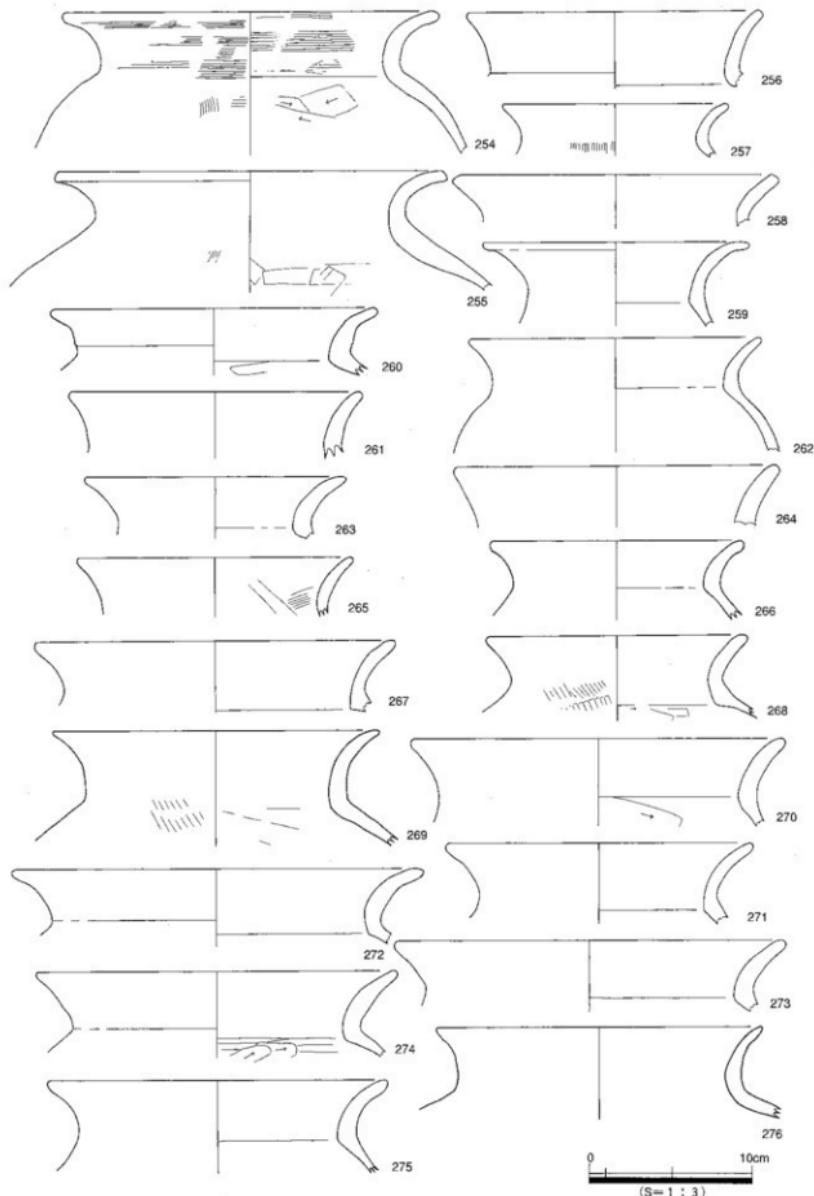
第32図 土器実測図



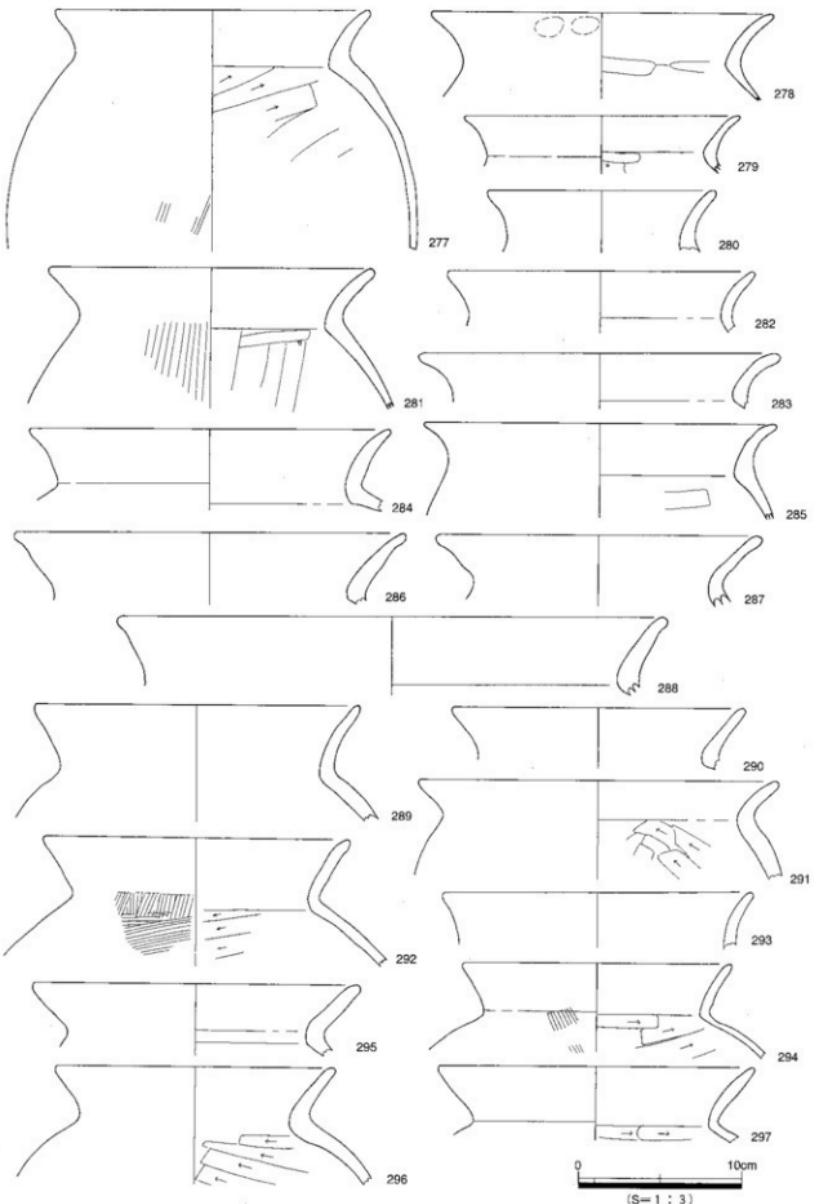
第33図 土器実測図



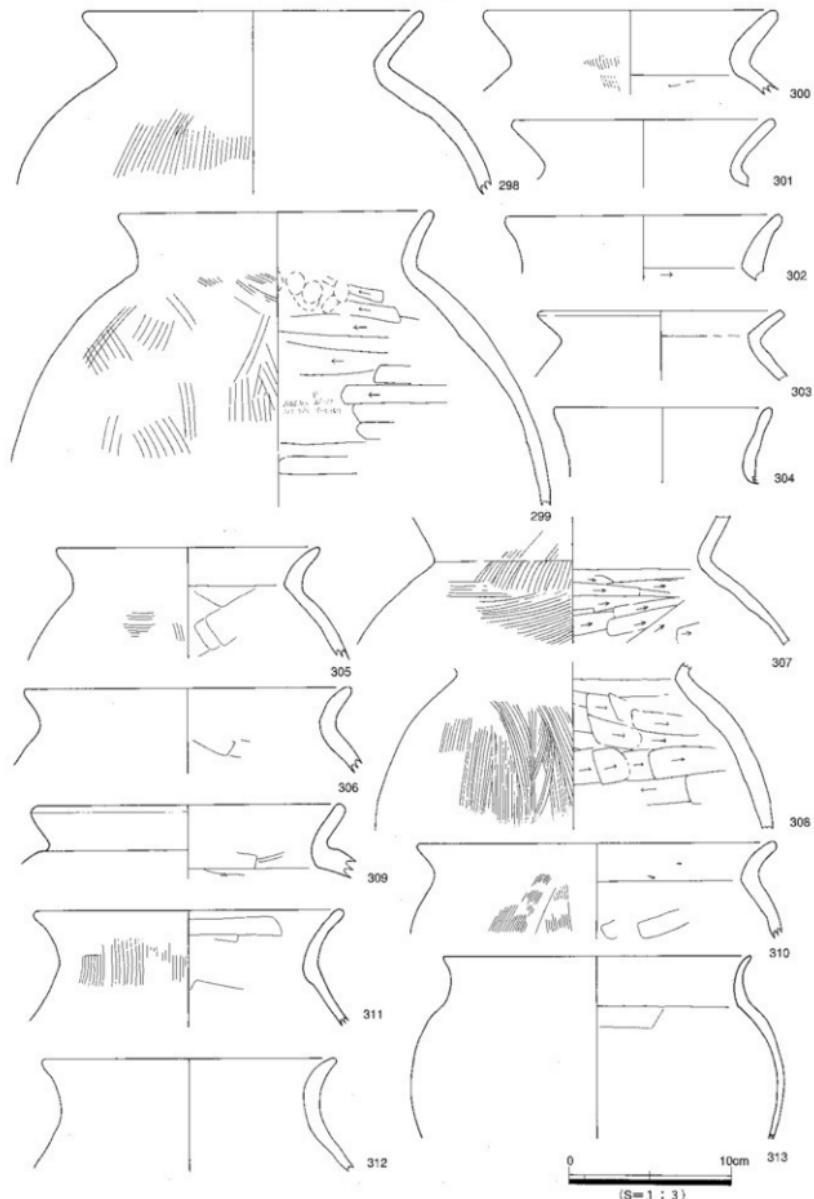
第34図 土器実測図



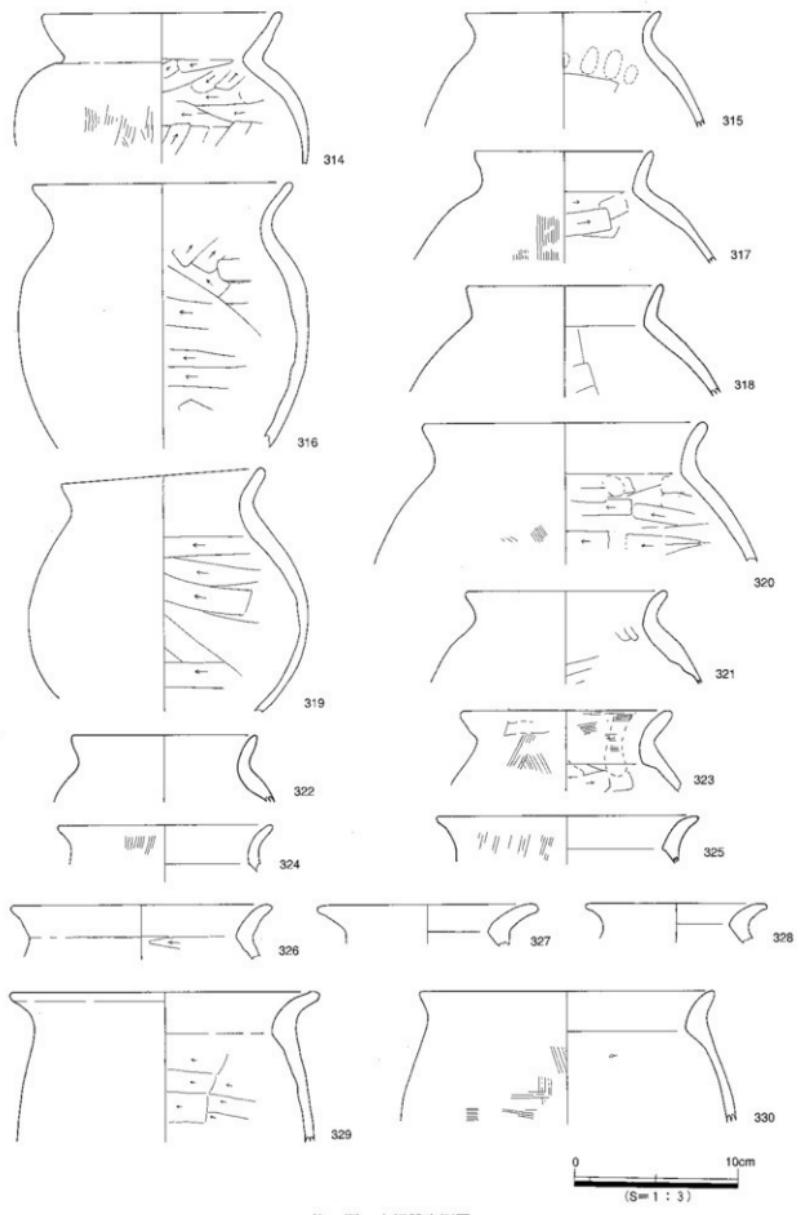
第35図 土篩器実測図



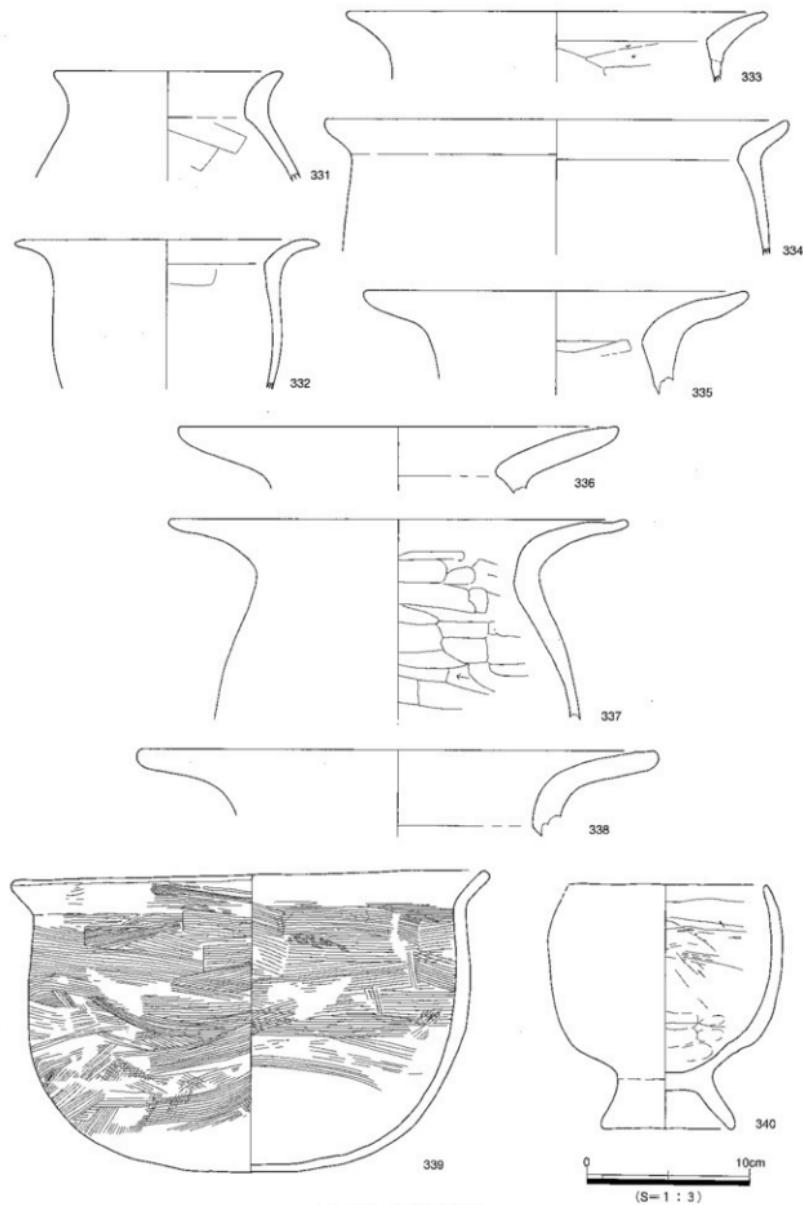
第36図 土器実測図



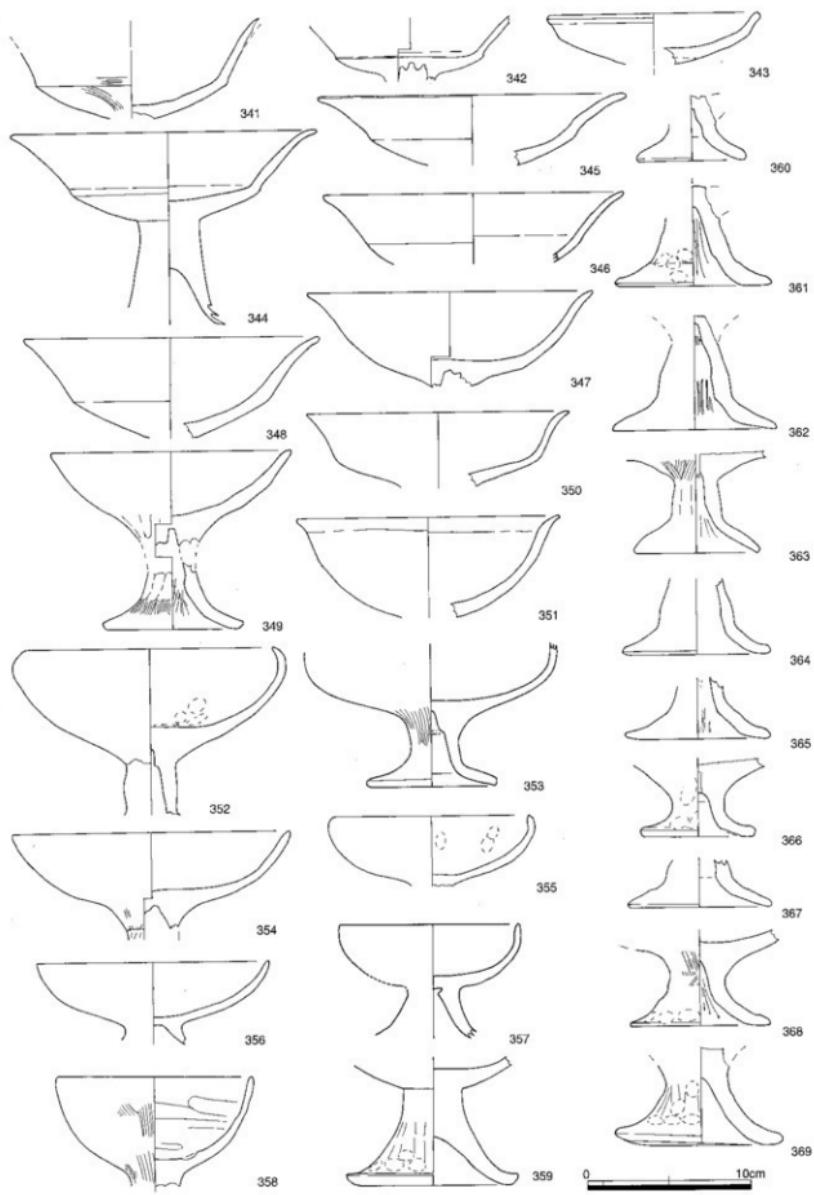
第37図 土器実測図



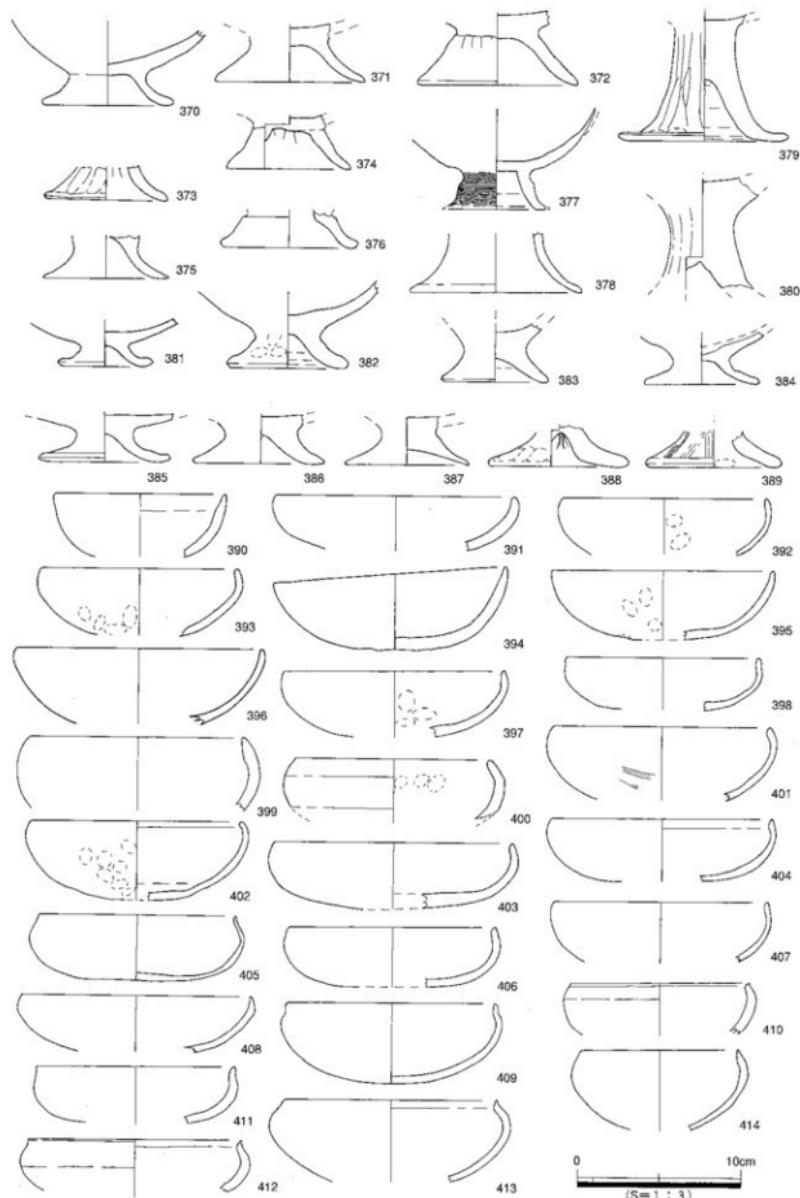
第38図 土筛器実測図



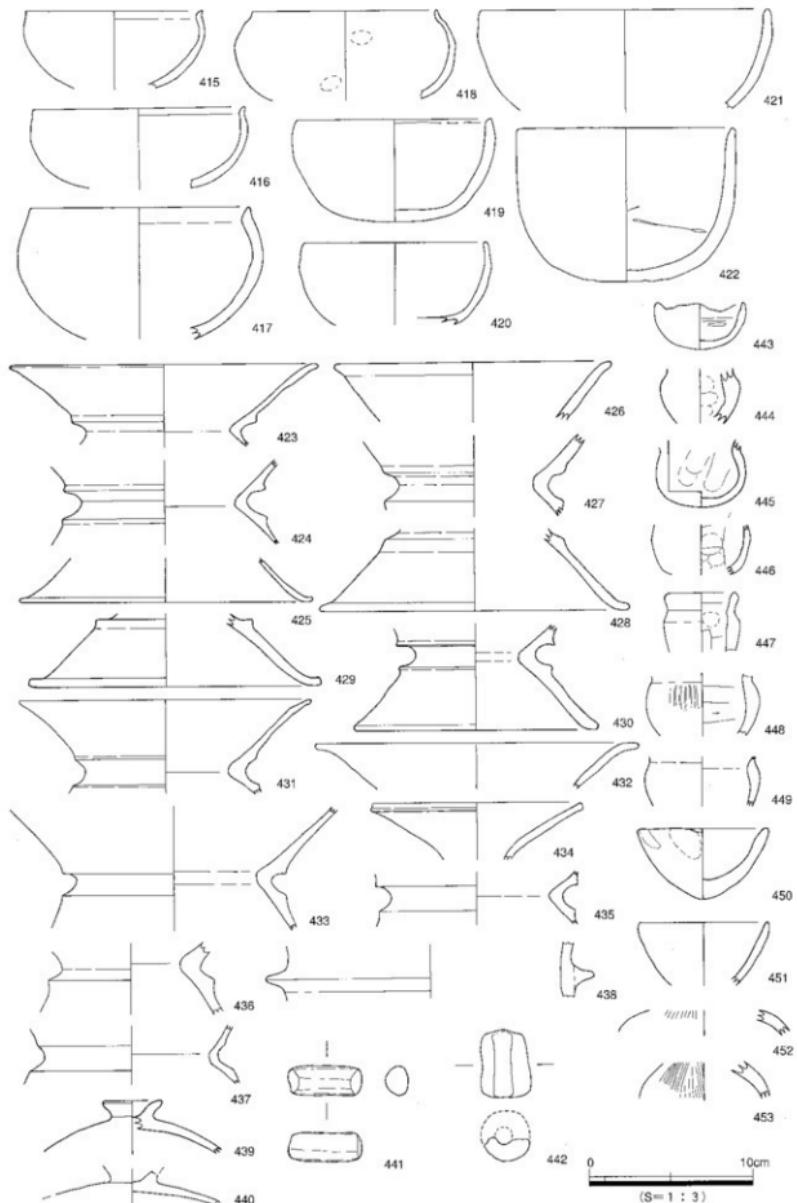
第39図 土築器実測図



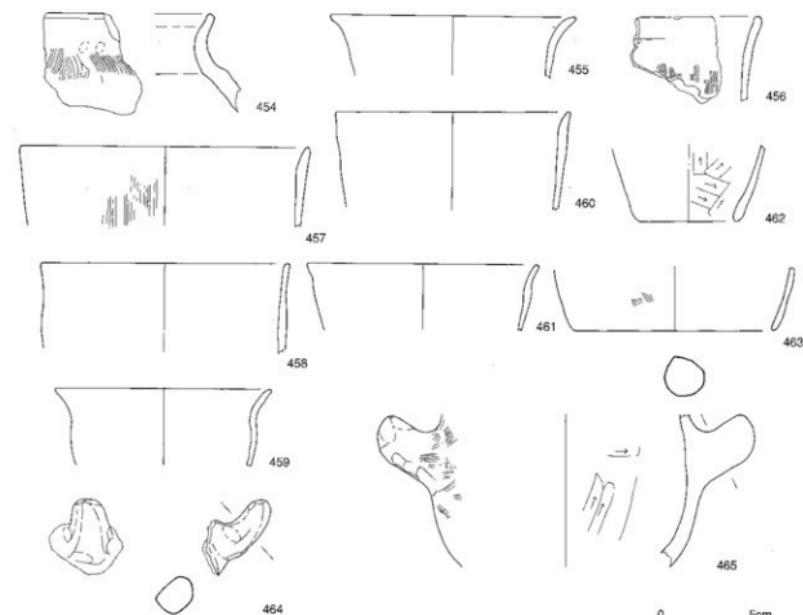
第40図 土師器実測図



第41図 土器実測図

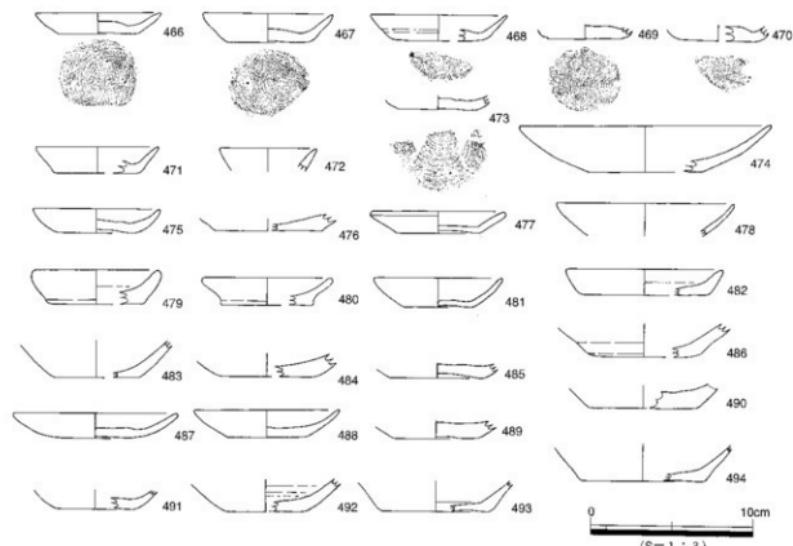


第42図 土器実測図

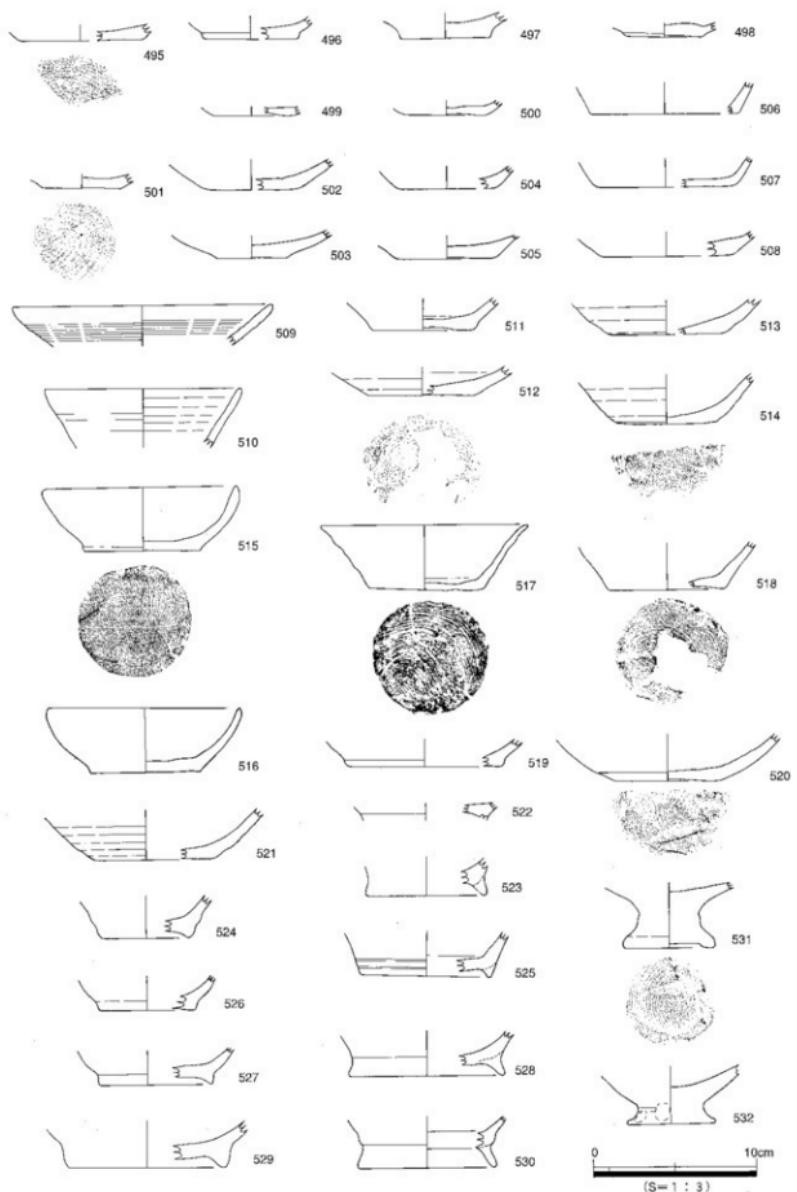


第43図

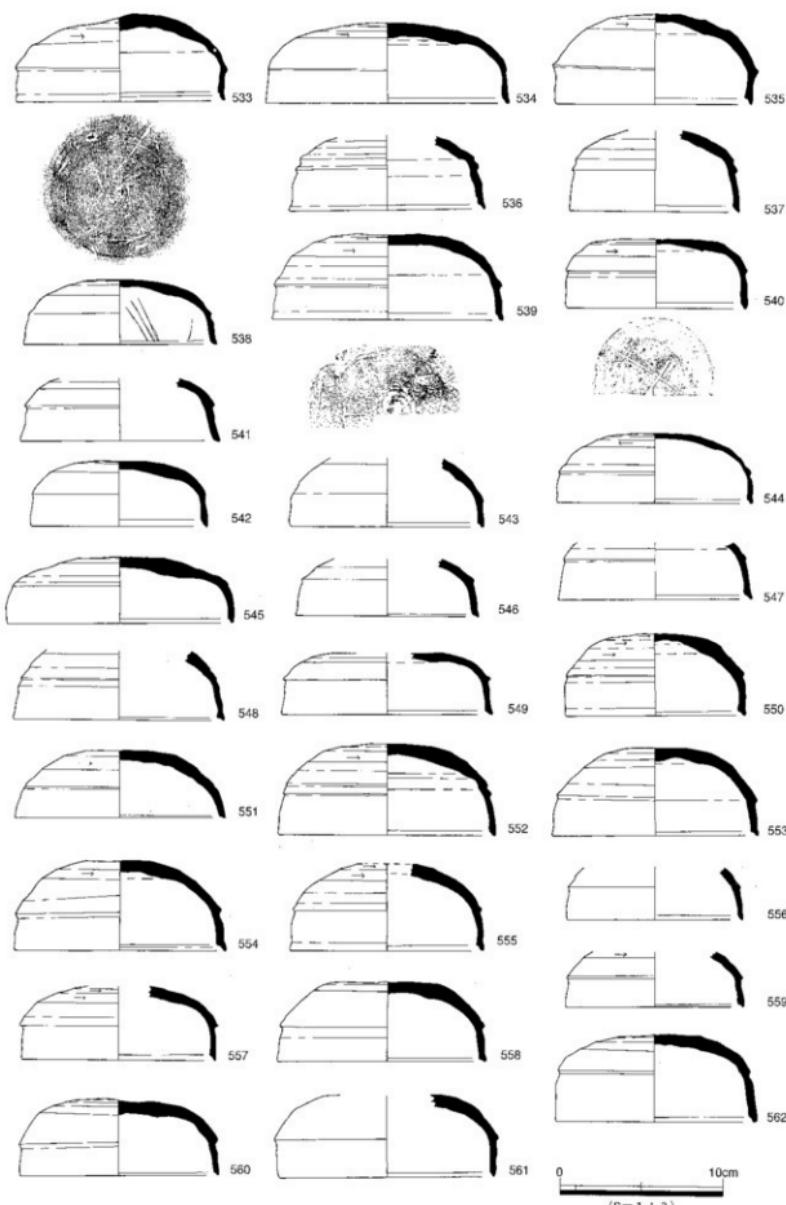
0 5cm  
(S=1:5)



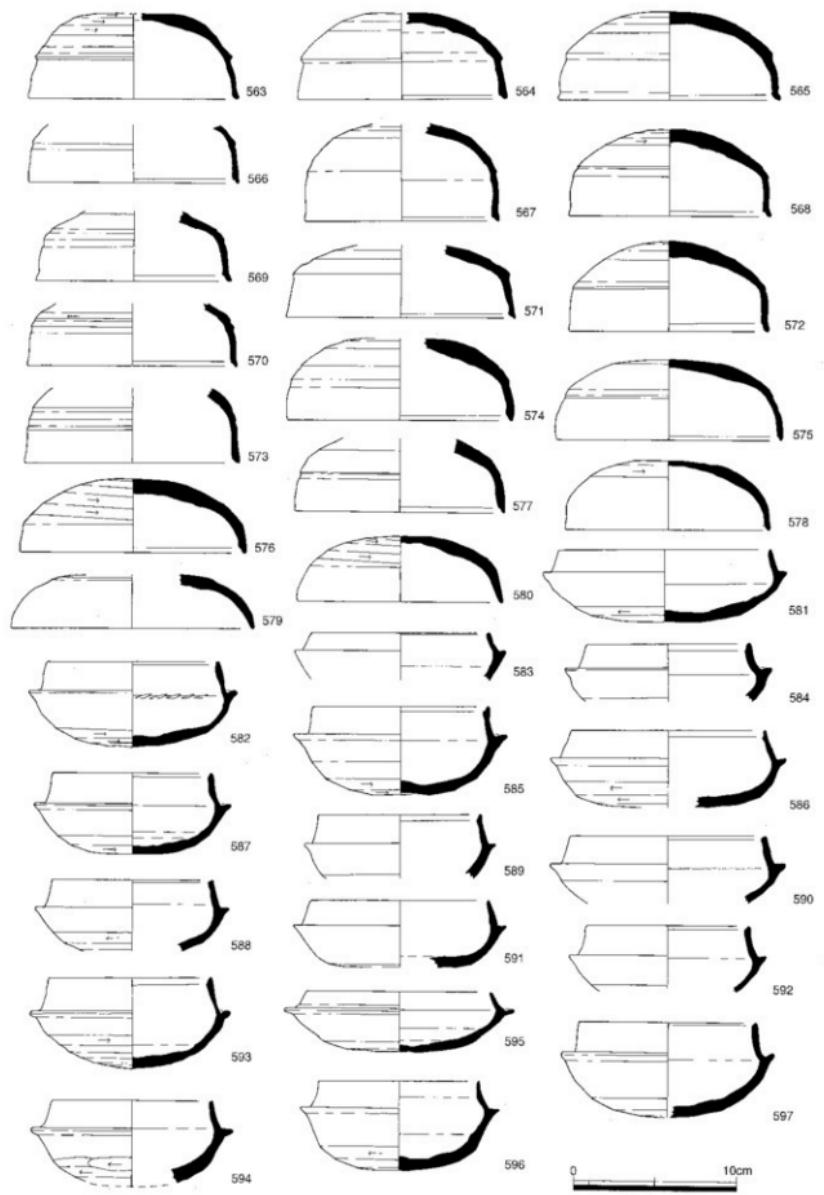
第44図 土師質土器実測図



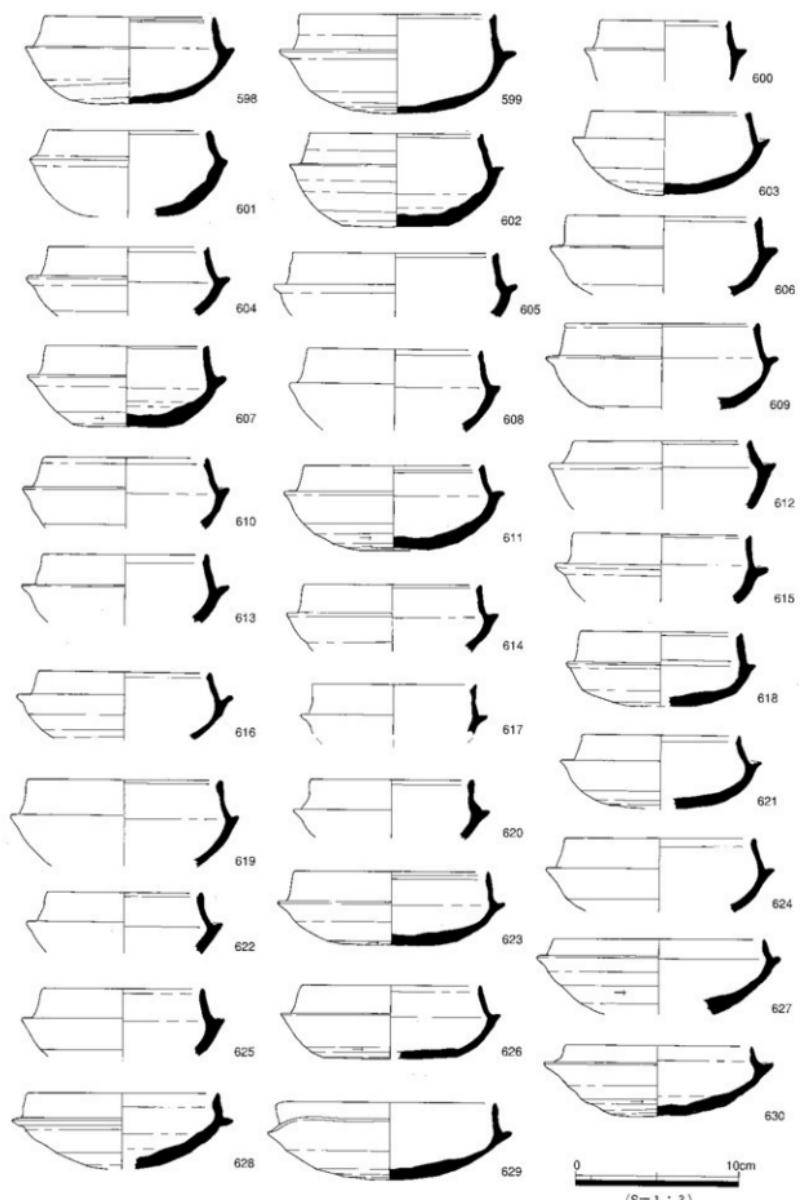
第45図 土器質土器実測図



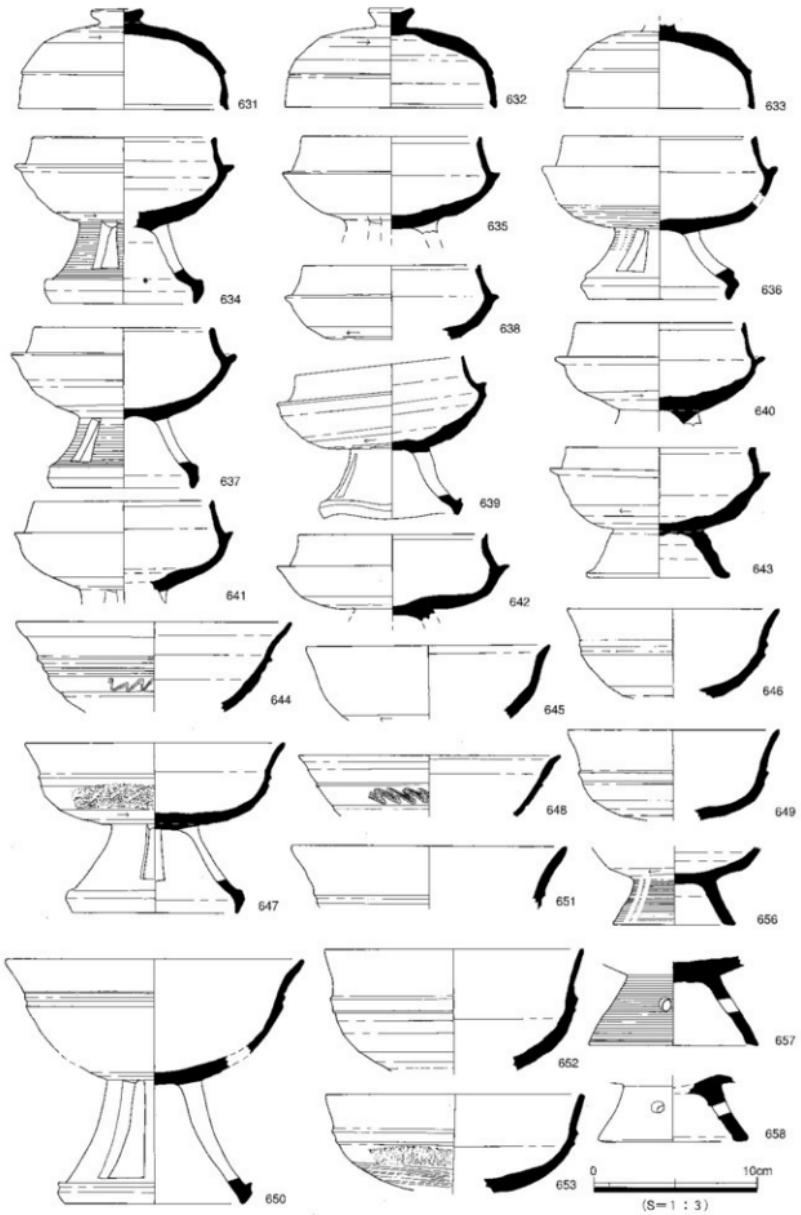
第46図 須恵器実測図



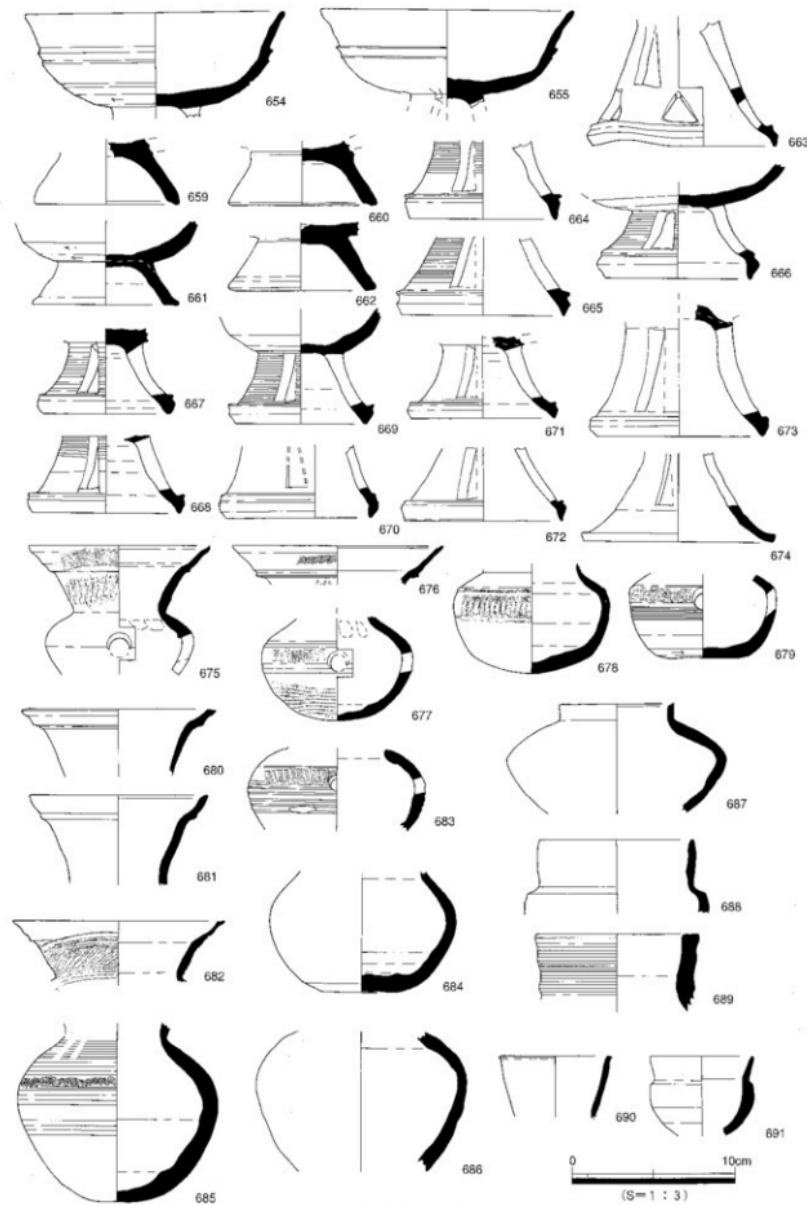
第47図 須恵器実測図



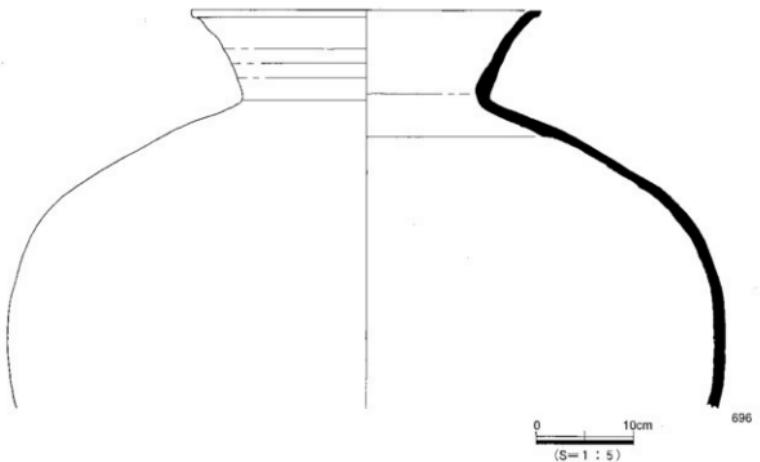
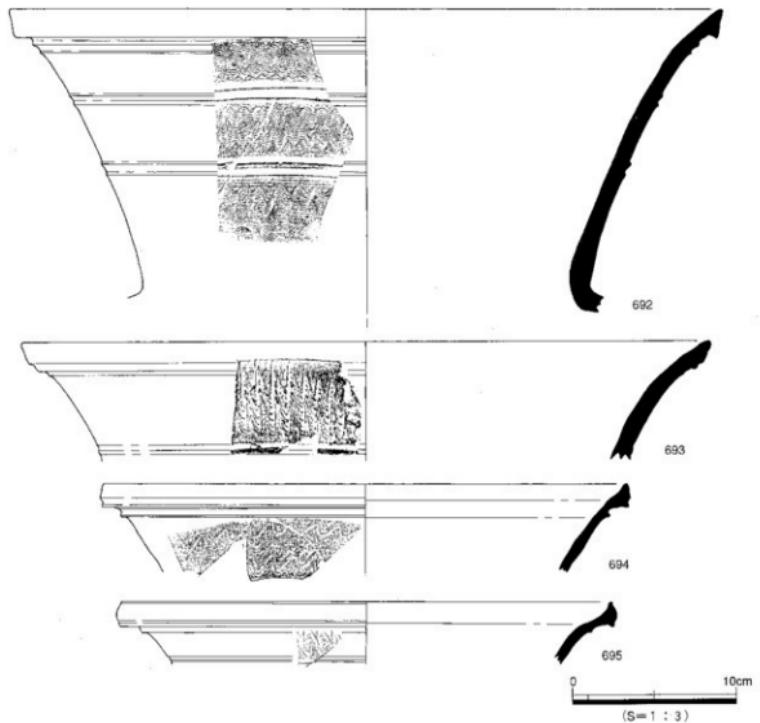
第48図 須恵器実測図



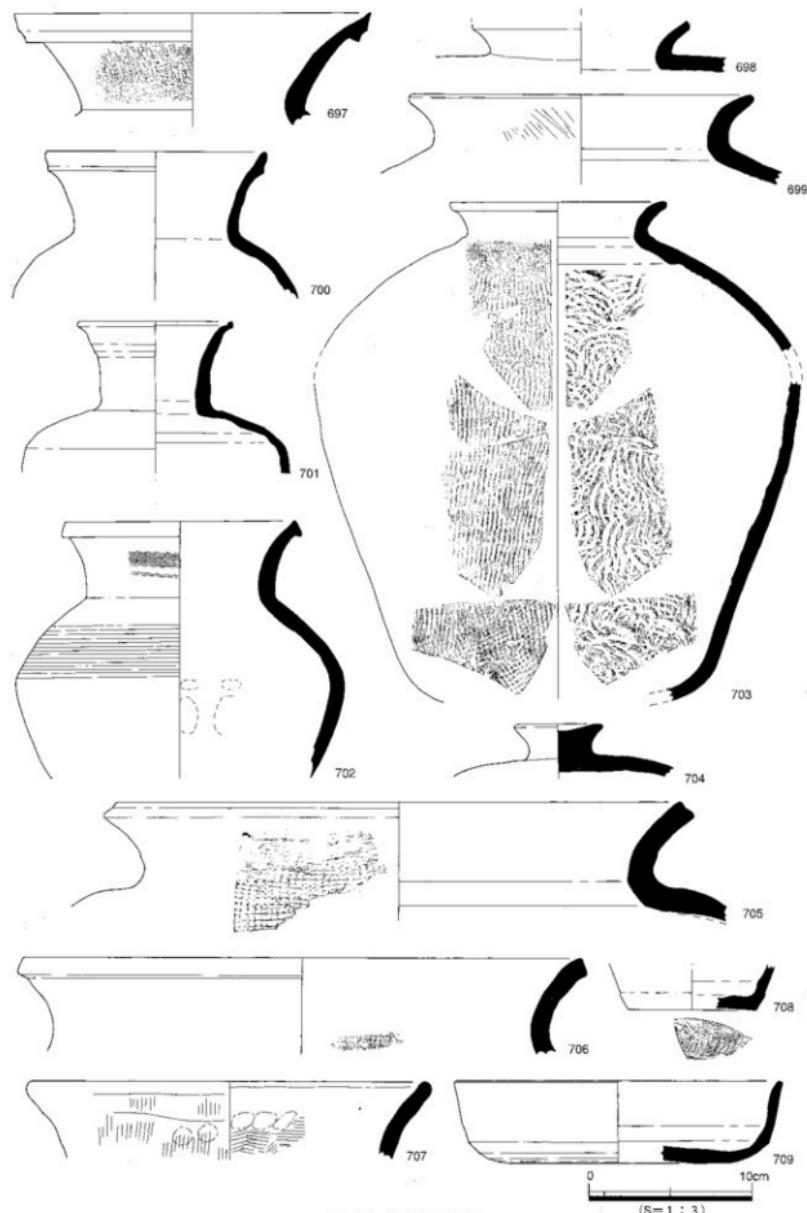
第49図 須恵器実測図



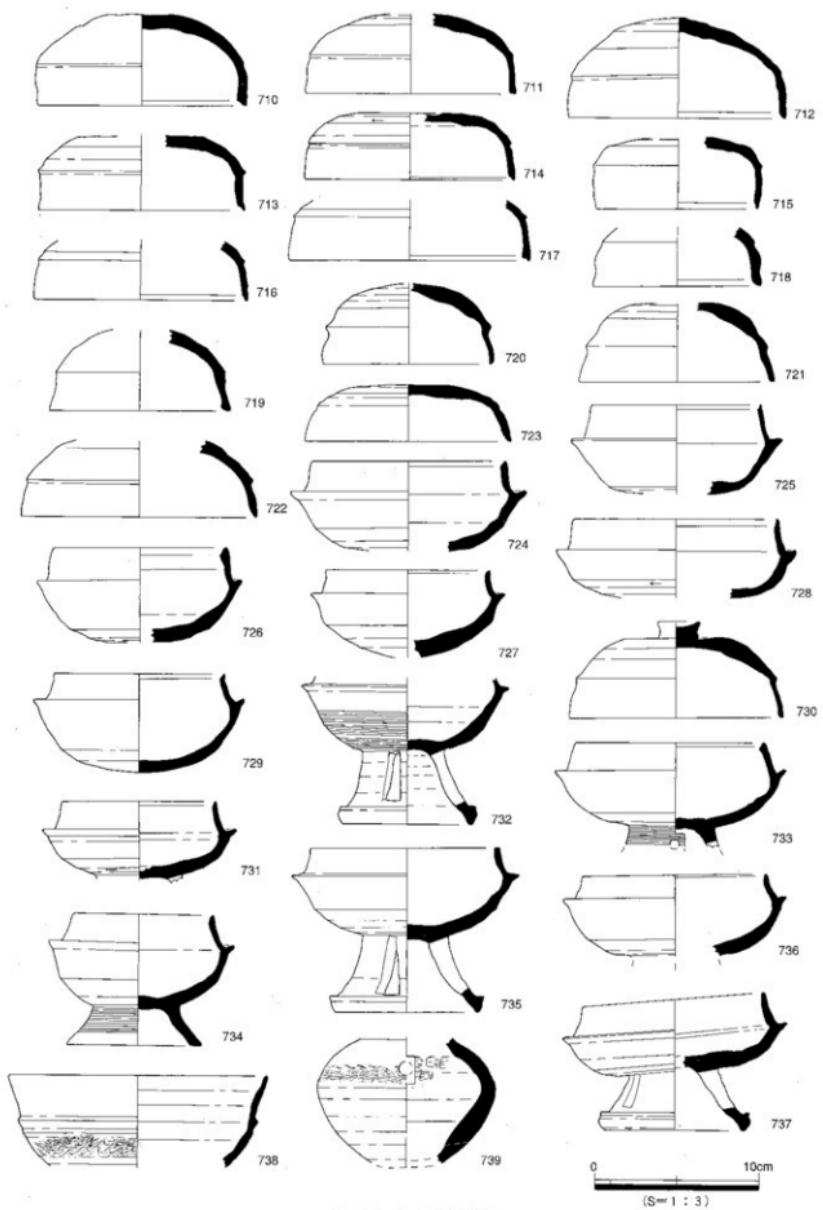
第50図 須恵器実測図



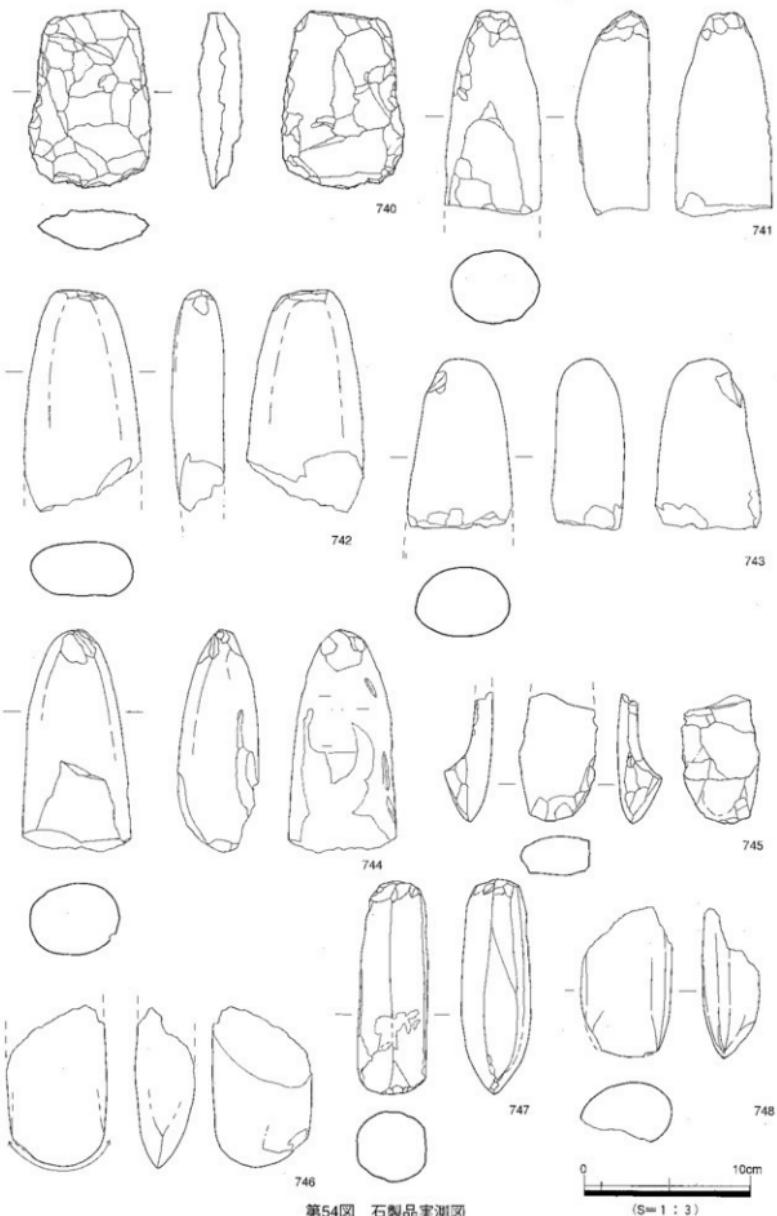
第51図 須恵器実測図



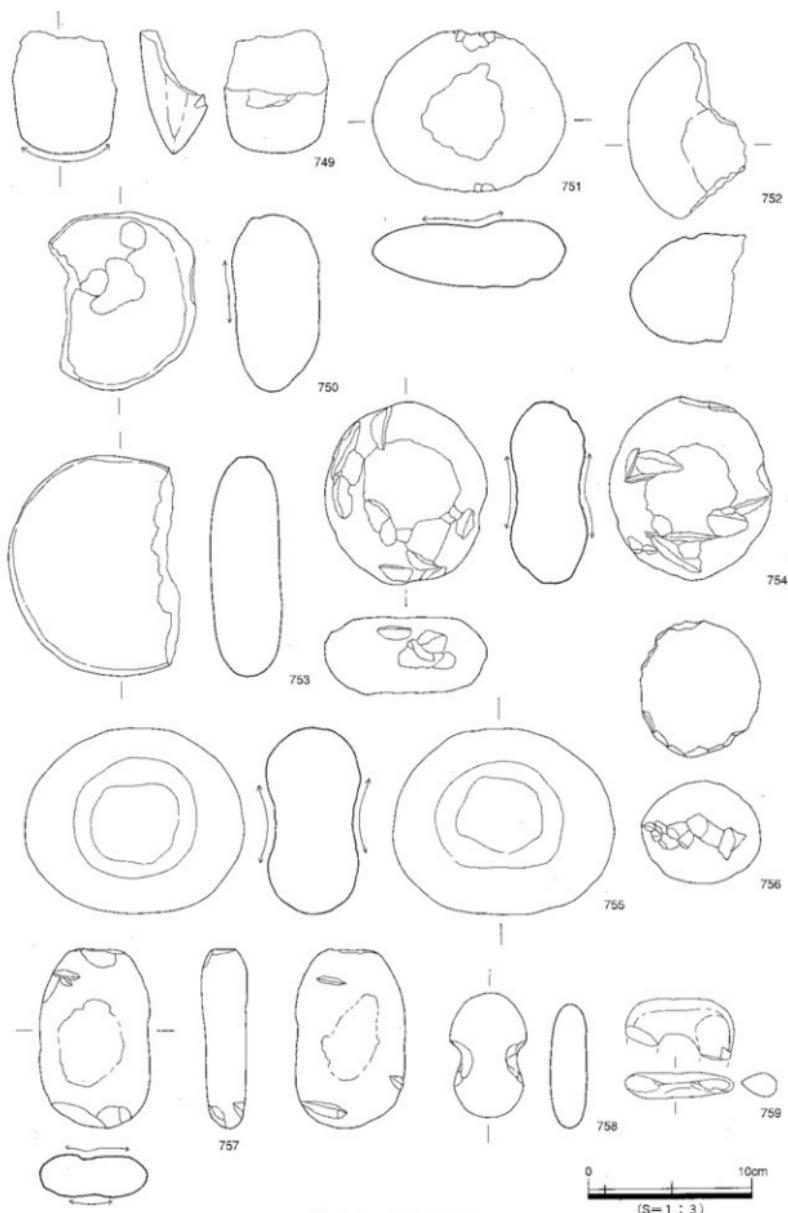
第52図 須恵器実測図



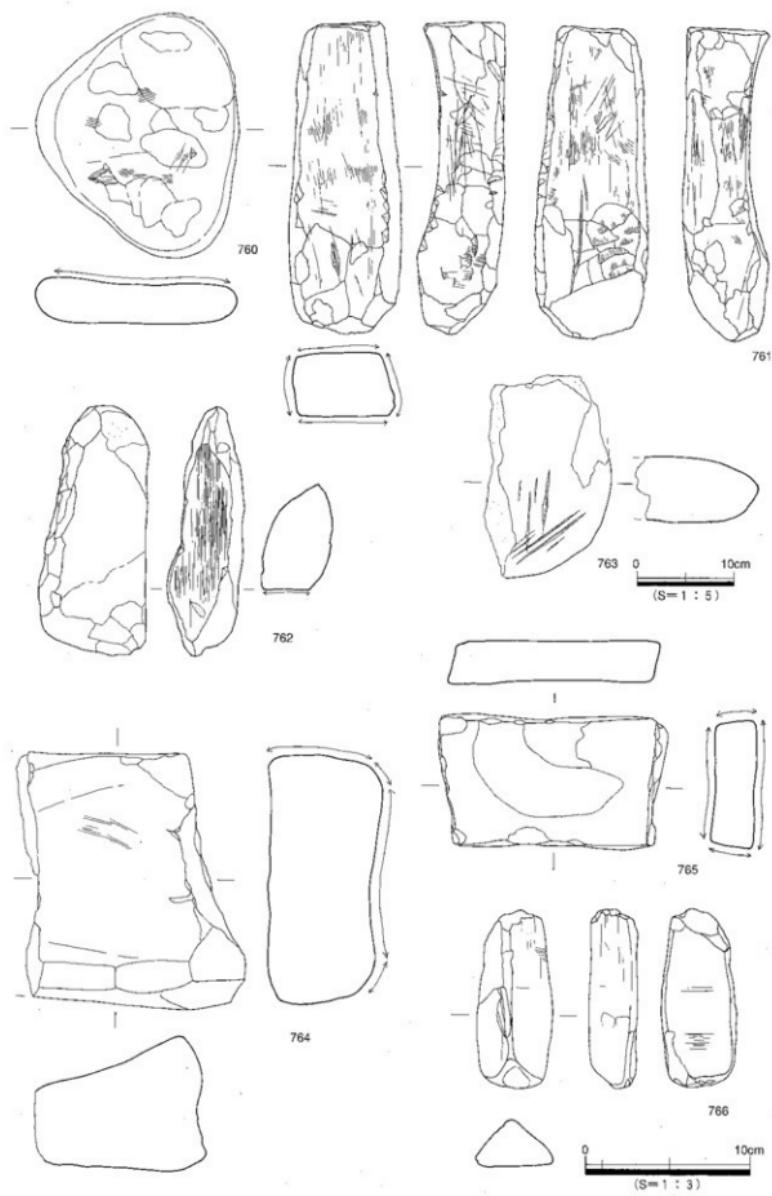
第53図 須恵器実測図



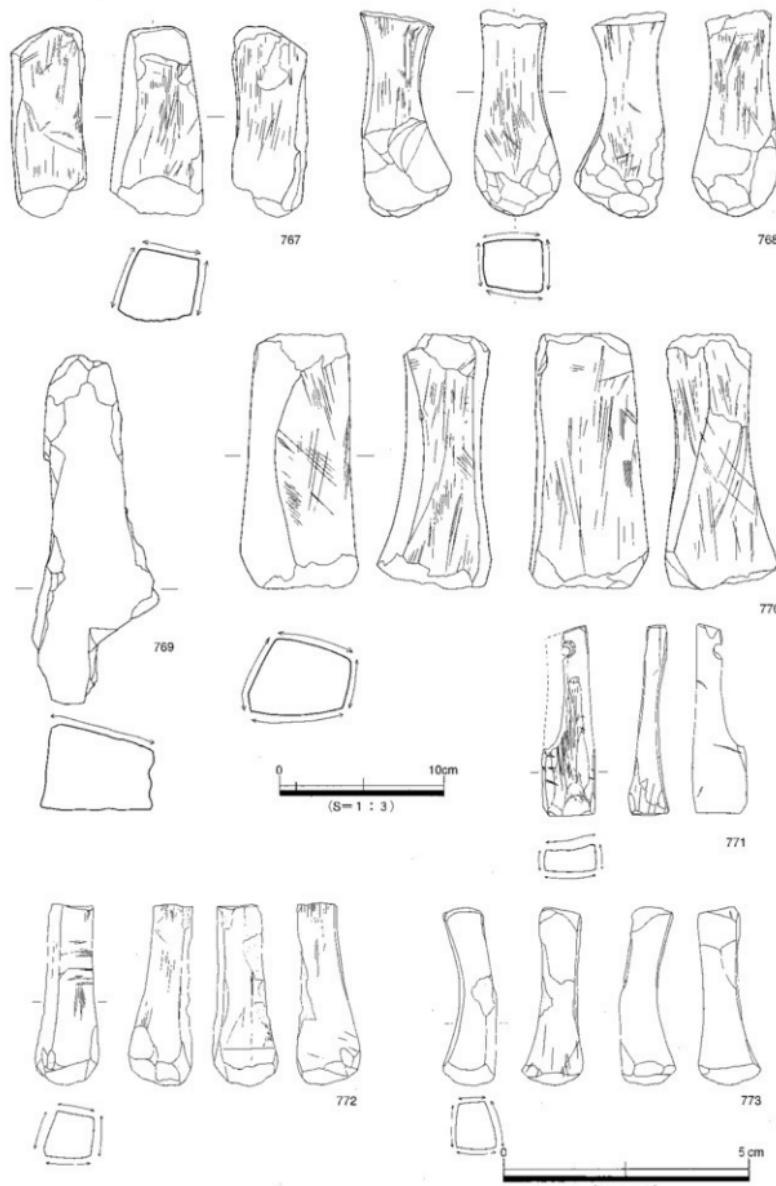
第54図 石製品実測図



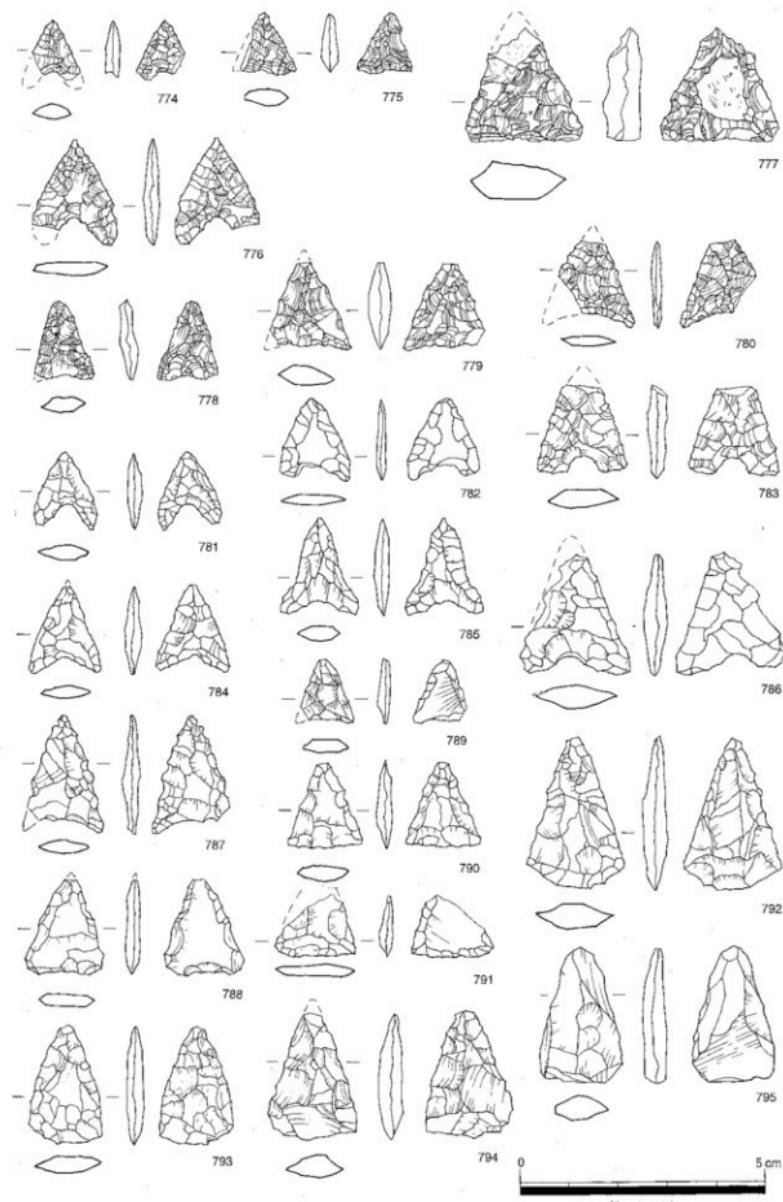
第55図 石製品実測図



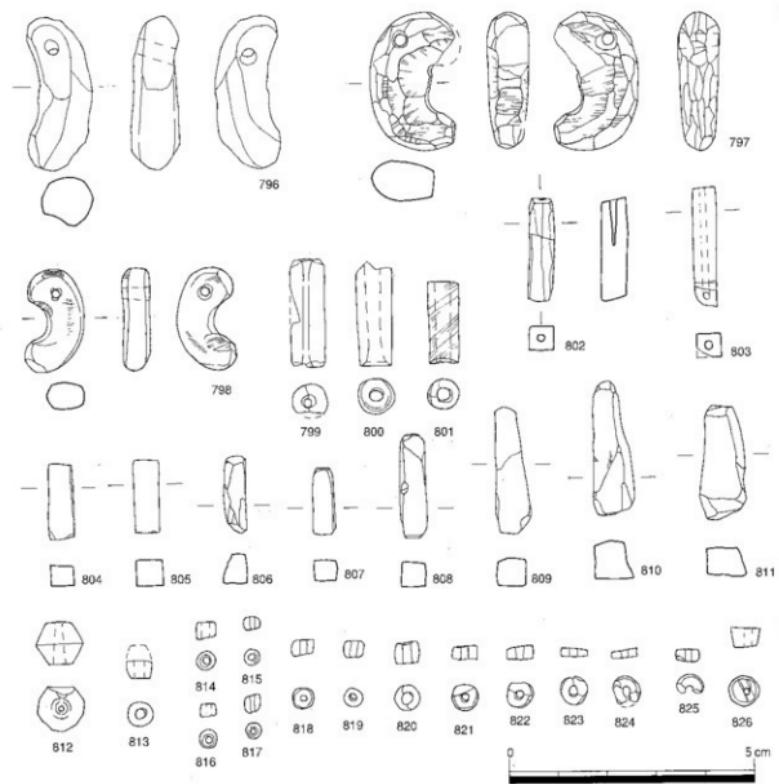
第56図 石製品実測図



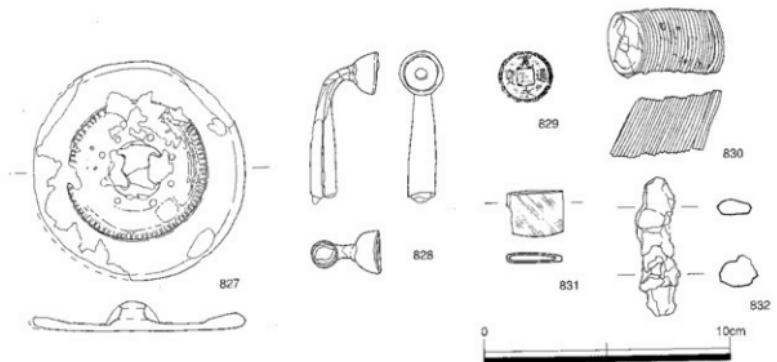
第57図 石製品実測図



第58図 石製品実測図



第59図 玉類実測図



第60図 銅・鉄製品実測図

表1 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(弥生土器)

採取番号	当種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	船上		色調	備考
						a : 口徑	b : 湯高	c : 腹径	d : 最大径
1	深鉢	b : 4.0	一系突帯	内外面ともナデ	良好 南 3mmの大砂粒含む	褐色			
2	甕	b : 1.9	一系突帯	(内)ナデ (外)ハケ目	良好 南 1mmの大砂粒含む	暗褐色			
3	甕	b : 1.7	一系突帯	内)ナデ	良 南 1mmの大砂粒含む	暗褐色			
4	甕	a : 17.2 b : 4.2		内外面ともハケ目	良好 南 1mmの大砂粒含む	褐色			
5	甕	b : 2.4	甕の口縁薄片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 南 1mmの大砂粒含む 砂粒を含む	褐色			
6	甕	b : 6.3	一系突帯	内)ナデ (外)ハケ目	良好 南 砂粒多い	褐色		(内)濃褐色 (外)淡褐色	
7	甕	a : 21.9 b : 5.4	口縁部に2条凹帯	口縁部内外面ともナデ (内)ケズリ(外)ナデ	良好 密 砂粒含む	褐色			
8	甕	a : 21.2 b : 3.4	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 砂粒含む	褐色			
9	甕	a : 25.6 b : 1.5	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 南 砂粒含む	褐色			
10	甕	a : 25.0 b : 1.6	甕の口縁部片	内)ナデ (外)口縁部削目 内外面とも調整不順 口縁部削目	良好 密 砂粒含む	褐色			
11	甕	a : 16.9 b : 4.1	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 砂粒含む	褐色			
12	甕	a : 29.8	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
13	甕	a : 16.0 b : 2.5	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
14	甕	a : 21.6 b : 3.9	甕の口縁部片	内)ナデ (外)ナデハケ口	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色			
15	甕	a : 18.0 b : 2.1	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 1.5mmの大砂粒含む	淡灰褐色	SI12		
16	甕	a : 22.6 b : 2.6	甕の口縁部片	口縁部内外面ともナデ 他内外面ともハケ目	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
17	甕	a : 16.2 b : 3.7	甕の口縁部片	内外面ともナデ 口縁部削目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色		SI11	
18	甕	a : 19.2 b : 1.4	口縁部に1条凹帯	内外面ともナデ	良好 密 2mm人の砂粒含む	褐色			
19	甕	a : 27.0 b : 2.5	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 2mm人の砂粒含む	褐色			
20	甕	a : 16.0 b : 2.8	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 2mm人の砂粒含む	褐色			
21	甕	a : 17.5 b : 4.5	甕口縁部片	内外面とも調整不順	良好 密 褐色	SI12			
22	甕	a : 24.4 b : 7.7	甕口縁部片	内)ハケ目ナデ 外)ハケ目	良好 密 3mmの大砂粒含む	褐色			
23	甕	a : 20.0 b : 6.1	甕口縁部片	内)ナデアズリ 外)ナデ	良好 密 砂粒含む	褐色			
24	甕	a : 23.0 b : 5.8	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
25	甕	a : 22.4 b : 7.9	甕口縁部片	内)ナデ 外)ハケ目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色			
26	甕	a : 22.2 b : 6.3	甕口縁部片	内)ナデ 外)調整不順	良好 密 3mmの大砂粒含む	褐色			
27	甕	a : 21.2 b : 5.0	甕口縁部片	内)ナデ 外)ハケ目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色			
28	甕	a : 21.3 b : 2.1	甕口縁部片	内)ナデ 外)ナデ	良好 密 1.5mmの大砂粒含む	褐色			
29	甕	a : 27.5 b : 4.7	甕口縁部片	内)ナデアズリ 外)ナデ	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色		SI07	
30	甕	a : 16.3 b : 1.5	甕口縁部片	内)ナデ 外)ハケ目	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
31	甕	a : 18.5 b : 3.0	甕口縁部片	内)ナデアズリ 外)ナデ	良好 密 1.5mmの大砂粒含む	褐色			
32	甕	a : 23.4 b : 5.9	甕口縁部片	口縁部内外面ともナデ 他内外面ともハケ目	良好 密 2mm人の砂粒含む	褐色			
33	甕	a : 21.2 b : 2.6	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 1.5mmの大砂粒含む	褐色			
34	甕	a : 20.4 b : 4.3	甕口縁部片	外)ハケ目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色			
35	甕	a : 21.6 b : 7.7	甕口縁部片	内)ナデ 外)ハケ目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色		(内)褐色 外)暗褐色	
36	甕	a : 20.1 b : 3.1	甕口縁部片	内)ナデ 外)ハケ目	良好 密 2mmの大砂粒含む	褐色			
37	甕	a : 18.2 b : 2.5	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 3mmの大砂粒含む	褐色			
38	甕	a : 23.5 b : 2.8	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 1.5mmの大砂粒含む	褐色			
39	甕	a : 16.2 b : 4.2	甕口縁部片	内)ケズリ 外)ナデ	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			
40	甕	a : 23.9 b : 2.7	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 3mm人の砂粒含む	褐色			
41	甕	a : 18.4 b : 2.3	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好 密 1mmの大砂粒含む	褐色			

表2 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(弥生土器)

開拓番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	船上	色調	備考
42	甕	a : 17.1 b : 6.6	甕口縁部片	(内) ナデケズリ (外) ナデハケ目	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐色	
43	甕	a : 18.5 b : 6.9	甕口縁部片	(内) ハケ目 (外) ナデハケ目	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐褐色	
44	甕	a : 14.5 b : 6.8	甕口縁部片	内外面とも調整不明	良好	密	褐色	
45	甕	a : 21.7 b : 2.3	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好	密 砂粒含む	褐褐色	
46	甕	a : 23.5 b : 2.0	甕口縁部片	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	(内) 褐色 (外) 褐褐色	
47	甕	a : 18.8 b : 1.6	甕口縁部片	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	(内) 褐色 (外) 褐褐色	S109
48	甕	a : 18.6 b : 3.5	甕口縁部片	口縁部内外面ともナデ 外側面とモガキ	良好	密 3mm大の砂粒含む	褐色	
49	甕	a : 17.2 b : 4.5	甕口縁部片	内外面ともハケ目	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色	
50	甕	a : 18.2 b : 1.6	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色	
51	甕	a : 19.0 b : 3.2	甕口縁部片	内外面ともナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含む	(内) 褐色 (外) 褐褐色	S115
52	甕	a : 19.6 b : 5.2	甕口縁部片	(内) ナデ (外) ハケ目後ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色	
53	甕	a : 30.3 b : 3.9	甕口縁部片	(内) ナデ (外) ナデハケ目	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐褐色	
54	甕	a : 28.0 b : 7.7	甕口縁部片	(内) ナデハケ目 (外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	(内) 褐色 (外) 淡褐色	
55	甕	a : 26.0 b : 6.3	甕口縁部片	(内) ナデ (外) 調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐褐色	S117
56	甕	a : 23.5 b : 2.5	甕口縁部片	(内) ナデ (外) ハケ目	良好	密 3mm大の砂粒含む	褐褐色	
57	甕	a : 13.6 b : 3.4	甕口縁部片	内外面ともハケ目	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色	
58	甕	a : 12.2 b : 6.7	甕口縁部片	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	(内) 褐色 (外) 淡褐色	
59	甕	a : 14.0 b : 1.5	甕口縁部片	内外面ともナデ	良	密 2mm大の砂粒含む	褐褐色	
60	甕	a : 15.4 b : 6.8	口縁部に凹線	(内) ナデハケ目 (外) ナデハケ後ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐色	
61	甕	a : 19.2 b : 3.7	口縁部に2条凹線	内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐色	
62	甕	a : 14.6 b : 2.0	口縁部に斜行する刻目	内外面ともナデ	良	密	淡褐色	
63	甕	a : 19.9 b : 2.3	口縁部に斜行する刻目	内外面とも調整不明	良	密	淡褐色	
64	甕	b : 3.0	内外面ともナデ	良好	密	褐色		
65	甕	b : 3.7	腰肩部	腰付け凹円 (内) 調整不明	良	密	棕褐色	
66	甕	a : 11.1 b : 2.8	甕口縁部	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密	褐褐色	S114
67	甕	a : 10.7 b : 2.5	口縁部に4条凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	
68	甕	a : 18.3 b : 4.3	口縁部に3条凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐色	
69	甕	a : 16.8 b : 3.1	口縁部に凹線	(内) ナデケズリ (外) ハケ目	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	S113
70	甕	a : 18.3 b : 4.1	甕口縁部	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	S115
71	甕	a : 16.0 b : 1.5	口縁部に凹線	内外面ともナデ	良好	密	褐褐色	
72	甕	a : 25.8 b : 1.8	口縁部に4条凹線	内外面ともナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含む	淡褐色	
73	甕	a : 14.4 b : 3.1	口縁部に凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密	褐褐色	S117
74	甕	a : 25.6 b : 6.7	口縁部に凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 1.5mm大の砂粒含む	褐色	S117
75	甕	a : 18.7 b : 3.5	口縁部に3条凹線	内外面とも調整不明	やや軟質	やや粗	褐色	
76	甕	a : 21.6 b : 3.6	口縁部に4条凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密	(内) 褐色 (外) 褐褐色	
77	甕	a : 18.6 b : 4.5	口縁部に凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密	(内) 褐色 (外) 褐褐色	S117
78	甕	a : 22.6 b : 7.7	口縁部に7条凹線 只数較少	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色	
79	甕	a : 25.6 b : 7.2	口縁部に3条凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデハケ目	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	
80	甕	b : 8.0	口縁部に凹線 周部) ヘラ彫文	(内) 調整不規 (外) ナデ	良	密	淡褐色	
81	甕	b : 14.1 d : 27.2	腰肩部	(内) 腰部ヘラ彫文 内外面とも調整不明	良好	密	(内) 褐褐色 (外) 褐色	S123
82	甕	a : 15.2 b : 3.3	口縁部に凹線	(内) ナデケズリ (外) ナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐褐色	
83	甕	a : 15.2 b : 3.9	口縁部に凹線	内外面とも調整不明	良	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	

表3長砂第3遺跡出土遺物観察表(弥生土器)

団体番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴		施成	地土	色調	備考
				内外面ともナデ	内外面ともナデ				
84	甕	a : 13.5 b : 2.9	口縁部に5条目線	良好	密 0.5mm大の砂粒含む	褐色			
85	甕	b : 14.2	頭部円孔	良	砂粒含む	内) 暗褐色 外) 程褐色			
86	壺	a : 18.8 b : 4.7	近く外反する口縁	良好	砂 4mm大の砂粒含む	褐色			
87	壺	a : 15.2 b : 4.6	近く外反する11縫	良好	密 2mm大の砂粒含む	暗褐色			
88	壺	b : 4.5	有段窓の頸部	内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色		
89	壺	a : 15.6 b : 3.2	後側窓の1縫部	内外面ともナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色		SI22
90	脚付甕	a : 19.6 c : 12.0 d : 21.9	脚付の裏 脚部に其紋様 口縁部2状沈線	内) ナデケ目 外) ナデラミガキ	良好	密 1mm大の砂粒含む	赤褐色		
91	壺	b : 14.0	壺の頸部	内外面とも剥離不明	良好	砂 2mm人の砂粒含む	褐色		
92	壺	b : 7.7 c : 8.5	小型壺の胴部	内) ナデケズリ 外) ハケナナデ	硬質	砂	暗褐色		
93	壺	b : 9.7 c : 4.5	小型壺の蓋	内) ナデ 外) ハケ目ミガキ	良	砂 3mm大の砂粒含む	棕褐色		
94	器台	b : 3.7 c : 12.8	4条同縫	内) ナデケズリ 外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色		
95	器台	b : 2.7	器台の底脚	内) ナデケズリ 外) ナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色		SI17
96	鉢	b : 5.6 c : 2.1	鉢の口縁部	内外面ともナデ	良好	砂 1mm大の砂粒含む	棕褐色		
97	高环	a : 20.2 b : 4.9	凸環の耳部	内外面ともナデ	良好	砂 2mm大の砂粒含む	暗褐色		SI11
98	高环	a : 16.0 c : 9.2	凸環の脚部	内) ナデ 外) 調整不明	良好	砂 2mm大の砂粒含む	暗褐色		SI15
99	高环	b : 5.9 c : 10.4	凸環の脚部	内) ナデケズリ 外) ナデ	良好	砂 1mm大の砂粒含む	暗褐色		
100	高环	b : 4.0	高环	内) ケズリ 外) ナデアヌ	良好	密	暗褐色		
101	子持壺	a : 2.7 b : 5.8 c : 7.4	子持壺の小臺	内外面ともナデ	良好	密 5mm大の砂粒含む	褐色		
102	子持壺	a : 1.9 b : 6.8 c : 6.8	子持壺の小臺	内外面ともナデ	良好	5mm大の砂粒含む	褐色		
103	底部	b : 11.7 c : 6.6	平底	内) ハケ目ナデ 外) ハケ目	良好	密	暗褐色		
104	底部	b : 3.8 c : 6.7	底み底	内) 内外面とも調整不明	良好	密	褐色		
105	底部	b : 4.1 c : 9.6	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂 1mm大の砂粒含む	内) 褐色 外) 暗褐色		
106	底部	b : 3.8 c : 7.0	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂	褐色		
107	底部	b : 1.8 c : 5.8	平底	内) ケズリ 外) ナデ	良好	砂 1mm大の砂粒含む	暗褐色		SI17
108	底部	b : 1.6 c : 5.8	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂 1mm大の砂粒含む	淡灰褐色		SI15
109	底部	b : 2.3 c : 6.9	平底	内) 内外面ともナデ	良好	砂 1mm大の砂粒含む	褐色		SI11
110	底部	b : 2.6 c : 7.4	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂 1mm大の砂粒含む	暗褐色		SI11
111	底部	b : 5.1 c : 8.4	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂 1mm大の砂粒含む	暗褐色		SI18
112	底部	b : 6.8 c : 6.6	平底	内) 内外面ともナデ	良好	砂 3mm大の砂粒含む	内) 褐色 外) 暗褐色		SI13
113	底部	b : 5.1 c : 8.8	平底	内) 内外面とも調整不明	良好	砂 1mm大の砂粒含む	暗褐色		SI13
114	底部	b : 3.3 c : 8.0	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂 1mm人の砂粒含む	暗褐色		
115	底部	b : 3.2 c : 8.4	平底	内) ナデ 外) ハケ目	良好	砂	褐色		SI18
116	底部	b : 9.0 c : 6.6	平底	内) 内外面とも調整不明	良好	砂 砂粒含む	暗褐色		
117	底部	b : 9.6 c : 10.4	平底	内) ナデ 外) ミガキ	良好	砂 砂粒多量に含む	茶褐色		
118	底部	b : 6.0 c : 8.0	平底	内) ナデ 外) ミガキハケ目	良好	砂 内) 褐色 外) 暗褐色			
119	底部	b : 6.2 c : 8.0	平底	内) ナデ 外) ミガキハケ目	良好	砂	褐色		
120	底部	b : 6.0 c : 9.6	平底	内) 内外面ともナデ	良好	砂	褐色		
121	底部	b : 4.3 c : 13.0	平底	内) 内外面ともナデ	良好	砂	内) 暗褐色 外) 褐色		
122	底部	b : 4.2 c : 15.2	平底	内) 内外面ともナデ	良好	砂	内) 暗褐色 外) 褐色		
123	底部	b : 2.1 c : 9.4	平底	内) ケズリ 外) ナデ	良好	砂	暗褐色		

表4 長砂第3遺跡 出土遺物觀察表（土師器）

(a : 口径 b : 基高 c : 案径 d : 最大径)

図版番号	器種	法量	形態の特徴	手 法 の 特 徴	燒 成	胎 土	色 調	備 考
124	壺	a : 18.1 b : 4.7	瓶底が大きく立上る 複合口縁部	内外面とも調整不規	良好	密	淡褐色	SI15
125	壺	a : 16.9 b : 5.5	複合口縁部	内外面とも調整不明	良好	密	褐色	SI16
126	壺	a : 24.5 b : 9.9	瓶底が大きく立上る 複合口縁部	内外面ともナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色	
127	壺	a : 17.9 b : 8.2	瓶底が大きく立上る 複合口縁部	内) 瓶底下ドリ 他内外面ともナデ	良	密	褐色	
128	壺	a : 17.1 b : 5.0	瓶底が大きく立上る 複合口縁部	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
129	壺	a : 5.8	壺の頸部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
130	壺	b : 5.9	壺の頸部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
131	壺	b : 2.7	壺の頸部	内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	SI20	
132	壺	a : 9.1 b : 11.6 c : 14.9	直口壺	内) 瓶底下ケズリ他不明 外) ハケ日	良好	密	淡褐色	
133	壺	a : 8.6 b : 5.8	直口壺口縁部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	SI15
134	壺	a : 9.0 b : 6.5	直口壺口縁部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
135	壺	b : 5.4	壺の肩部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
136	壺	b : 5.5 c : 17.0	壺の肩部	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	SI17
137	壺	b : 6.8 c : 19.0	壺の肩部	内外面ともナデ 外) 一部ケズリ	良好	密	淡褐色	
138	壺	b : 7.3	壺の肩部	(内) ケズリ 外) 調整不明	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色	
139	壺	b : 12.2	壺の肩部	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	SI15
140	壺	b : 4.6 d : 14.2	壺の肩部	内外面ともナデ	良好 最長	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色 外) 淡褐色	
141	壺	b : 5.3 d : 13.0	壺の肩部	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
142	壺	b : 11.4 d : 14.6	壺の肩部	内外面とも調整不明	良	密	淡褐色	SI15
143	壺	a : 11.2 b : 6.4	小型の壺	内) ナデ 外) 調整不明	良好	密 5mm大の砂粒含む	淡褐色	
144	壺	a : 7.5 b : 8.3	小型の壺	直立する口縁	良好	密	内) 淡褐色 外) 淡褐色	
145	壺	a : 11.3 b : 15.0 d : 14.8	小型の壺	内) ナデ 外) ケズリ外) ナデ	良好	密 5mm大の砂粒含む	淡褐色	
146	壺	a : 10.6 b : 5.3	小型の壺	内) 瓶底下ケズリ他不明 外) 口縁下他不明	良好	密	褐色	
147	壺	a : 10.0 b : 5.0	小型の壺	内) 瓶底下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色	
148	壺	a : 8.0 b : 8.6 d : 9.0	小型の丸底壺	内) ナデ 外) 瓶底下ケズリ 外) 口縁下ナデ他不明	良	密	淡褐色	SI15
149	壺	a : 10.8 b : 9.1	小型の壺	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	内) 淡褐色 外) 淡褐色	
150	壺	a : 8.6 b : 7.7 d : 9.0	小型の丸底壺	内) 瓶底下ドリ 他内外面ともナデ	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色	
151	壺	b : 5.0 d : 10.0	壺の肩部	(内) ケズリ 外) ナデ	良好	密	淡褐色	
152	壺	b : 3.7 d : 7.4	小型壺の肩部	(内) ナデケズリ 外) ナデ	良好	密	淡褐色	SI15
153	壺	b : 5.3 d : 8.3	小型壺の肩部	(内) ナデ 外) 指圧圧痕 外) ハケ日	良好 1mm大の砂粒含む	密	淡褐色	
154	壺	a : 3.9 b : 8.4 c : 7.3 d : 10.4	削付小型壺	(内) ナデ 外) 調整不明	良好	密	淡褐色	
155	甕	b : 4.8 b : 3.3	複合口縁部	外) 瓶底ナデ調整不明 (内) 瓶底下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
156	甕	a : 17.3 b : 3.4	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密	褐色	SI01
157	甕	a : 4.2 b : 4.4	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密	淡褐色	SI12
158	甕	b : 4.2	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密	褐色	SI18
159	甕	a : 10.6 b : 4.4	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密	淡褐色	SI23
160	甕	a : 13.8 b : 3.5	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密 黒斑付着	褐色	
161	甕	a : 13.4 b : 3.4	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密	淡褐色	
162	甕	a : 14.4 b : 4.3	複合口縁部	(内) 瓶底下ドリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
163	甕	a : 19.8 b : 3.6	複合口縁部	内) 調整不明 外) ナデ	良好	密	淡褐色	
164	甕	c : 14.5 b : 5.7	複合口縁部	内) 調整不明	良好	密 黒斑付着	淡褐色	
165	甕	b : 22.5 d : 21.4	複合口縁部	(内) 瓶底下ドリ他ナデ 外) 瓶底下ハケ日他ナデ	良好	密	淡褐色	

表5 長砂第3遺跡出土遺物観察表（土師器）

回収番号	品種	法、量	形態の特徴	手 热 の 特 徴	燒 成	胎 土	色 艶	備 考
				内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
166	甕	a : 15.6 b : 4.8	複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
167	甕	a : 17.6 b : 7.0	複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
168	甕	a : 12.8 b : 1.4 c : 8.8	複合口縁甕	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
169	甕	a : 16.7 b : 8.8	甕の底部	内外面とも調整不明	良好	密	内) 晴褐色 外) 晴褐色	
170	甕	a : 20.8 b : 2.4	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	内) 晴褐色 外) 晴褐色	SI09
171	甕	a : 15.4 b : 6.0	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	褐色	SI10
172	甕	a : 19.2 b : 4.5	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	淡褐色	SI11
173	甕	a : 20.2 b : 4.5	退化した複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	SI12
174	甕	a : 13.7 b : 7.5	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	内) 暗褐色 外) 増褐	SI13
175	甕	a : 19.6 b : 4.9	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ナデ	良好	密	淡褐色	SI15
177	甕	a : 18.2 b : 3.7	退化した複合口縁甕	内外面とも調整不明	良好	密	暗褐色	SI15
178	甕	a : 19.4 b : 8.7	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ナデ	良好	密	褐色	SI15
179	甕	a : 17.6 b : 2.9	退化した複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	5mmの大粒含む	SI15
180	甕	a : 24.5 b : 4.6	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
181	甕	a : 15.4 b : 4.2	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ナデ	良好	密	暗褐色	
182	甕	a : 17.6 b : 6.0	退化した複合口縁甕	内) ケズリ外) ナデ	良好	密	2mmの大粒含む	SI15
183	甕	a : 16.4 b : 5.4	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	暗褐色	
184	甕	a : 16.2 b : 5.2	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	褐色	
185	甕	a : 16.4 b : 8.8	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
186	甕	a : 15.0 b : 4.5	退化した複合口縁甕	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
187	甕	a : 18.6 b : 5.1	退化した複合口縁甕	I型部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) 調整不明	良好	密	褐色	
188	甕	a : 20.0 b : 8.8	退化した複合口縁甕	内) ナデ外) ハケ目	良好	密	6mmの大粒含む	
189	甕	a : 19.0 b : 6.5	退化した複合口縁甕	内) ハケ後ナデ	良好	密	褐色	
190	甕	a : 18.6 b : 8.5	退化した複合口縁甕	内) ハケ目	良好	密	褐色	
191	甕	a : 20.2 b : 26.5 d : 34.5	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	淡褐色	SI02
192	甕	a : 15.2 b : 3.9	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	暗褐色	
193	甕	a : 14.2 b : 3.5	退化した複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
194	甕	a : 23.6 b : 11.4	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ	良好	密	褐色	
195	甕	a : 18.2 b : 19.0	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ナデ外) ハケ目	良好	密	褐色	
196	甕	a : 17.4 b : 10.6	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
197	甕	a : 21.2 b : 5.8	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ハケ外) ハケ目	良好	密	暗褐色	
198	甕	a : 20.2 b : 4.6	退化した複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
199	甕	a : 17.4 b : 22.2	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	3mmの大粒含む	
200	甕	a : 17.7 b : 5.0	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	褐色	
201	甕	a : 20.0 b : 5.2	退化した複合口縁甕	内) 底部下ケズリ 他外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
202	甕	a : 19.6 b : 7.8	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
203	甕	a : 17.9 b : 5.7	退化した複合口縁甕	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
204	甕	a : 18.7 b : 7.3	退化した複合口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
205	甕	a : 16.0 b : 9.4	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	3mmの大粒含む	
206	甕	a : 15.5 b : 8.3	退化した複合口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	

表 6 長砂第3遺跡 出土遺物観察表 (土器部)

国版番号	器種	法量	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎土	色調	備考
207	甕	a : 17.8 b : 5.0	退化した複合口縁甕	内外面とも側削不明	良好	密 2mm大の砂粒含む	褐色	
					密	褐色		
208	甕	a : 16.7 b : 4.9	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
					3mm大の砂粒含む	褐色		
209	甕	a : 18.4 b : 4.3	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
				内外面ともナデ	3mm大の砂粒含む	褐色		
210	甕	a : 14.4 b : 3.4	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部とも調整不明	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	2mm大の砂粒含む	(内) 淡褐色 外) 暗褐色			
211	甕	a : 12.8 b : 4.5	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	褐色			
212	甕	a : 20.0 b : 4.4	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部とも調整不明	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	褐色			
213	甕	a : 22.5 b : 7.5	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
214	甕	a : 19.4 b : 4.7	退化した複合口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
215	甕	a : 16.1 b : 5.3	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
216	甕	a : 23.1 b : 4.8	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI12
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
217	甕	a : 16.5 b : 4.4	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI14
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
218	甕	a : 17.5 b : 4.6	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI14
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
219	甕	a : 19.4 b : 4.3	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ	良好	密	褐色	SI15
			口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
220	甕	a : 13.0 b : 3.7	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
221	甕	a : 17.4 b : 4.7	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部とも側削不明	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部とも側削不明	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
222	甕	a : 25.4 b : 7.4	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	1mm大の砂粒含む	淡褐色			
223	甕	a : 26.5 b : 4.7	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
224	甕	a : 19.4 b : 4.0	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
225	甕	a : 17.4 b : 4.3	「く」の字口縁甕	外) ナデ (内) 調整不明	良好	密	褐色	
			外) ナデ (内) 調整不明	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
226	甕	a : 15.4 b : 5.5	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
227	甕	a : 15.7 b : 5.0	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
228	甕	a : 17.6 b : 29.3 d : 32.2	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	5mm大の砂粒含む	淡褐色			
229	甕	a : 16.0 b : 24.2 d : 22.6	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
230	甕	a : 14.4 b : 9.7	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
231	甕	a : 12.4 b : 8.6	「く」の字口縁甕	口) 頭部下ケズリ(外) 傷跡ケズリ 外) ナデ	良好	密	褐色	
			口) 頭部下ケズリ(外) 傷跡ケズリ 外) ナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
232	甕	a : 21.2 b : 4.0	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI02
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	2mm大の砂粒含む	淡褐色			
233	甕	a : 19.2 b : 5.2	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI09
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
234	甕	a : 19.0 b : 8.7	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI06
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
235	甕	a : 18.8 b : 3.6	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI10
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
236	甕	a : 20.8 b : 4.7	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI12
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	1mm大の砂粒含む	淡褐色			
237	甕	a : 29.0 b : 5.8	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI20
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3.5mm大の砂粒含む	淡褐色			
238	甕	a : 17.8 b : 3.2	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	SI15
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	2mm大の砂粒含む	淡褐色			
239	甕	a : 15.0 b : 4.1	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部とも側削不明	良好	密	褐色	SI20
			内) 頭部下ケズリ 側外面部とも側削不明	1mm大の砂粒含む	淡褐色			
240	甕	a : 15.8 b : 5.6	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3.5mm大の砂粒含む	淡褐色			
241	甕	a : 14.3 b : 23.1	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
242	甕	a : 16.0 b : 10.1	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	7mm大の砂粒含む	淡褐色			
243	甕	a : 15.8 b : 5.2	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	4mm大の砂粒含む	淡褐色			
244	甕	a : 14.2 b : 5.6	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
245	甕	a : 13.6 b : 11.8	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ (内) ケズリ外) ハケ目	3mm大の砂粒含む	淡褐色			
246	甕	a : 15.6 b : 4.8	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	2mm大の砂粒含む	淡褐色			
247	甕	a : 20.3 b : 3.8	「く」の字口縁甕	内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	良好	密	褐色	
			内) 頭部下ケズリ 側外面部ともナデ	3mm大の砂粒含む	淡褐色			

表7 長砂第3遺跡出土遺物観察表（土師器）

団塊番号	器種	法 異	形態的特徴	丁 法 の 種	良 品	船 土	色 虹	備 考
		a : 口径 b : 高さ	c : 底径 d : 最大径					
246	甕	a : 15.0 b : 17.1	「く」の字口縁甕	(内) 山根部 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ハケ目	良好	密	灰褐色	
249	甕	a : 20.6 b : 27	「く」の字口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
250	甕	a : 15.2 b : 4.9	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
251	甕	a : 18.5 b : 4.6	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	褐色	
252	甕	a : 17.8 b : 5.3	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡灰褐色	
253	甕	a : 16.4 b : 5.0	「く」の字口縁甕	(内) ナデ ハケ目・ケズリ 外 ナデ	良好	密	褐色	
254	甕	a : 22.4 b : 8.8	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	5mm大的砂粒含む	
255	甕	a : 23.4 b : 7.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	4mm大的砂粒含む	
256	甕	a : 17.8 b : 4.7	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 始不明 外 ナデ	良好	密	褐色	
257	甕	a : 13.7 b : 3.3	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密	暗褐色	
258	甕	a : 19.2 b : 3.2	「く」の字口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
259	甕	a : 16.9 b : 5.2	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
260	甕	a : 19.4 b : 4.2	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
261	甕	a : 17.3 b : 4.2	「く」の字口縁甕	(外) ナデ 不明	良好	密	淡褐色	
262	甕	a : 17.6 b : 7.1	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	褐色	
263	甕	a : 15.6 b : 3.9	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 始不明 外 ナデ	良好	密	2mm大的砂粒含む	
264	甕	a : 11.3 b : 15.0 d : 14.8	「く」の字口縁甕	(口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ナデ	良好	密	3mm大的砂粒含む	
265	甕	a : 16.7 b : 3.7	「く」の字口縁甕	(内) 外外面ともナデ	良好	密	褐色	
266	甕	a : 14.9 b : 4.9	「く」の字口縁甕	外 ナデ 調整不明	良好	密	粗褐色	
267	甕	a : 21.8 b : 4.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡灰褐色	
268	甕	a : 15.6 b : 5.2	「く」の字口縁甕	(口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ハケ目	良好	密	褐色	
269	甕	a : 19.8 b : 7.2	「く」の字口縁甕	(口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ハケ目	良好	密	3mm大的砂粒含む	
270	甕	a : 22.4 b : 5.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	内) 褐色 外) 粗褐色	
271	甕	a : 16.3 b : 5.0	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	2mm大的砂粒含む	
272	甕	a : 24.5 b : 4.6	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
273	甕	a : 22.5 b : 4.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
274	甕	a : 21.7 b : 5.3	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	4mm大的砂粒含む	
275	甕	a : 20.4 b : 5.7	「く」の字口縁甕	(口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ナデ	良好	密	褐色	
276	甕	a : 19.8 b : 5.7	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	1mm大的砂粒含む	
277	甕	a : 19.3 b : 3.8	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	褐色	
278	甕	a : 20.6 b : 5.3	「く」の字口縁甕	内外面とも調整不明	良好	密	砂粒多く含む	
279	甕	a : 16.4 b : 3.6	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
280	甕	a : 13.5 b : 3.8	「く」の字口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	1mm大的砂粒含む	
281	甕	a : 19.4 b : 8.7	「く」の字口縁甕	(口縁部) 内外面ともナデ (内) ケズリ外 ハケ目	良好	密	3mm大的砂粒含む	
282	甕	a : 15.4 b : 3.8	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	褐色	
283	甕	a : 22.0 b : 5.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
284	甕	a : 21.7 b : 5.1	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	3mm大的砂粒含む	
285	甕	a : 21.4 b : 5.8	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	粗褐色	
286	甕	a : 22.7 b : 4.4	「く」の字口縁甕	(内) 頭部下トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	S102
287	甕	a : 19.2 b : 4.4	「く」の字口縁甕	内外面ともナデ	良好	密	4mm大的砂粒含む	S102
288	甕	a : 33.3 b : 4.8	「く」の字口縁甕	(内) 頭部トスリ 他内外面ともナデ	良好	密	内) 粗褐色 外) 粗褐色	S105

表 8 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(土師器)

(a : 口径 b : 滴落 c : 深さ d : 極大径)	胎上	色調	備考
289 要 a : 9.8 b : 7.3	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm大の砂粒含む	淡褐色 SI12
290 要 a : 17.6 b : 3.8	「く」の字口縁變 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 暗褐色	SI12
291 要 a : 21.6 b : 6.1	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 6mm大の砂粒含む	暗褐色 SI12
292 要 a : 18.5 b : 7.7	「く」の字口縁變 内) ナデケズリ 外) ナデハラ口	良好 密 3mm大の砂粒含む	褐色 SI12
293 要 a : 18.6 b : 3.5	「く」の字口縁變 内外面ともナデ	良好 密	褐色 SI12
294 要 a : 16.2 b : 5.8	「く」の字口縁變 口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ日	良好 密 4mm大の砂粒含む	淡褐色 SI15
295 要 a : 19.6 b : 4.4	「く」の字口縁變 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 4mm大の砂粒含む	褐色
296 要 a : 16.8 b : 7.3	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 4mm大の砂粒含む	淡褐色
297 要 a : 19.2 b : 4.6	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 2mm大の砂粒含む	淡褐色
298 要 a : 20.4 b : 11.3	「く」の字口縁變 口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ日	良好 密 4mm大の砂粒含む	淡褐色
299 要 a : 19.0 b : 14.8 d : 4.1	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密	淡灰褐色
300 要 a : 17.8 b : 5.2	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密	暗褐色
301 要 a : 15.6 b : 4.2	「く」の字口縁變 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm大の砂粒含む	暗褐色
302 要 a : 16.8 b : 5.1	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 2mm大の砂粒含む	暗褐色
303 要 a : 14.5 b : 5.4	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 砂粒少量含む	淡褐色
304 要 a : 13.1 b : 4.7	「く」の字口縁變 内外面とも調整不明	良好 密 5mm大の砂粒含む	褐色
305 要 a : 16.0 b : 6.8	「く」の字口縁變 口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	淡褐色 SI12
306 要 a : 19.6 b : 5.3	「く」の字口縁變 内) ナデ・ナズリ 外) 調整不明	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI12
307 要 a : 8.0	便の頭部 内) ナデケズリ 外) ハケ日	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI12
308 要 b : 10.4	瓢部部 内) ナデケズリ 外) ハケ日	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI15
309 要 a : 18.5 b : 4.5	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
310 要 a : 21.7 b : 6.0	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm人の砂粒含む	暗褐色
311 要 a : 18.3 b : 7.6	「く」の字口縁變 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
312 要 a : 17.5 b : 7.6	「く」の字口縁變 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
313 要 a : 18.8 b : 10.2	小型の要 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm大の砂粒含む	淡褐色
314 要 a : 14.4 b : 5.3	小型の要 内) ナデハラ口 外) ナデケズリ	良好 密 2mm大の砂粒含む	淡褐色 SI04
315 要 a : 11.7 b : 7.2	小型の要 内) 瓢部下ケズリ 他内外面とも調整不明	良好 密 5mm大の砂粒含む	暗褐色 SI09
316 要 a : 15.7 b : 16.3 d : 17.8	小型の要 内) ナデケズリ 外) ナデ	良好 密 2mm大の砂粒含む	褐色 SI22
317 要 a : 10.8 b : 7.6	小型の要 内) ケズリ外) ハケ日	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	灰褐色
318 要 a : 11.6 b : 6.6	小型の要 内) ケズリ外) ハケ日	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI04
319 要 a : 12.3 b : 14.5 d : 17.2	小型の要 内) 瓢部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ日	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	褐色
320 要 a : 17.0 b : 8.5	小型の要 内) 瓢部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
321 要 a : 11.8 b : 5.7	小型の要 内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
322 要 a : 11.2 b : 4.2	小型の要 内) 瓢部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm大の砂粒含む 内) 外) 暗褐色	暗褐色
323 要 a : 12.4 b : 5.1	小型の要 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 3mm人の砂粒含む	暗褐色
324 要 a : 13.0 b : 4.8	小型の要 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 暗褐色	暗褐色
325 要 a : 15.6 b : 3.0	小型の要 内) 瓢部トケツリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
326 要 a : 15.4 b : 3.4	小型の要 内) 瓢部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	暗褐色
327 要 a : 12.2 b : 2.6	小型の要 内) 瓢部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI12
328 要 a : 10.0 b : 2.4	「く」の字口縁變 内) 瓢部下ケズリ 他内外面ともナデ	良好 密 内) 暗褐色 外) 褐色	SI12

表9 長砂第3遺跡出土遺物觀察表（土師器）

送査番号	画 標	法 類	形態の特徴	手 法 の 特 徴	燒 成	(a : 口径 b : 蔵高 c : 底径 d : 最大径)		
						胎 土	色 調	備 考
329	壺	a : 18.5 b : 9.2	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) テヂ	良好	青 3mm大の砂粒含む	相鉛色 黒色	
330	壺	a : 17.9 b : 8.2	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) ハケ後ナヂ	良好	青 2mm大の砂粒含む	褐色	
331	甕	a : 13.7 b : 6.5	「く」の字口縁甕	内) 陶器下マズリ 他内外面とも調整不明	良好	青 3mm大の砂粒含む	相鉛色	
332	甕	a : 17.3 b : 9.2	「く」の字口縁甕	口縁部) 内外面ともナデ 内) ケズリ外) 調整不明	良好	青 3mm大の砂粒含む	相鉛色	
333	甕	a : 25.4 b : 4.4	「く」の字口縁甕	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青 2mm大の砂粒含む	相鉛色	S102
334	甕	a : 28.3 b : 8.3	「く」の字口縁甕	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青 2mm大の砂粒含む	灰褐色	
335	甕	a : 23.0 b : 6.4	大きく外反する口縁	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青	褐色	
336	甕	a : 26.4 b : 4.2	大きく外反する口縁	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青 7mm大の砂粒含む	褐色	
337	甕	a : 27.6 b : 10.4	大きく外反する口縁	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青 2mm大の砂粒含む	褐色	
338	甕	a : 31.0 b : 7.3	大きく外反する口縁	内) 陶器下マズリ 他内外面ともナデ	良好	青 3mm大の砂粒含む	褐色	
339	甕	a : 28.8 b : 18.6	内外面ともハケ目	内外面ともナデ	良好	青	相鉛色	S102
340	製塙土器	a : 12.9 b : 15.0 c : 8.0		(内) ケズリ 外) 調整不明	良好	青	(内) 褐色 外) 茶褐色	S112
341	高环	b : 6.0	口縁部外反する高环	(内) ナデ 外) ハケ目	やや不良	やや粗	褐色	S107
342	高环	b : 4.0	口縁部外反する高环	内外面ともナデ	良	青	相鉛色	
343	高环	a : 12.4 b : 3.1	口縁部外反する高环	内) ナデ 外) 調整不明	良	青 磁青	淡褐色	S117
344	高环	a : 18.2 b : 10.0	口縁部外反する高环	内外面ともナデ	良好	青	淡褐色	
345	高环	a : 18.8 b : 4.3	口縁部外反する高环	内外面ともナデ	良	青 2mm大の砂粒含む	淡褐色	
346	高环	a : 18.2 b : 4.3	口縁部外反する高环	内外面ともナデ	良	青	褐色	
347	高环	a : 17.4 b : 6.0	口縁部外反する高环	内外面とも調整不明	良	青	淡赤褐色	
348	高环	a : 18.0 b : 6.2	口縁部外反する高环	内外面ともナデ	良好	青	相鉛色	
349	高环	a : 14.6 b : 10.2 c : 8.0	口縁部外反する高环	(環部) 内外面ともナデ (脚部内) 細り痕 (脚部外) ヘラナハケ目	良好	青 磁青	相鉛色	
350	高环	a : 16.0 b : 6.5	楕型环の高环	内外面ともナデ	良好	青 磁青	相鉛色	
351	高环	a : 16.0 b : 6.2	楕型环の高环	内外面とも調整不明	良好	相 砂粒含む	相鉛色	
352	高环	a : 15.0 b : 10.2	楕型环の高环	(内) ナデ 外) 調整不明	良	青 1mm大の砂粒含む	赤褐色	
353	高环	b : 8.8 c : 7.7	楕型环の高环	外接合部) ハケ目 内) 陶器下	良好	青	相鉛色	
354	高环	a : 17.0 b : 6.5	楕型环の高环	内外面ともナデ	良好	青	淡褐色	
355	高环	a : 12.0 b : 4.2	楕型环の高环	(内) ナデ 外) 調整不明	良	やや粗 1mm大の砂粒含む	赤褐色	
356	高环	a : 14.2 b : 5.0	楕型环の高环	内外面ともナデ	良	青 磁青	淡褐色	
357	高环	a : 11.0 b : 7.0	楕型环の高环	内外面ともナデ	良好	青	淡褐色	
358	高环	a : 12.0 b : 6.8	高环の脚部	(内) ナデ 外) ハケ目	良好	青	褐色	
359	高环	a : 7.8 b : 10.5	高环脚部	内外面ともナデ 外) 指頭压痕 ケズリ	良	青 磁青	淡褐色	S115
360	高环	b : 3.8 c : 4.0	高环脚部	内外面ともナデ	やや不良	青 1mm大の砂粒含む	赤褐色	S112
361	高环	b : 6.1 c : 9.6	高环脚部	内外面ともナデ	良	青 磁青	赤褐色	S112
362	高环	b : 7.0 c : 10.0	高环脚部	内外面ともナデ	良	青 1mm大の砂粒含む	褐色	
363	高环	b : 6.7 c : 7.4	高环脚部	内外面ともナデ	良	青 1mm大の砂粒含む	赤褐色 褐色	
364	高环	b : 4.7 c : 9.0	高环脚部	内外面ともナデ	やや不良	青 1mm大の砂粒含む	淡褐色	
365	高环	b : 3.7 c : 8.8	高环脚部	内外面ともナデ	良	青 1mm大の砂粒含む	茶褐色	
366	高环	b : 5.0 c : 6.8	高环脚部	内外面ともナデ 外) 茶褐色	良	青 1mm大の砂粒含む	赤褐色	S112
367	高环	b : 2.5 c : 8.8	高环脚部	内外面ともナデ	良	青 1mm大の砂粒含む	茶褐色	S122
368	高环	b : 5.7 c : 8.3	高环脚部	内外面ともナデ 外) ハケ目指頭压痕	やや不良	青 1mm大の砂粒含む	淡褐色	
369	高环	b : 6.0 c : 10.3	高环脚部	内外面ともナデ 外) 指頭压痕	良	青 1mm大の砂粒含む	相鉛色	

表10 長砂第3遺跡 出土遺物観察表 (土器)

団別番号	器種	法 量	形態の特徴	手 法 の 特 徴	燒 成	胎 土	色 調	備考
		b : 器高 c : 底径 d : 腹径		内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S04
370	低脚环	b : 5.2 c : 7.5	低脚环脚部	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
371	高环	b : 2.3 c : 9.1	高环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
372	高环	b : 4.6 c : 7.5	高环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S117
373	高环	b : 2.2 c : 7.5	高环脚部	内外面とも脚押え	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
374	高环	b : 3.4 c : 7.5	高环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
375	高环	b : 2.8 c : 7.6	高环脚部	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
376	高环	b : 2.3 c : 8.0	高环脚部	内) 調整不明 外) ナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
377	高环	b : 6.3	高环脚部	内) ハケ脚内窓部ナズナ 他内面とも調整不明	やや軟質	粗粒 緻密	褐色 茶色	
378	高环	b : 3.6 c : 10.6	高环脚部	内) 内面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S120
379	高环	b : 7.7 c : 10.3	高环脚部	外) ケズリ後ナデ 脚ナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
380	高环	b : 7.0	高环脚部	内) ナデ外) ハラナデ	良好 良	粗粒 緻密	褐色 茶色	
381	低脚环	b : 2.9 c : 5.8	低脚环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S115
382	低脚环	b : 5.4 c : 9.0	低脚环脚部	外) ナデ脚内) ケズリ 脚内) 調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S117
383	低脚环	b : 3.5 c : 6.6	低脚环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
384	低脚环	b : 3.2 c : 7.0	低脚环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
385	低脚环	b : 3.0 c : 8.0	低脚环脚部	内外面ともナデ 脚内) 調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S122
386	低脚环	b : 3.6 c : 7.8	低脚环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
387	低脚环	b : 2.9 c : 7.5	低脚环脚部	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
388	低脚环	b : 2.6 c : 8.5	低脚环脚部	内外面ともナデ脚押え	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
389	低脚环	b : 2.2 c : 8.0	低脚环脚部	内) ナデ招面直張 外) ハケ目	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S112
390	环	a : 10.4 b : 3.9	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S112
391	环	a : 14.6 b : 3.3	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S112
392	环	a : 12.5 b : 3.5	L口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S114
393	环	a : 12.9 b : 4.1	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S122
394	环	a : 14.2 b : 4.7	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
395	环	a : 13.6 b : 4.3	口縁部が内側する环	内外面ともナデ 外) 脚内直張	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
396	环	a : 14.0 b : 4.7	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
397	环	a : 13.6 b : 4.1	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明 内) 脚内直張	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
398	环	a : 11.6 b : 3.2	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
399	环	a : 13.0 b : 4.5	口縁部が内側する环	内) ナデ 外) 調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
400	环	a : 12.0 b : 3.8	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
401	环	a : 13.6 b : 4.5	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
402	环	a : 12.8 b : 4.9	口縁部が内側する环	口縁部内外面ともナデ 他内面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
403	环	a : 14.6 b : 4.0	口縁部が内側する环	口縁部 - 内部ナデ 脚内直張	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S112
404	环	a : 13.4 b : 3.9	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S117
405	环	a : 12.0 b : 4.0	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明	やや軟質 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
406	环	a : 12.6 b : 3.7	口縁部が内側する环	内) ナデ 外) 調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
407	环	a : 13.6 b : 3.7	口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
408	环	a : 12.0 b : 3.5	口縁部が内側する环	外) ナデ 内) 調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
409	环	a : 12.6 b : 5.0	口縁部が内側する环	内) ナデ 外) 調整不明 内) 脚内直張	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	
410	环	a : 10.9 b : 3.2	L口縁部が内側する环	内外面ともナデ	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	S101
411	环	a : 12.0 b : 3.4	口縁部が内側する环	内外面とも調整不明	良好 吉	粗粒 緻密	褐色 茶色	

表11長砂第3遺跡出土遺物観察表（土師器）

(a : 口径 b : 段高 c : 底径 d : 最大径)

回収番号	器種	法 番	形態の特徴	手 法 の 特 徴	燒 成	胎 土	色 質	備 考	
412	环	a : 13.0 b : 3.2	口縁部が内側に傾く环	内外面ともナデ	良好	綈密	暗茶色		
413	环	a : 12.0 b : 5.0	口縁部が短く外反する环	(内) ナデ 外) 調整不明	良好	綈密	淡黄褐色		
414	环	a : 9.6 b : 5.0	口縁部が短く外反する环	口縁部の外面ともナデ 他内外面とも調整不明	やや不良	綈密	褐色		
415	环	a : 10.7 b : 4.7	口縁部が短く外反する环	内外面ともナデ	良	綈密	褐色		
416	环	a : 13.0 b : 5.8	口縁部が短く外反する环	内外面ともナデ	良	綈密	赤褐色		
417	环	a : 13.2 b : 8.1	口縁部が短く外反する环	内外面ともナデ	良好	密	3mm人の砂粒含む		
418	环	a : 11.4 b : 5.4	口縁部が短く外反する环	内外面とも調整不明	良	綈密	淡褐色		
419	碗	a : 12.0 b : 6.3	口縁部が直立する碗	内外面ともナデ	良好	綈密	稻茶色		
420	碗	a : 11.0 b : 5.1	口縁部が直立する碗	(内) ナデ 外) 調整不明	良好	密	0.5mm大的砂粒含む		
421	碗	a : 17.5 b : 6.2	口縁部が直立する碗	内外面とも調整不明	良好	密	3mm大的砂粒含む		
422	碗	a : 13.0 b : 6.2	口縁部が直立する碗	内外面ともナデ	良好	密	5mm大的砂粒含む		
423	器身	a : 18.8 b : 5.2		内外面ともナデ	良	中	内) 淡褐色 外) 墓褐色	SI18	
424	器身	a : 12.2 b : 2.7	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	SI18	
425	器身	a : 12.0 b : 17.0	鼓形器台	内外面ともナデ	やや軟質	密	淡褐色	SI18	
426	器身	a : 16.5 b : 3.7	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	SI23	
427	器身	a : 5.1	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	中	1mm大的砂粒含む	淡褐色	SI23
428	器身	a : 5.0 c : 17.6	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	中	1mm大的砂粒含む	淡褐色	SI23
429	器身	a : 4.5 c : 17.8	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	中	2mm大的砂粒含む	淡褐色	SI23
430	器身	a : 6.5 c : 14.8	鼓形器台	内外面ともナデ	良好	密	1mm大的砂粒含む	褐色	SI23
431	器身	a : 17.9 b : 5.8	鼓形器台	内外面とも調整不明	良好	やや粗	やや粗	褐色	
432	器身	a : 19.6 b : 2.8	鼓形器内	内外面ともナデ	良好	密	褐色		
433	器身	a : 7.6	鼓形器台	内外面とも調整不明	良	やや粗	淡褐色		
434	器身	a : 12.7 b : 3.5	鼓形器台	内外面ともナデ	良	密	淡褐色		
435	器身	a : 3.3	鼓形器台	内外面とも調整不明	良	中	淡褐色		
436	器身	a : 4.4	鼓形器台	内外面ともナデ	良	密	褐色		
437	器身	a : 3.7	鼓形器台	内外面とも調整不明	やや軟質	密	淡褐色		
438	羽釜	b : 3.4	外面に突起が盛る	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色		
439	羽釜	b : 3.4 e : 3.6	環状のつまみ	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色		SI23
440	画子	b : 2.4	環状のつまみ	内外面とも調整不明	良好	密	褐色		
441	画子	b : 4.5		内外面ともナデ	良好	中	1mm大的砂粒含む	淡褐色	
442	土瓶	a : 4.2	管状の土瓶	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色		
443	てづくね	a : 5.2 b : 2.9	てづくねの鉢	内外面ともナデ	良好	密	内) 黒褐色 外) 暗褐色	SI17	
444	てづくね	b : 5.5	てづくねの壺	内外面ともナデ	良好	密	褐褐色	SI12	
445	てづくね	d : 5.4	てづくねの壺	内外面ともナデ 内) 斜面底	良好	密	褐褐色		
446	ミニチュア	a : 3.1 d : 6.0	ミニの壺	内外面ともナデ	良好	密	1mm大的砂粒含む	褐褐色	
447	ミニチュア	a : 5.2 b : 3.7 d : 6.3	ミニの壺	内) ナデ・ケズリ・面部圧痕 外) ナデ	良好	密	3mm大的砂粒含む	褐褐色	
448	ミニチュア	b : 3.8 d : 7.0	ミニの壺	(内) ナデ・ケズリ (外) ナデ・ハケ目	良好	密	3mm大的砂粒含む	褐褐色	
449	ミニチュア	b : 3.1	ミニの壺	内外面とも調整不明	良好	密			
450	ミニチュア	a : 9.8	ミニの鉢	内外面ともナデ	良好	中	内) 淡褐色		
451	ミニチュア	a : 7.7 b : 3.9	ミニの鉢	内外面ともナデ	良好	中	2.5mm大的砂粒含む	内) 淡褐色 外) 黑褐色	
452	量	b : 1.5	小型の量?	内外面ともナデ	良好	密			
453	量	b : 2.3	小型の量?	(内) ナデ 外) ハマ目ナデ	良好	密	内) 淡褐色 外) 淡褐色		
454	量	b : 10.0	量の口縁部	(内) ナデ 外) ハマ目	良好	中	2.5mm人の砂粒含む	内) 淡褐色 外) 黑褐色	
455	量	a : 24.3 b : 6.3	量の口縁部	(内) ケズリ 外) 調整不明	良好	密		褐褐色	SI18
456	量	b : 8.8	量の口縁部	口縁部) 内外面ともナデ (内) 調整不明外) ハマ目	良好	密	5mm人の砂粒含む	淡褐色	SI12

表12 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(土師器)

(a : 口径 b : 高さ c : 底径)									
国版番号	器種	法集	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎土	色調	備考	
457	瓶	a : 29.4 b : 8.3	瓶の口縁部	(内) ナデ (外) ナデ・ハケ目	良好	密 3mm大の砂粒含む	暗褐色		
458	瓶	a : 25.0 b : 9.2	瓶の口縁部	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	暗褐色		
459	瓶	a : 22.3 b : 7.9	瓶の口縁部	内外面とも調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡灰褐色		
460	瓶	a : 23.5 b : 10.2	瓶の口縁部	内外面ともナデ	良好	密 1mm大の砂粒含む	褐色		
461	瓶	a : 23.7 b : 6.8	瓶の口縁部	(内) ナデ・タグリ (外) ナデ	良好	密 3mm大の砂粒含む	褐色		
462	瓶	a : 8.1 b : 6.5 c : 20.1	瓶の底	(内) タグリ (外) 調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含む	暗褐色		
463	瓶	b : 15.8	瓶の取手	(内) ハケ目	良好	密 3mm大の砂粒含む	暗褐色		
464	瓶	b : 15.8	瓶の取手部	(内) タグリ	良好	密 3mm大の砂粒含む	暗褐色		

表13 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(土師質)

(a : 口径 b : 高さ c : 底径 d : 最大径)									
国版番号	器種	法集	形態の特徴	手法の特徴	焼成	胎土	色調	備考	
465	皿	a : 7.5 b : 1.3 c : 4.9	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	淡褐色	S102	
467	皿	a : 7.9 b : 1.8 c : 5.0	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	淡褐色	S102	
468	皿	a : 8.3 b : 1.6 c : 5.6	底部糸切り	内外面ともナデ	良好	密 5mm大の砂粒含む	淡褐色	S102	
469	皿	b : 0.9 c : 4.5	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	淡褐色	S102	
470	皿	b : 1.0 c : 4.4	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S102	
471	皿	a : 7.4 b : 1.7 c : 5.0	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S102	
472	皿	a : 5.8 b : 1.4	目の口縁部	内外面ともナデ	良	密	淡褐色	S102	
473	皿	b : 0.9 c : 4.7	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S102	
474	皿	a : 15.2 b : 2.9 c : 7.0		内外面とも調整不明	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡褐色	S103	
475	皿	a : 7.8 b : 1.5 c : 4.8	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S103	
476	皿	b : 0.8 c : 6.5	底部糸切り	内外面ともナデ	良	密	暗褐色	S103	
477	皿	a : 8.6 b : 1.4 c : 5.1		内外面とも調整不明	良	密	淡褐色	S103	
478	皿	a : 10.8 b : 2.1		内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	S105	
479	皿	a : 9.4 b : 2.1 c : 6.0		内外面ともナデ	良好	密	暗褐色	S105	
480	皿	a : 7.8 b : 1.7 c : 5.6		内外面とも調整不明	良好	密	褐色	S105	
481	皿	a : 7.8 b : 1.8	底部糸切り	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	S105	
482	皿	a : 9.4 b : 1.6 c : 8.2		(内) ナデ (外) 調整不明	良好	密	淡褐色		
483	皿	b : 2.3 c : 5.0		内外面とも調整不明	良	密	淡褐色	S105	
484	皿	b : 1.5 c : 6.4		内外面とも調整不明	良好	密 2mm大の砂粒含む	暗褐色	S106	
485	皿	b : 0.9 c : 5.8	底部糸切り	内外面とも調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡灰褐色		
486	皿	b : 2.1 c : 7.4		(内) ナデ (外) 調整不明	良好	密 1mm大の砂粒含む	淡褐色		
487	皿	a : 9.8 b : 1.6 c : 4.4	底部糸切り	内外面ともナデ	良好	密 3mm大の砂粒含む	淡褐色		
488	皿	a : 9.0 b : 1.7 c : 4.6	底部糸切り	内外面とも調整不明	良好	密 2mm大の砂粒含む	淡灰褐色		
489	皿	b : 1.1 c : 5.2	底部糸切り	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	褐色		
490	皿	b : 1.5 c : 6.6	底部糸切り	内外面とも調整不明	良好	密 3mm大の砂粒含む	淡灰褐色		
491	皿	b : 1.2 c : 4.8		内外面ともナデ	良好	密	淡褐色		

表14 長砂第3遺跡 出土遺物観察表(土師質)

(a : 口径 b : 高さ c : 細径)

出土品番号	器種	法 基	形態の特徴	下 法 の 构 造	燒 成	胎 土	色 調	備 考
492	皿	b : 2.0 c : 5.0		内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
493	皿	b : 1.9 c : 6.5		内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
494	皿	b : 2.3 c : 7.6		内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
495	皿	b : 1.0 c : 7.4	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 5mmの大砂粒含む	褐色	
496	皿	b : 1.4 c : 5.9	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 1mmの大砂粒含む	淡褐色	
497	皿	b : 1.6 c : 5.4		内外面とも調整不明	良好	密 2mmの大砂粒含む	淡灰褐色	
498	皿	b : 0.9 c : 4.8	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
499	皿	b : 0.6 c : 4.6		内外面とも調整不明	良好	密 3mmの大砂粒含む	褐色	
500	皿	b : 1.0 c : 4.8		(内) ナデ (外) 調整不明	良好	密 4mmの大砂粒含む	褐色	
501	皿	b : 0.9 c : 4.8	底部赤切り	(内) ナデ	良	密	橙褐色	
502	皿	b : 1.9 c : 5.8	底部赤切り	内外面とも調整不明	良	密	淡褐色	
503	皿	b : 1.4 c : 4.2		内外面とも調整不明	良好	密 2mmの大砂粒含む	淡褐色	
504	皿	b : 1.4 c : 6.0	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 3mmの大砂粒含む	淡褐色	
505	皿	b : 1.5 c : 6.2		内外面とも調整不明	良好	密 1mmの大砂粒含む	赤褐色	
506	皿	b : 2.0 c : 9.0		内外面ともナデ	良好	密 1mmの大砂粒含む	淡灰褐色	
507	皿	b : 1.8 c : 8.0		内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
508	皿	b : 1.5 c : 8.3	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密	淡灰褐色	
509	环	a : 15.8 b : 2.5		内外面ともナデ	良	密	褐色	S102
510	环	a : 12.0 b : 3.7		内外面ともナデ	良	密	橙褐色	S102
511	环	b : 2.1 c : 6.1	底部赤切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S102
512	环	b : 1.8 c : 6.5	底部赤切り	内外面ともナデ	良	密 1mm人の砂粒含む	褐色	S103
513	环	b : 2.2 c : 6.9		(内) ナデ (外) 調整不明	良	密 2mmの大砂粒含む	褐色	S103
514	环	b : 3.1 c : 6.3	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 3mmの大砂粒含む	淡褐色	S103
515	环	a : 11.7 b : 4.8	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 微砂粒を含む	褐色	
516	环	a : 11.8 b : 4.9	底部赤切り	内外面ともナデ	良好	密 微砂粒を含む	褐色	
517	环	a : 12.3 b : 4.1 c : 7.2	底部赤切り	内外面ともナデ	普通	密	黄褐色	
518	环	b : 2.9 c : 7.0	底部赤切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	
519	环	b : 1.7 c : 9.5		内外面とも調整不明	良好	密 2mmの大砂粒含む	淡褐色	
520	环	b : 3.0 c : 6.4	底部赤切り	内外面ともナデ	良	密 3mmの大砂粒含む	褐色	
521	环	b : 3.1 c : 8.4	底部赤切り	(外) ナデ (内) 調整不明	良好	密 3mmの大砂粒含む	淡褐色	
522	环	b : 1.1 c : 5.4	高台付の环	内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
523	环	b : 2.4 c : 7.2	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密 3mmの大砂粒含む	淡褐色	S106
524	环	b : 2.6 c : 5.4	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
525	环	b : 2.8 c : 7.4	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
526	环	b : 2.1 c : 5.6 e : 7.8	高台付の环	内外面とも調整不明	良好	密 (内) 淡灰褐色 (外) 淡褐色		
527	环	b : 2.2 c : 7.8		内外面とも調整不明	良好	密	淡褐色	
528	环	b : 2.7 c : 9.4	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密 5mm人の砂粒含む	暗灰色	
529	环	b : 2.9 c : 9.5	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密	褐色	
530	环	b : 3.2 c : 8.3	高台付の环	内外面ともナデ	良好	密	淡褐色	
531	环	b : 4.1 c : 5.4	球状高台付の环 底部赤切り	内外面ともナデ	良	密	褐色	S103
532	环	b : 3.6 c : 5.2	柱状高台付の环	内外面ともナデ	硬	やや粗	(内) 黑褐色 (外) 棕褐色	S115

表15 長砂第3遺跡 出土遺物観察表（須恵器）

出土地番号	器種	口径(cm)	脚高(cm)	構成	胎土	色調	備考	
533	坪蓋	12.8	5.3	堅密	密	灰色	S101	
534	坪蓋	15.0	4.5	堅密	密	青灰色	S102	
535	坪蓋	12.5	5.5	堅	密	1~2mmの粉粒含む	S102	
536	坪蓋	12.0	4.5	堅	密	淡灰色	S106	
537	坪蓋	10.4	5.0	良好	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S106	
538	坪蓋	11.8	4.0	良好	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S112	
539	坪蓋	14.2	5.2	やや堅質	やや粗	相思灰色	S112	
540	坪蓋	11.0	4.25	堅質	密	淡青灰色	S112	
541	坪蓋	12.1	3.8	良好	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S112	
542	坪蓋	10.8	4.0	良好	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S112	
543	坪蓋	12.0	4.2	堅密	密	淡青灰色	S112	
544	坪蓋	12.0	4.3	堅質	密	青灰色	S112	
545	坪蓋	14.0	4.0	堅密	密	青灰色	S114	
546	坪蓋	11.2	3.6	堅密	密	灰色	S115	
547	坪蓋	12.0	3.4	堅密	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S115	
548	坪蓋	13.0	4.2	堅密	密	内: 黄灰 外: 黑灰	S115	
549	坪蓋	13.0	3.7	堅密	密	淡青灰色	S115	
550	坪蓋	11.0	5.0	良好	密	青灰色	S117	
551	坪蓋	13.0	4.1	堅密	密	青灰色	S120	
552	坪蓋	13.4	5.6	堅質	密	0.5~1mmの粉粒含む	S106	
553	坪蓋	12.6	5.4	良好	密	青灰色	S106	
554	坪蓋	12.9	5.5	堅密	密	1~2mmの粉粒含む	S106	
555	坪蓋	11.8	5.3	堅密	白粉粒含む	内: 青灰色 外: 淡青灰色	S106	
556	坪蓋	10.8	3.3	良好	密	淡青灰色	S106	
557	坪蓋	11.8	4.5	堅密	密	淡青灰色	S106	
558	坪蓋	12.7	4.9	良好	密	灰	S106	
559	坪蓋	11.0	3.1	堅密	密	内: 淡青灰色 外: 黄灰轉青灰色	S106	
560	坪蓋	12.2	4.7	良好	密	灰	S106	
561	坪蓋	13.2	5.1	良好	密	青灰色	S106	
562	坪蓋	12.2	5.35	堅密	密	青灰色	S106	
563	坪蓋	12.8	5.2	堅質	密	内: 單灰 外: 黄灰	S106	
564	坪蓋	13.0	5.3	堅密	密	青灰色	S106	
565	坪蓋	12.4	5.0	良好	密	青灰色	S106	
566	坪蓋	11.9	3.4	堅密	密	青灰色	S106	
567	坪蓋	11.8	6.0	堅密	密	灰	S106	
568	坪蓋	12.5	5.3	堅密	密	青灰色	S106	
569	坪蓋	12.0	4.2	良好	密	灰	S106	
570	坪蓋	13.0	5.8	堅密	密	淡青灰色	S106	
571	坪蓋	14.0	4.4	堅密	密	灰	S106	
572	坪蓋	12.5	5.55	堅質	密	青灰色	S106	
573	坪蓋	13.2	4.5	堅密	密	淡青灰色	S106	
574	坪蓋	14.0	5.0	堅密	密	灰	S106	
575	坪蓋	13.8	5.0	堅密	密	乳白色	S106	
576	坪蓋	14.0	4.5	堅密	密	淡青灰色	S106	
577	坪蓋	13.0	4.5	堅密	密	青灰色	S106	
578	坪蓋	12.5	4.25	良好	密	乳白色	S106	
579	坪蓋	15.0	3.3	堅密	密	青灰色	S106	
580	坪蓋	12.6	4.0	堅質	密	内: 淡青灰色 外: 黄灰轉青灰色	S112	
出土地番号	器種	口径(cm)	脚高(cm)	受部径(cm)	他構成	胎土上色	備考	
581	坪身	13.0	4.4	15.0	堅密	密	S106	
582	坪身	10.6	6.2	12.8	堅密	密	S106	
583	坪身	11.0	2.9	13.0	堅密	密	S106	
584	坪身	10.0	3.6	12.7	堅質	堅密	S106	
585	坪身	10.8	5.4	13.0	堅密	3~5mmの粉粒含む	S112	
586	坪身	12.0	4.7	14.4	堅密	密	淡青灰色	S112
587	坪身	9.8	5.0	12.0	堅密	密	淡青灰色	S112
588	坪身	10.0	4.4	12.9	堅密	密	S112	
589	坪身	9.6	3.9	11.8	良好	密	S112	
590	坪身	12.0	4.1	14.4	堅密	密	淡青灰色	S112
591	坪身	11.0	4.2	13.2	堅質	密	淡青灰色	S112
592	坪身	10.0	4.0	12.0	堅密	堅密	S123	
593	坪身	10.0	5.6	12.6	良好	密	淡青灰色	S112
594	坪身	10.0	5.0	12.4	堅密	堅密		
595	坪身	11.4	3.7	14.0	堅密	密	S112	
596	坪身	10.0	5.5	13.4	良好	密	S112	
597	坪身	11.0	5.9	13.0	堅密	密	内: 青灰色 外: 綠灰色	S112
598	坪身	10.5	5.35	12.8	やや堅質	密	青灰色	S109
599	坪身	12.0	6.1	14.6	堅質	密	乳白色	S109
600	坪身	8.0	3.7	10.0	堅密	密	淡青灰色	S109
601	坪身	10.0	5.3	13.0	不詳	堅密而付着	淡青灰色	
602	坪身	10.8	5.8	13.2	堅密	密	淡青灰色	
603	坪身	9.8	5.2	12.0	良好	密	内: 青灰色 外: 綠灰色	
604	坪身	10.0	4.2	12.4	堅密	密	内: 青灰色 外: 青灰色	

表16長砂第3遺跡出土遺物觀察表(須惠器)

器皿番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	受擲径(cm)	施成	胎上	色調	備考	
604	杯身	12.6	3.9	14.6	燒質	素	灰褐色	S104	
605	杯身	12.0	4.8	14.0	やや粗	素	青灰色		
607	杯身	10.0	5.0	13.2	燒質	やや粗	青灰色	S110	
608	杯身	10.7	5.1	13.0	燒質	細密	青灰色		
609	杯身	12.0	5.2	14.4	燒質	素	青灰色		
610	杯身	10.0	4.4	12.8	燒質	素	青灰色		
611	杯身	11.0	5.2	13.6	燒質	素	青灰色 外) 黄灰褐色		
612	杯身	11.0	4.2	14.0	燒質	細密	青灰色		
613	杯身	10.0	3.2	12.6	不良	素面斑付	青灰色		
614	杯身	11.0	4.1	13.0	青釉	素	青灰色		
615	杯身	10.3	4.2	13.0	燒質	細密	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色		
616	杯身	10.4	4.2	12.2	良好	素	青灰色		
617	杯身	10.0	3.1	11.4	良好	素	青灰色 外) 黄灰褐色		
618	杯身	10.0	4.5	11.4	塑燒	細密	内) 黄灰褐色 外) 青灰色		
619	杯身	12.0	5.4	14.1	燒質	素	青灰色		
620	杯身	10.0	3.6	12.0	良好	金	灰褐色		
621	杯身	9.6	4.7	12.4	良好	素	内) 洋灰色 外) 黑灰褐色		
622	杯身	9.5	3.8	12.2	塑燒	細密	内) 洋灰色 外) 漆青灰褐色		
623	杯身	12.0	4.5	14.0	燒質	細密	内) 洋灰色 外) 青灰色		
624	杯身	11.6	4.5	14.0	良好	素	灰褐色		
625	杯身	10.0	4.2	12.4	塑燒	素	青灰色		
626	杯身	11.0	4.2	13.4	塑燒	細密	内) 洋灰色 外) 漆青灰褐色		
627	杯身	12.0	4.6	15.0	燒質	やや粗	内) 大の砂粒含む 外) 青灰色		
628	杯身	11.8	4.6	13.6	塑燒	細密	砂灰褐色		
629	杯身	13.5	4.75	15.0	燒質	素	青灰色		
630	杯身	11.5	4.3	14.1	素	素	青灰色		
器皿番号	器種	L1径(cm)	高さ(cm)	受擲径(cm)	施成	胎皮	胎土	色調	備考
631	瓶(直坪)	13.0	6.1	2.9	素	素	素	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色	S117
632	瓶(直坪)	13.0	6.1	2.8	塑燒	細密	素	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色	
633	瓶(直坪)	11.6	5.2	素	良好	素	素	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色	
器皿番号	器種	口径(cm)	高さ(cm)	受擲径(cm)	施成	胎皮	胎土	色調	備考
634	瓶身(直坪)	11.2	3.6	12.0	9.0	素	素	青灰色	
635	瓶身(直坪)	11.0	3.5	6.0	燒質	素	素	青灰色	
636	瓶身(直坪)	11.6	4.4	15.0	8.6	燒質	素	青灰色	S104
637	瓶身(直坪)	11.1	3.9	8.9	6.5	塑燒	細密	青灰色	S104
638	瓶身(直坪)	11.0	3.2	4.5	燒質	素	素	内) 大の砂粒含む 外) 青灰色	S112
639	高坪(有腹)	10.5	13.0	10.0	8.3	良好	砂	白灰褐色	
640	高坪(有腹)	10.4	13.0	6.2	素	素	素	青灰色	
641	高坪(有腹)	11.0	13.4	6.2	塑燒	素	素	内) 灰褐色 外) 灰褐色	
642	高坪(有腹)	11.5	14.3	5.4	良好	砂	素	内) 有腹 外) 灰褐色	
643	高坪(直坪)	11.8	13.5	8.0	8.8	普通	素	青灰色	
644	高坪(無腹)	16.8	5.5	—	素	素	素	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色	S105
645	高坪(無腹)	15.0	4.5	—	塑燒	やや粗	素	青灰色	S109
646	高坪(無腹)	13.0	—	5.6	塑燒	素	素	内) 青灰色 外) 漆青灰褐色	
647	洗坪(無腹)	16.0	—	10.4	10.2	塑燒	細密	黑褐色	S110
648	洗坪(無腹)	16.0	—	3.7	塑燒	素	素	漆褐色	S112
649	洗坪(無腹)	13.0	—	5.6	塑燒	細密	素	漆褐色	
650	洗坪(無腹)	18.4	—	15.0	11.0	塑燒	細密	漆褐色	S112
651	高坪(無腹)	17.0	—	3.8	塑燒	細密	素	漆褐色	
652	洗坪(無腹)	16.0	—	7.45	塑燒	細密	素	漆褐色	
653	高坪(無腹)	16.0	—	6.0	燒質	やや粗	素	青灰色	
654	高坪(無腹)	16.0	—	6.5	塑燒	砂的含む	素	青灰色	
655	高坪(無腹)	19.6	—	6.0	塑燒	細密	素	青灰色	
656	高坪(脚部)	—	5.0	7.5	塑燒	細密	素	内) 烧成灰褐色 外) 红褐色	
657	高坪(脚部)	—	—	5.5	普通	素	素	漆褐色	
658	高坪(脚部)	—	—	4.1	塑燒	細密	素	青灰色	
659	高坪(脚部)	—	—	4.0	普通	素	やや粗	青灰色	
660	高坪(脚部)	—	—	3.9	やや粗	素	素	青灰色	S106
661	高坪(脚部)	—	—	5.1	9.0	普通	素	内) 青灰色 外) 青灰色	
662	高坪(脚部)	—	—	4.2	9.1	普通	素	青灰色	
663	高坪(脚部)	—	—	7.8	11.1	良好	素	内) 灰褐色 外) 黑灰褐色	S112
664	高坪(脚部)	—	—	4.8	9.0	塑燒	細密	青灰色	S112
665	高坪(脚部)	—	—	4.8	10.0	塑燒	砂的含む	内) 青灰色 外) 青灰色	
666	高坪(脚部)	—	—	7.0	9.0	塑燒	素	青灰色	
667	高坪(脚部)	—	—	5.2	7.7	塑燒	細密	漆褐色	
668	高坪(脚部)	—	—	4.8	9.0	塑燒	細密	漆褐色	S118
669	高坪(脚部)	—	—	7.0	8.0	塑燒	細密	漆青灰褐色	
670	高坪(脚部)	—	—	4.5	8.8	良好	素	内) 灰褐色 外) 黑灰褐色	S103
671	高坪(脚部)	—	—	5.0	8.9	塑燒	細密	内) 乳灰褐色 外) 迪灰褐色	
672	高坪(脚部)	—	—	4.5	9.8	塑燒	細密	漆褐色	
673	高坪(脚部)	—	—	8.0	10.2	塑燒	細密	内) 青灰色 外) 茶灰色	
674	高坪(脚部)	—	—	5.5	11.6	燒質	素	漆青灰褐色	

表17長砂第3遺跡出土遺物觀察表(須恵器)

遺物番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考
675	罐	11.2	8.0	9.3	好	繊密	内) 青灰地 外) 黑褐色	S202
676	罐	13.0	2.4		好	緻密	深灰色	S112
677	罐	6.5	6.5	6.6	好	緻密	青灰地	S112
678	罐	6.0	6.6	6.7	好	緻密	深灰色	
679	罐	5.1	9.0	9.0	好	緻密	深灰色	
680	罐	11.0	4.1		好	緻密	内) 青灰地 外) 青灰地	S209
681	罐	11.0	5.5		好	緻密	内) 黄褐色 外) 黑褐色	
682	罐	13.2	3.6		好	緻密	灰白色	
683	罐	5.1	11.0		好	緻密	深灰色	S112
684	罐	7.4	11.5		好	緻密	内) 青灰地 外) 黑褐色	
685	罐	11.1	12.3		好	緻密	深灰色	
686	罐	6.0	13.0		好	緻密	深灰色	
687	短口壺	7.0	6.8	13.4	良好	緻密	内) 青灰地 外) 黑褐色	S206
688	直口壺?	9.4	4.6		良好	緻密	内) 青灰地 外) 黑褐色	S114
689	壺?	10.0	4.5		好	緻密	深灰色	
690	直口壺	6.4	3.8		好	緻密	深灰色	
691	小壺	6.3	4.9	6.4	好	緻密	内) 青灰地 外) 黑褐色	S206
遺物番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考
692	壺	44.0	18.5		好	緻密	青灰地	S222
693	壺	42.0	7.4		好	緻密	内) 深灰色 外) 茶葉褐色	
694	壺	31.8	5.5		好	緻密	青灰地	
695	壺	30.0	3.9		好	緻密	内) 深灰色 外) 黑褐色	
696	壺	36.0	41.0	73.0	やや不良	緻密	深灰色	S203
697	壺	22.0	6.8		好	緻密	内) 深灰色 外) 黑褐色	
698	橢瓶	13.5	4.8		好	緻密	青灰地	
699	壺	20.7	5.6		好	緻密	茶葉褐色	
700	壺	13.4	9.0		好	緻密	灰褐色	
701	壺	9.4	9.3	16.6	好	緻密	青灰地	
702	壺	14.0	15.7	20.0	好	緻密	乳白色	
703	壺	17.8	40.0	39.7	やや不良	緻密	灰褐色	
704	壺				好	緻密	白褐色	
705	壺	34.4	7.4		やや不良	緻密	深灰色	
706	壺	34.0	6.0		好	緻密	青灰地	S205
707	壺	24.0	4.7		好	緻密	青灰地	
708	壺		3.8	8.0	好	緻密	青灰地	
709	壺	20.1	5.0		好	緻密	灰褐色	

表18 97年度長砂第3遺跡 出土遺物觀察表(須恵器)

遺物番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考	
710	平蓋	12.6	5.5		不良	密	乳白色		
711	平蓋	12.6	4.0		良好	密	内) 灰色 外) 鹿皮色		
712	平蓋	13.4	6.2		不良	密	乳灰地		
713	平蓋	12.6	4.6		良好	密	灰褐色		
714	平蓋	13.0	4.1		好	緻密	内) 灰色 外) 深灰色		
715	平蓋	10.0	4.4		良好	密	内) 灰色 外) 深灰色		
716	平蓋	12.0	3.7		良好	密	灰褐色		
717	平蓋	14.6	3.7		良好	密	灰褐色		
718	平蓋	13.0	3.65		不良	密	乳白色		
719	平蓋	11.0	3.0		良好	密	乳白色		
720	平蓋	10.4	4.9		良好	密	灰褐色		
721	平蓋	12.0	4.8		良好	密	灰褐色		
722	平蓋	14.4	4.7		不良	密	灰褐色		
723	平蓋	12.6	3.5		良好	密	灰褐色		
遺物番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考	
724	耳杯	11.8	5.6	14.4	良好	密	内) 灰色 外) 深灰色		
725	耳杯	10.2	5.5	12.8	良好	密	内) 灰色 外) 青灰色		
726	耳杯	10.4	5.8	12.4	良好	密	灰褐色		
727	耳杯	10.0	5.4	11.8	良好	南嶺青竹着	灰褐色		
728	耳杯	12.4	5.9	14.6	良好	密	内) 灰色 外) 深灰色		
729	耳杯	10.4	6.1	12.8	良好	南嶺青竹着	内) 灰色 外) 深灰色		
遺物番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考	
730	高足(西耳)	13.0	6.0	2.4	良好	密	灰褐色		
遺物番号	器種	口径(cm)	受盤径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	胎土	色調	備考
731	高足(有蓋)	9.5	12.0	5.6		好	緻密	漆青灰地	
732	高足(有蓋)		12.8	9.0	8.0	好	緻密	内) 明灰色 外) 深灰色	
733	高足(有蓋)	11.5	14.1	6.4		良好	密	深灰色	
734	高足(有蓋)	8.5	11.3	8.1	8.2	好	緻密	内) 灰色 外) 深灰色	
735	高足(有蓋)	11.9	13.9	10.3	9.2	良好	密	内) 深灰色 外) 漆青灰地	
736	高足(有蓋)	11.2	13.6	5.0		好	密	灰褐色	
737	高足(有蓋)	11.0	13.8	5.0	8.6	好	緻密	内) 灰色 外) 深灰色	
738	高足(有蓋)	16.0		8.6		好	緻密	内) 灰色 外) 青灰色	
遺物番号	器種	口径(cm)	受盤径(cm)	器高(cm)	最大側径(cm)	焼成	胎土	色調	備考
739	罐	11.1	7.0		7.0	中や不良	やや粗	漆灰地	

表19 長砂第3遺跡 出土遺物觀察表(石製品類)

査定番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	備考
749	打製石斧	12.0	6.9	2.6	287.5	
741	磨製石斧	12.6	5.9	4.5	500	
742	磨製石斧	13.6	7.2	3.2	530	
743	磨製石斧	10.5	6.5	4.4	350	SI12
744	磨製石斧	13.6	6.7	5.5	600	
745	磨製石斧	8.0	4.8	2.9	100	
746	磨製石斧	9.9	6.1	3.7	270	
747	磨製石斧	13.0	4.3	4.3	400	
748	磨製石斧	9.2	5.6	3.6	200	
749	磨製石斧	7.6	6.4	3.5	160	SI12
750	叩石		11.0	5.4	700	
751	叩石	10.0	11.7	4.2	500	
752	叩石	11.0	7.0	6.6	460	
753	叩石	13.5	13.5	4.3	800	
754	すり石	11.2	10.9	4.7	590	
755	叩石	11.5	13.4	4.7	1050	
756	敲石	8.3	7.4	0.4	460	
757	敲石	10.1	6.7	2.8	330	
758	石錐	3.3	7.7	2.2	100	
759	石製品	6.6			40	
760	石皿	20.9	25.2	4.0	3350	
761	敲石	32.4	11.4	8.4	4290	
762	敲石	26.0	7.3	11.1	2650	
763	敲石	21.2	12.5	6.8	2020	
764	敲石	10.5	15.5	6.2	2600	
765	敲石	13.1	7.9	2.4	600	
766	敲石	11.0	4.7	2.85	210	
767	敲石	11.6	5.7	4.4	420	
768	敲石	12.6	5.3	5.4	440	SI12
769	敲石	29.1	10.45	7.6	2150	
770	敲石	15.7	7.1	7.0	820	
771	撲等敲石	7.8	2.2	1.1	24.7	
772	撲等敲石	7.4	2.7	2.6	504	
773	敲石	7.3	2.1	1.9	36.8	SI12

査定番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	備考
788	石鏡	2.0	1.6	0.3	1.0	サスカイト	
789	石鏡	1.3	1.1	0.2	0.3	サスカイト	
790	石鏡	1.8	1.5	0.4	0.7	サスカイト	SI12
791	石鏡	1.3	1.6	0.3	0.5	サスカイト	
792	石鏡	3.2	2.0	0.5	2.2	サスカイト	
793	石鏡	2.5	1.5	0.4	1.1	サスカイト	
794	石鏡	2.6	1.8	0.5	2.0	サスカイト	
795	石鏡	2.8	1.7	0.4	1.2	サスカイト	SI11

査定番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	備考
796	勾玉	3.1	1.1		3.7	上	
797	勾玉	2.8	1.2	0.8	5.3	ガラス	SI12
798	勾玉	2.1	0.9	0.6	1.9	滑石	
799	管五	2.2	0.7		0.9	ガラス	
800	管玉	2.1	0.75		1.6	ガラス	
801	管玉	1.7	0.65		1.2	ガラス	
802	管玉(未完成)	2.1	0.5	0.5	0.8	緑色萤灰岩	
803	管玉	2.5	0.5	0.5	0.6	緑色萤灰岩	
804	管玉(未完成)	1.5	0.5	0.4	0.4	緑色萤灰岩	
805	管玉(未完成)	1.5	0.5	0.5	0.5	緑色萤灰岩	
806	管玉(未完成)	1.5	0.5	0.5	0.3	緑色萤灰岩	SI11
807	管玉	1.4	0.5	0.4	0.2	緑色萤灰岩	SI11
808	管玉(未完成)	2.1	0.6	0.5	0.6	緑色萤灰岩	SI11
809	管玉(未完成)	2.6	0.7	0.6	0.6	緑色萤灰岩	SI11
810	管玉(未完成)	2.8	0.8	0.8	1.6	緑色萤灰岩	SI11
811	管玉(未完成)	2.4	1.6	0.8	1.6	緑色萤灰岩	SI11
812	つづき玉	0.85	0.95		1.1	ガラス	
813	なごみ玉	0.4	0.6		0.1	滑石	
814	小玉	0.4	0.4		0.1	ガラス	SI12
815	小玉	0.3	0.3		0.1	ガラス	SI12
816	小玉	0.3	0.3		0.1	ガラス	SI12
817	小玉	0.4	0.3		0.1	ガラス	
818	小玉	0.3	0.4		0.1	ガラス	
819	小玉	0.35	0.4		0.1	ガラス	
820	なごみ玉	0.45	0.5		0.15	滑石	
821	口玉	0.3	0.5		0.1	滑石	
822	白玉	0.3	0.5		0.1	滑石	
823	白玉	0.15	0.6		0.05	滑石	
824	口玉	0.5	0.15		0.05	安山岩	
825	白玉	0.25	0.5		0.1		SI12
826	白玉	0.4	0.6		0.15		SI12

査定番号	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	材質	備考
827	劍頭					鋼	
828	キセラ	6.0	2.8		8.6	銅	
829	劍頭	2.3			0.1	銅	
830	劍頭	4.8	2.3		2.0	銅	
831	刀干	1.9	2.3		0.4	銅	
832	刀干	5.7	1.6	1.3	12.3	銅	



調査前



SI-01



SI-02



SI-02

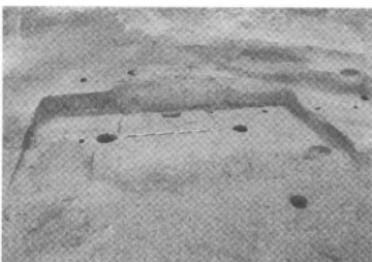


遺物出土状況

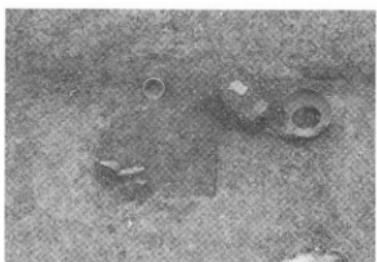
図版2 (長砂第3遺跡)



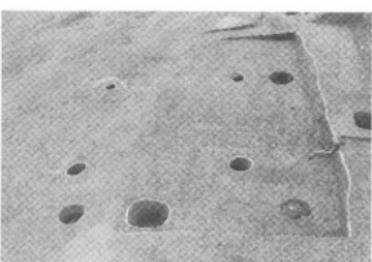
SI-03



SI-04



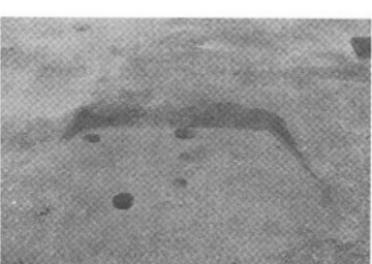
SI-04 遺物出土状況



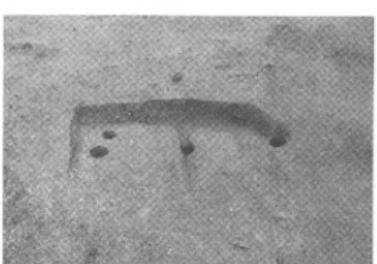
SI-08



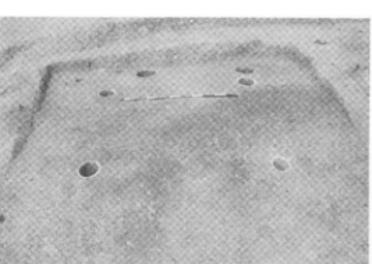
SI-09・SS-01



SI-06



SI-07



SI-10

図版3（長砂第3遺跡）



SI-11



SI-10・11



SI-12・13



SI-12・13



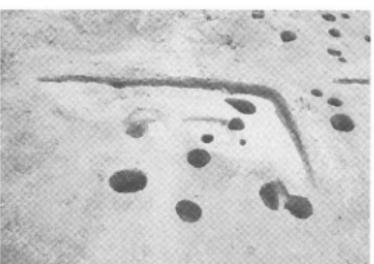
作業風景



SI-14・15



SI-17



SI-18

図版4  
(長砂第3遺跡)



SI-20



SI-21



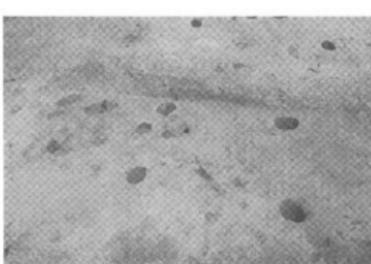
SI-22・23



SI-23



SB-04



SB-05

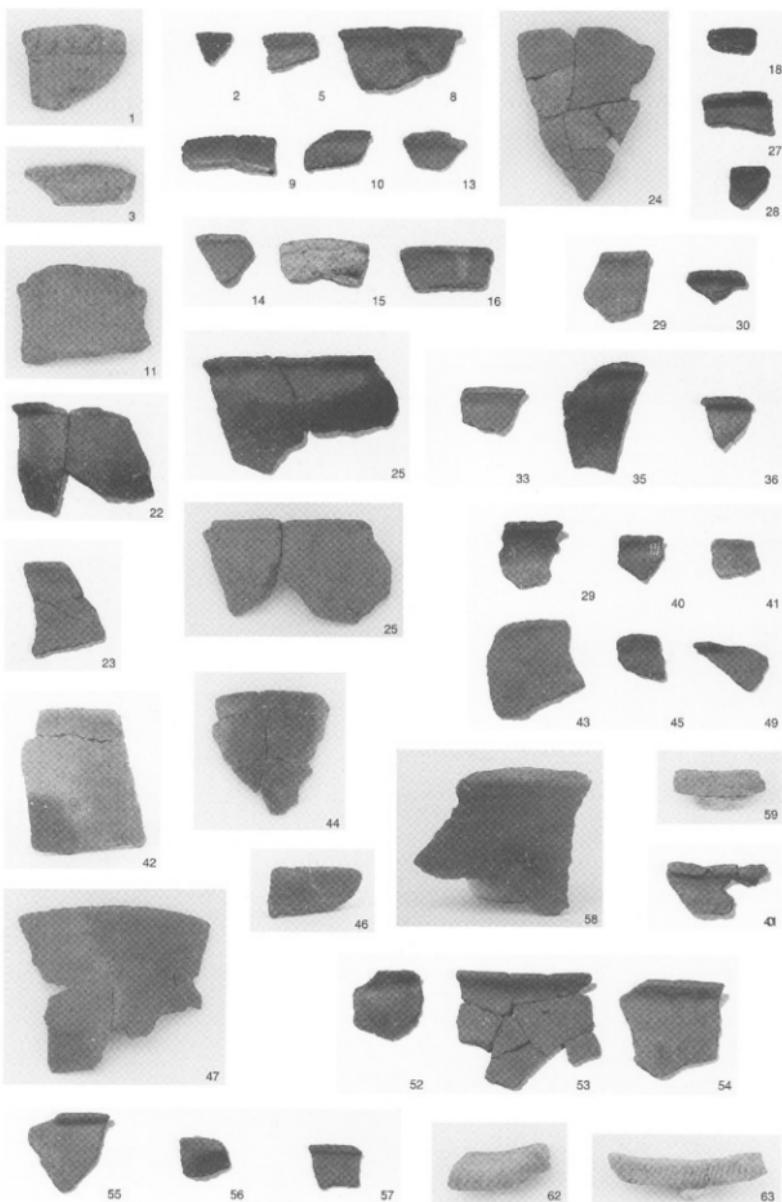


SB-06

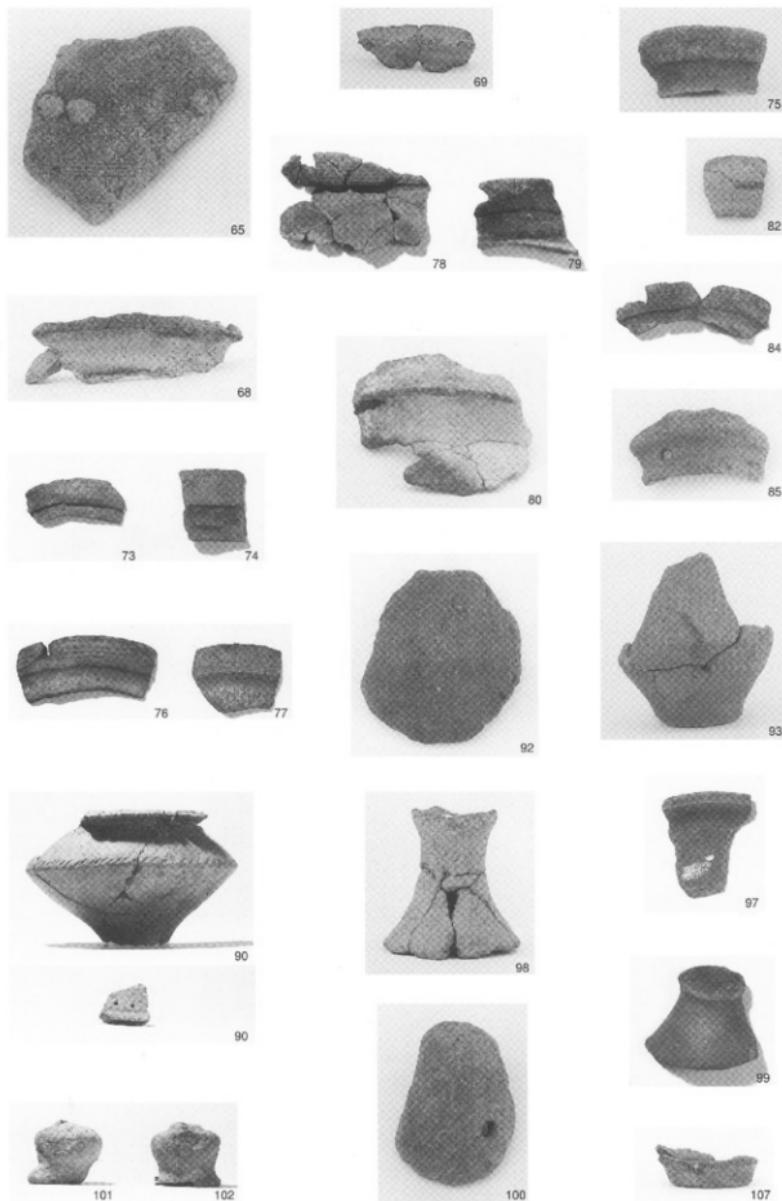


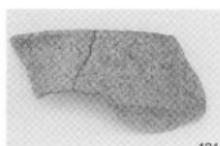
SB-07

図版5 (長砂第3遺跡)



図版 6 (長砂第3遺跡)

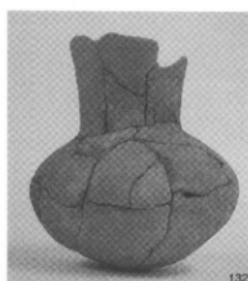




124



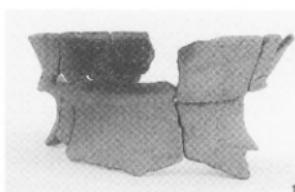
128



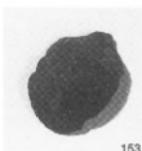
132



126



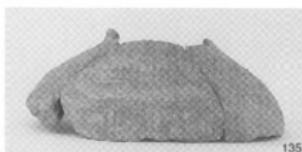
127



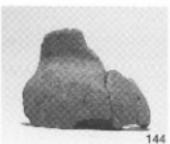
153



137



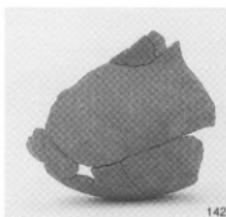
135



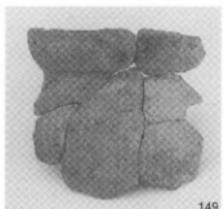
144



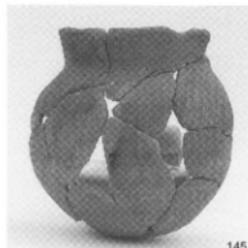
141



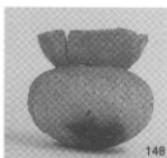
142



149



145



148

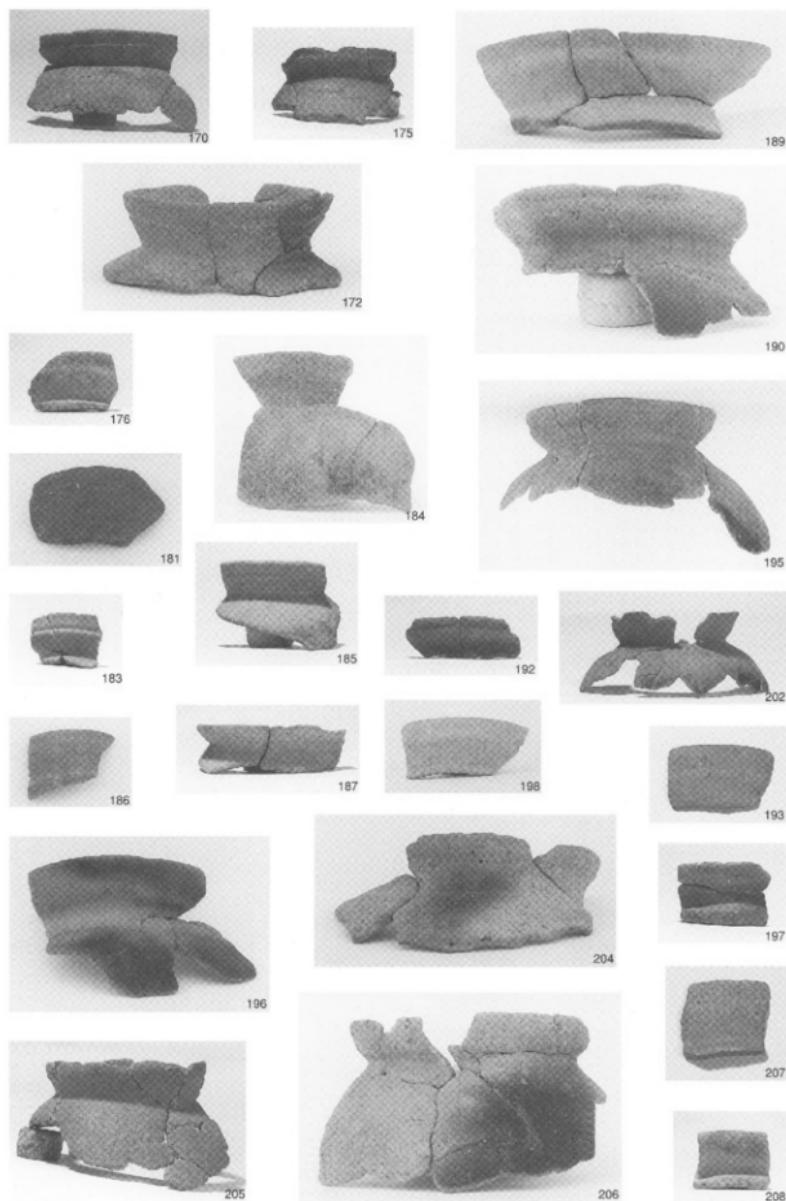


150

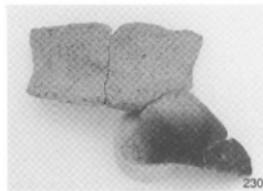
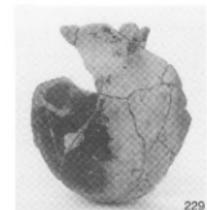
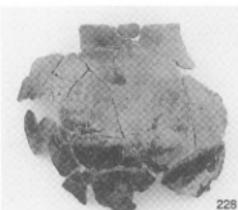


154

図版8 (長砂第3遺跡)



図版9（長砂第3遺跡）



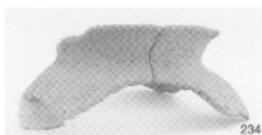
228

229

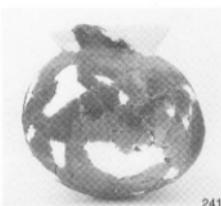
230



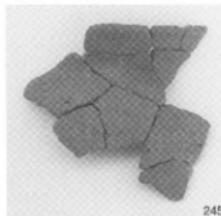
231



234



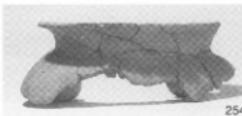
241



245



248



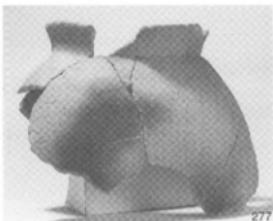
254



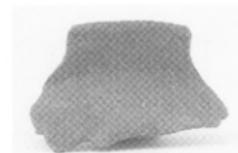
255



269



277



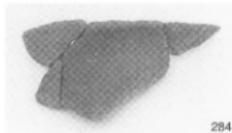
281



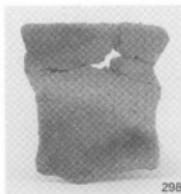
268



294

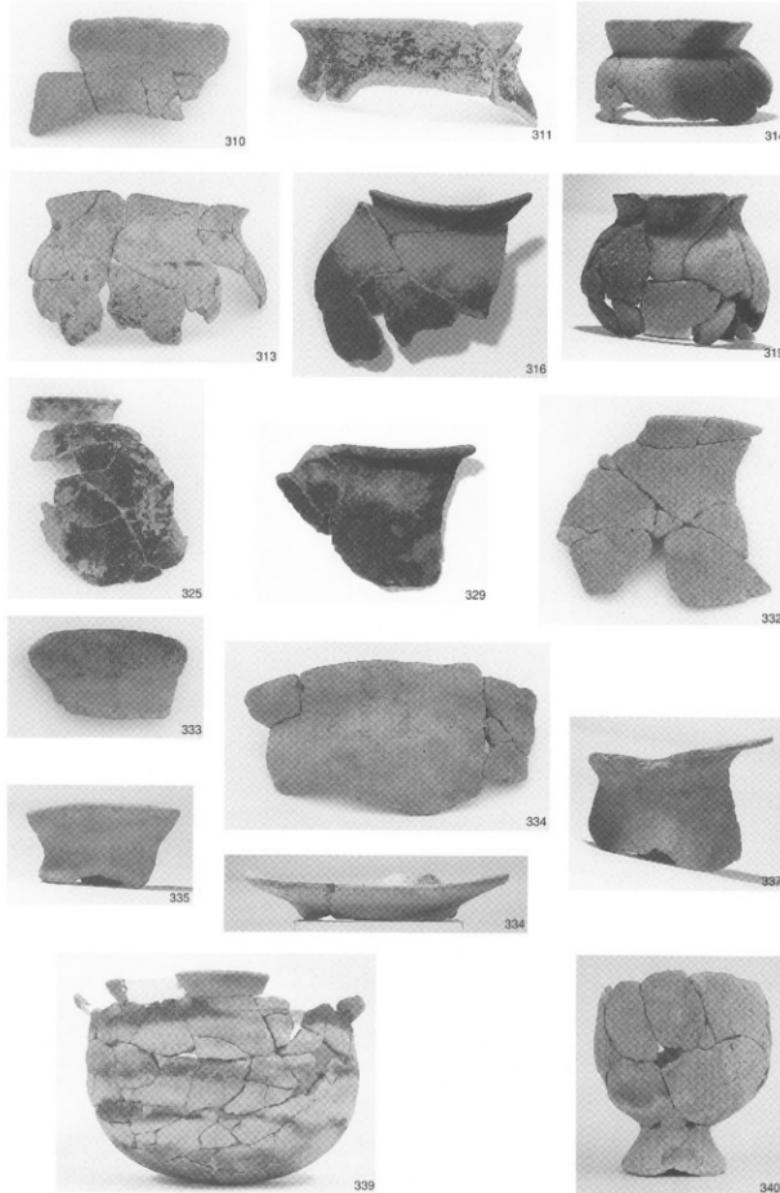


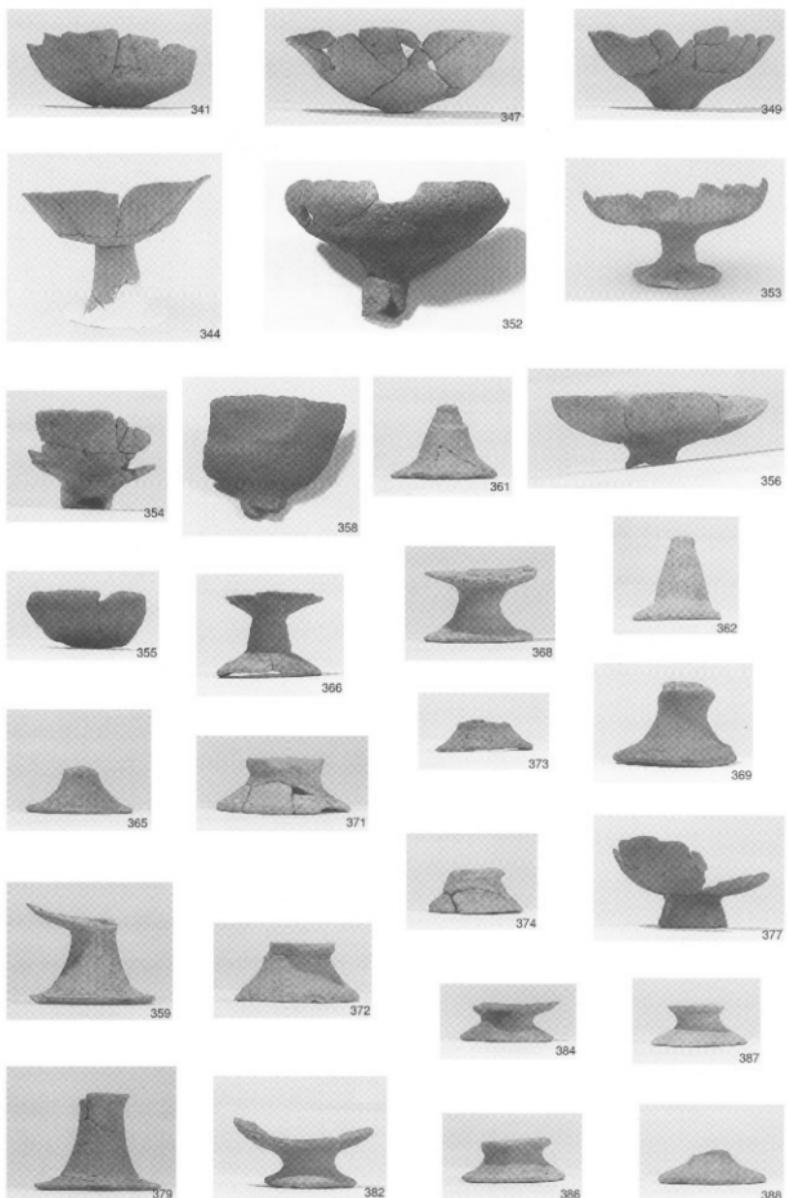
284



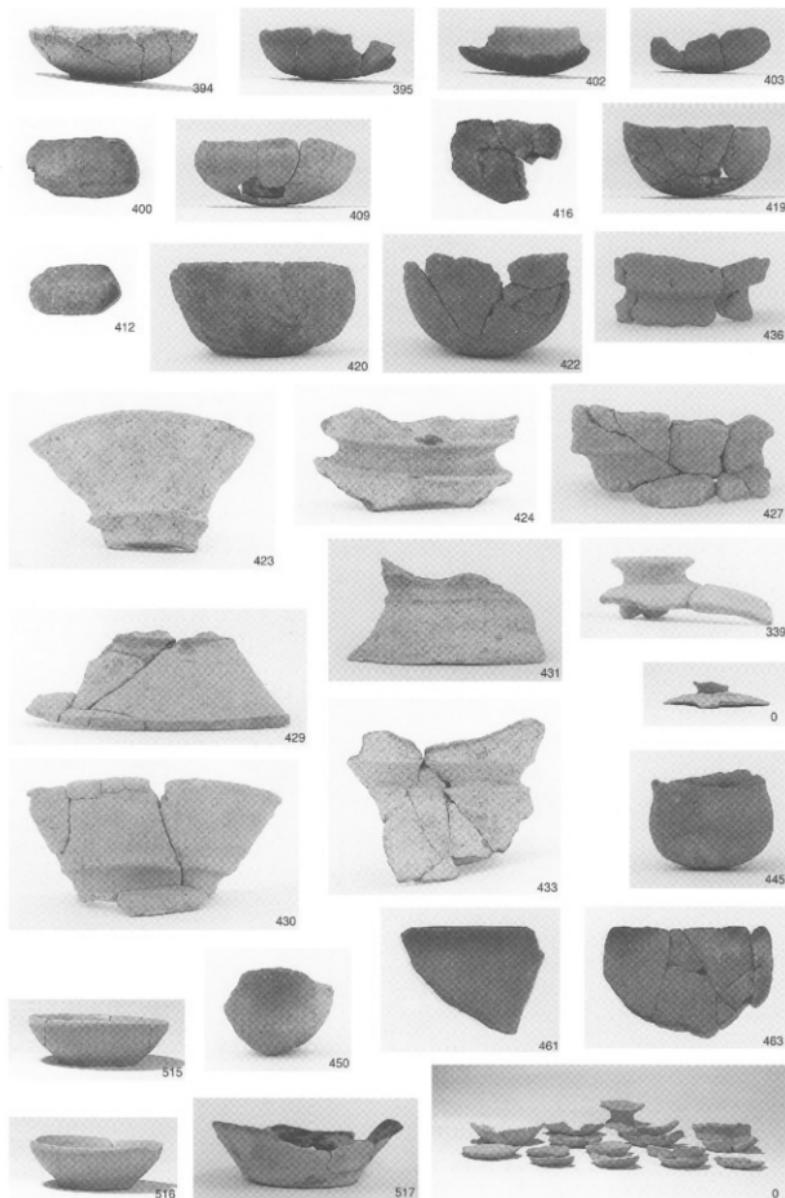
298

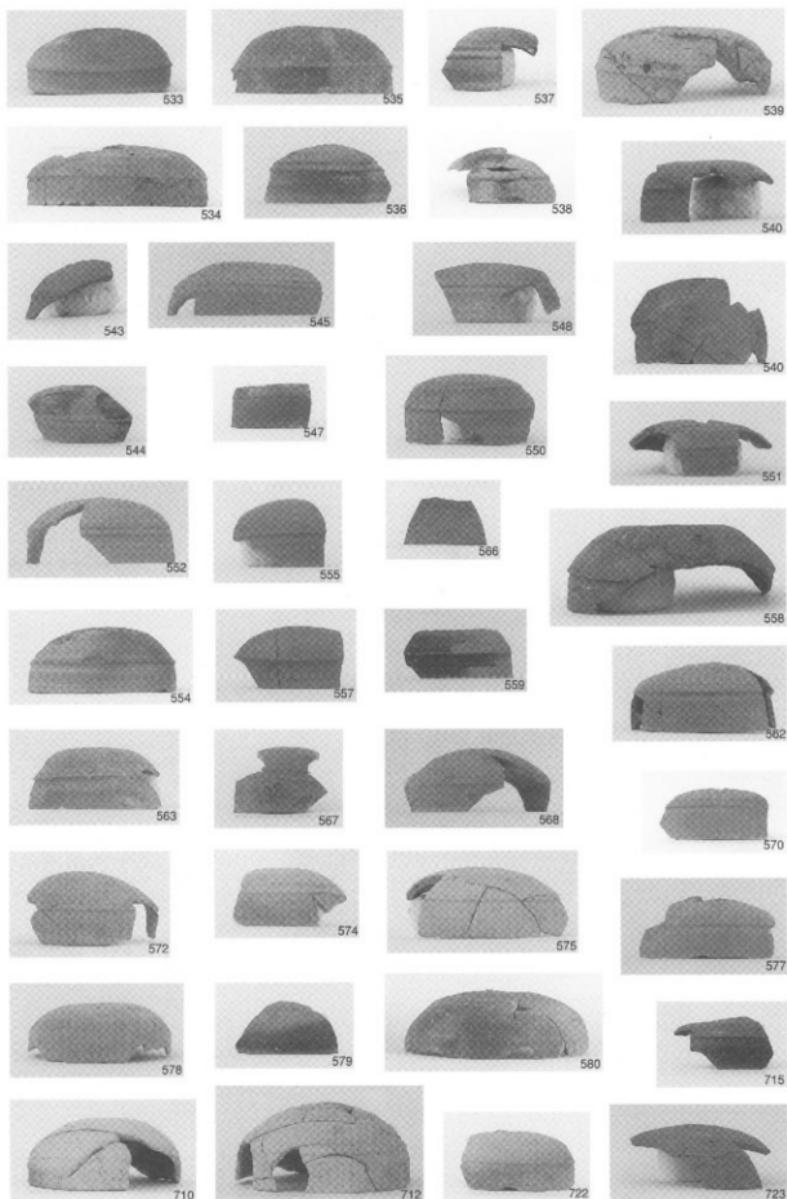
図版 10  
(長砂第3遺跡)



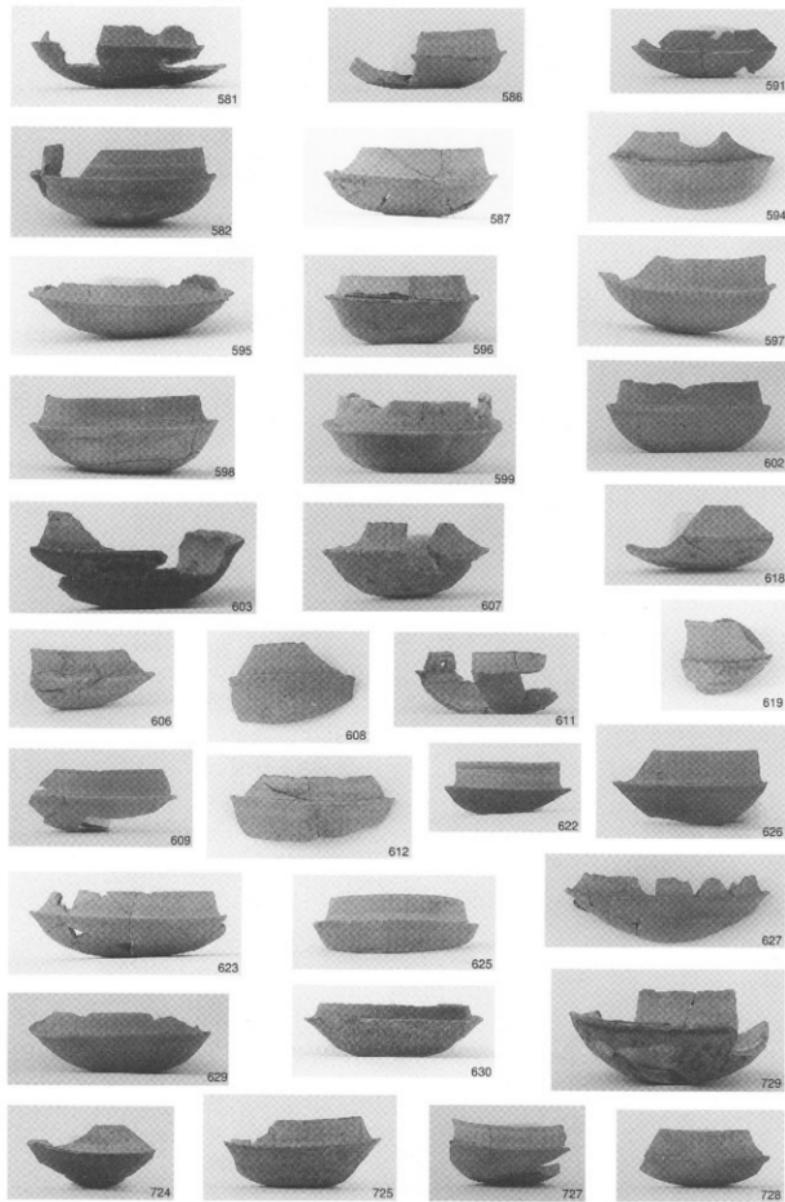


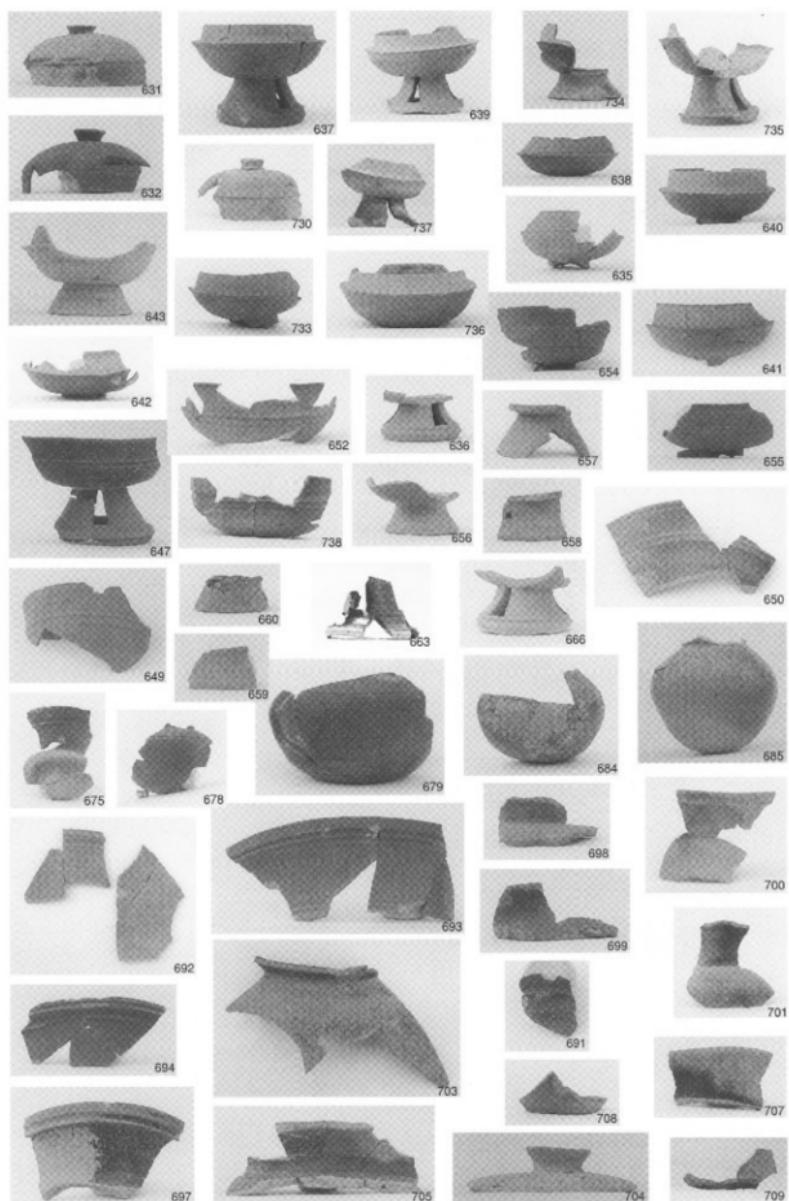
図版 12  
(長砂第3遺跡)



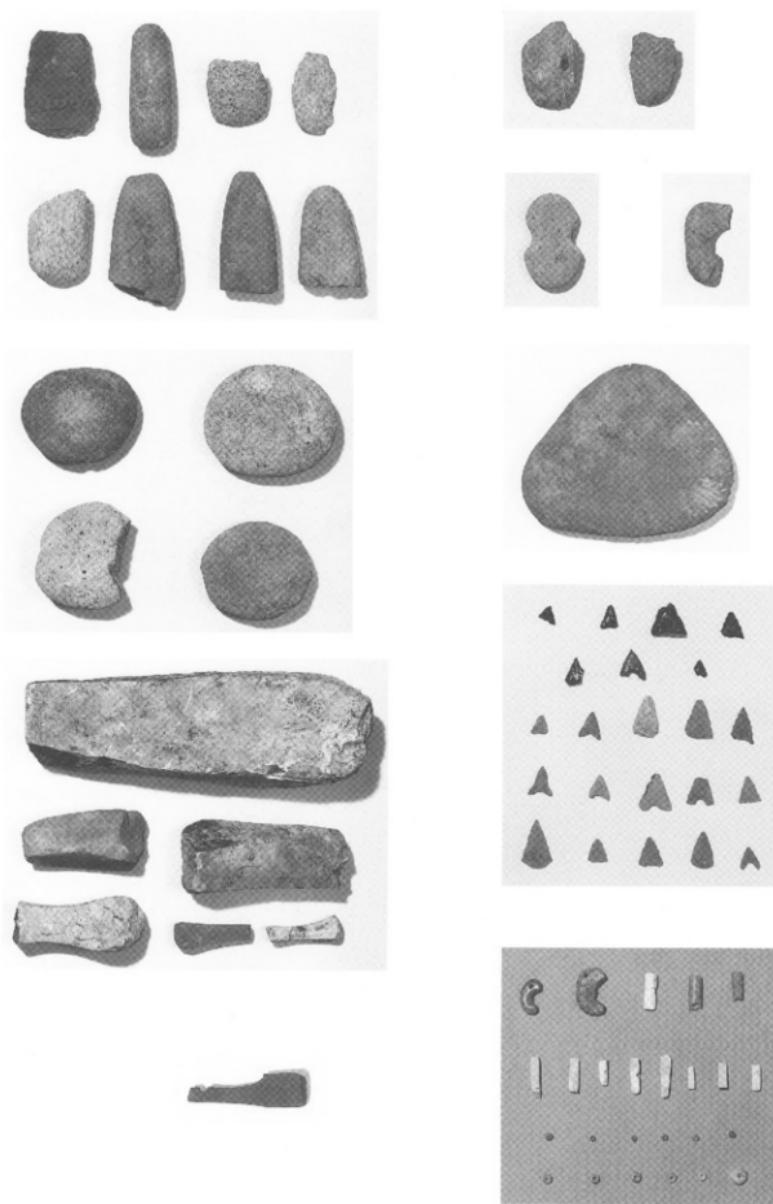


図版 14  
(長砂第3遺跡)





圖版 16  
(長砂第3遺跡)



# 報告書抄録

ふりがな	ながすなだい3いせき							
書名	長砂第3遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	(財)米子市教育文化事業団 文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	29							
編著者名	平木裕子							
編集機関	(財)米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒683-0822鳥取県米子市中町20 TEL0859-22-7209							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
ながすなだい3いせき 長砂第3遺跡	よなごしながすなだいよう 米子市長砂町 20番地他	市町村番号	遺跡番号			19980420 19981014	5,000m <sup>2</sup>	公園整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ながすなだい3いせき 長砂第3遺跡	集落跡	弥生時代後期 古墳時代	竪穴住居址 テラス状遺構 掘立柱建物跡	弥生土器・土師器 須恵器・石斧・石鏃 砥石・管玉・勾玉 銅鏡・銅錢				

(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書29

## 長砂第3遺跡

1999年3月

編集・発行 財団法人 米子市教育文化事業団

〒683-0822 鳥取県米子市中町20

印 刷 (有)米子プリント社